令和３年度

年　次　報　告　書

分冊：教員の年間活動報告

神　戸　常　盤　大　学

神戸常盤大学短期大学部

目　次

頁数

１．保健科学部　医療検査学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２～２４

２．保健科学部　診療放射線学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５～３９

３．保健科学部　看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０～７１

４．教育学部　こども教育学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２～９５

５．短期大学部　口腔保健学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６～１１１

６．短期大学部　看護学科通信制課程・・・・・・・・・・・・・１１２～１１９

個人年間活動報告書

教員名	坂本秀生	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	医療検査学科長、PCRセンター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	M科：臨床検査入門、医学概論、検査機器総論、分子細胞生物学、医療英語、細胞培養演習、BLSキャリアパスI・II、チーム医療論、文献講読、遺伝子工学、遺伝子工学演習、検体採取安全管理演習、臨床検査学演習、先進医学検査学、国際保健医療活動I、国際保健医療活動II、卒業研究 N科：チーム医療論、国際保健医療活動I、国際保健医療活動Ⅱ O科：遺伝子と再生医療				
担当科目コマ数	7.10				

本年度の課題

円滑な学科運営
臨地実習指導者講習会の円滑な準備と運営システムの構築

本年度の目標

学科内の情報連絡をスムーズにする
2022 年入学生に向けた新カリキュラムの構築

主な活動内容

1）教育活動
欠席や遅刻が多いなど成績が低迷する学生に対し個別面談及び電話やメールを通じた指導を行うだけでなく、保護者へも電話にて学生サポートの協力願いを行った。大学院進学希望の学生に対して学習指導を行い、東京医科歯科大学大学院へ進学した。

2）研究活動
研究テーマ：POCTの効果的利用
研究の現状：COVID-19の感染拡大に伴い、POCTの利用に関する認識が高まり、POCTの正しい利用方法の普及など、研究経験が実用化に役立っている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 2 回）　論文（ 3 編）

3）社会的活動等
日本臨床検査学教育協議会　理事長、アメリカ臨床病理学会　国際資格 日本諮問委員会委員長、日本臨床化学会 理事　国際交流委員長、日本臨床検査医学会　評議員　チーム医療委員、日本医療検査科学会　評議員　POC 技術委員会　幹事、日本臨床衛生検査技師会 国際 WG 委員、日本臨床検査同学院　理事　POCT 部長

今後の課題

臨床検査技師教育を行う学校の団体である、日本臨床検査学教育協議会 理事長として、令和４年入学者から導入される、臨床検査技師卒前教育の実施が円滑に進むよう、本学だけでなく全国での動きを注視し、臨床検査技師教育をより良い内容にできるようにする。

個人年間活動報告書

教員名	安藤啓司	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	健康保健センター長、就職委員				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	生理機能検査学ＩB、生理機能検査学ⅡA、生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学Ⅲ、検体採取安全管理学演習、人体のふしぎ、卒業研究。				
担当科目コマ数	10.83				

本年度の課題

講義内容の充実。担当学生との面談機会を増やす。

本年度の目標

就職委員として、できるだけ学生の就職活動を援助する。

主な活動内容

1）教育活動

新たに「人体のふしぎ」を担当した。学内臨地実習を行い従来行っていなかった実習項目（デジタル脳波計による脳波解析、体性感覚誘発電位）を新たに導入された機器で実施した。

2）研究活動

研究テーマ：歩行解析

研究の現状：解析アルゴリズムを改善している。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　０回）　論文（　　０編）　著書（　　１冊）

3）社会的活動等

日本生理学会評議員

今後の課題

本年度退職のため特になし。

個人年間活動報告書

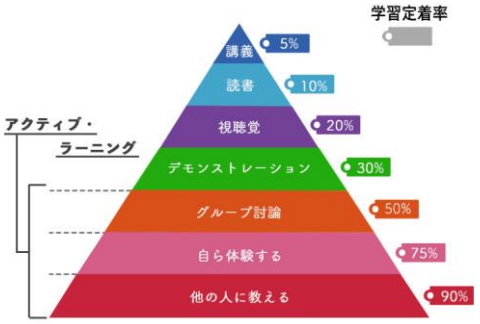
教員名	畠　榮	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員長、カリキュラム委員長、危機管理委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習、医学概論、臨床病理検査学、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病検査学実習Ⅱ、細胞検査学演習、臨床検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、組織学実習、臨床検査サプリメント演習Ⅰ，臨床検査サプリメント演習Ⅱ、病理学（臨床放射線学科）				
担当科目コマ数	14.17				

本年度の課題

・第 68 回臨床検査技師国家試験の合格率の向上
・M4 年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上
国試対策 e ラーニングシステム「国試 SapRe（本学開発システム」の活用
・細胞診養成課程の高い合格率の維持
・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実
・組織学・臨床病理検査学ⅠⅡでの Sub Notebook の有意義な活用法の検討

本年度の目標

・臨床検査技師国家試験合格率のさらなる向上
下位学生への教育体制の確立
・細胞診養成課程の合格率 100%
・授業以外の学修教材の充実（動画を作成し Web 形式での e ラーニングシステム）
・ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業
学修者である生徒が受動的となってしまう授業を行うのではなく、能動的に学ぶことができるような授業を行う学修方法を取り入れた授業の確立



ラーニング・ピラミッド

主な活動内容

1) 教育活動

・**細胞診養成課程の合格率100%**の維持を目的とした教育改革：

iPadを用いた細胞診教育システム

細胞所見を理解するためには、どのような病理組織所見であるかを理解することが重要と考えられる。そのために病理組織所見との対比ができる症例の充実

・病理学を含む病理検査学の教育体制の充実：

クラウドを用いた、病理検査学および細胞診断学講義用ファイルの一括管理および臨床病理検査学で使用する講義に即した**Sub Notebookの編集**

・臨床現場で経験した病理肉眼像および病理組織画像を用いた教育：

臨床現場で蓄積した実際の症例を用いた教育

・ラーニングピラミッドを応用した、アクティブラーニングを用いた授業

・国試対策eラーニングシステム**「国試SapRe（本学開発システム）」**の活用

2) 研究活動

研究テーマ： 体腔液による悪性中皮腫の診断基準の作成

研究の現状： 石綿・中皮腫研究機構・日本肺癌学会での『中皮腫取扱い規約　第1版』の出版を行うことにより、日本での中皮腫細胞診診断に大きく寄与できる。

本年度の研究業績：詳細は「研究実績報告書」を参照

学会発表 5回（ シンポジウム 1 回、ワークショップ 2回、講演 2回）

論文 4編　　著書（ 4冊 共著）

3) 社会的活動等

・独立行政法人環境再生保全機構　石綿健康被害救済部　中皮腫細胞診実習研修会講師および実務委員

・中皮腫細胞研究会　副代表幹事

・日本臨床細胞学会　功労会員

・LBC（Liquid based cytology）研修会 in 滋賀　実行委員長

・日本臨床細胞学会岡山細胞検査士会　幹事

今後の課題

学内教育　：4 年の成績不振学生の指導体制の確立ならびに国家試験合格率の向上
細胞診養成課程の合格率 100%を一番の目標とする。
「2023 版 臨床検査技師国家試験対策マスタードリル」の完成と、
それを用いた教育

社会的活動：独立行政法人環境再生保全機構中皮腫細胞診実習研修会で講師として
細胞検査士の診断レベルの向上
・細胞検査委の卒後教育および細胞検査士育成に用いる著書の執筆

個人年間活動報告書

教員名	林 伸英	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員長、遺伝子組換え実験安全委員長				
クラス担任	医療検査学科２学年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	臨床化学検査学Ⅰ、臨床化学検査学Ⅱ、臨床化学検査学実習、検査管理総論、臨床検査学演習、臨床検査入門、医学概論、医療安全、総合医学検査特論、総合医学検査演習、大学道場miniゼミ、卒業研究				
担当科目コマ数	11.23				

本年度の課題

１．学生にわかりやすい授業・実習を行う。
２．臨地実習施設のさらなる拡大、指定規則改正に伴う臨地実習の運営計画
３．研究活動の充実：論文作成（神戸大学病院との共同研究）

本年度の目標

１．学生の興味を引くわかりやすい授業・実習を継続して行う。
２．指定規則改正に伴う臨地実習の運営を計画する。
３．論文の作成（神戸大学病院との共同研究）を目指す。

主な活動内容

1）教育活動

新型コロナに対応した遠隔・対面授業で行った。臨床化学検査学、検査管理総論は、国試対策を意識した教科書にそった授業が必要と考えられる。その反面、平坦な授業とならないように動画を使ったプレゼン等を挟み込んで学生が興味を持てるような講義になるように努めた。

2）研究活動

研究テーマ：抗DFS-70抗体の研究（神戸大学医学部附属病院との共同研究）
研究の現状：測定は終了しているので、データをまとめ、論文を作成する。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　1　冊）

3）社会的活動等

日本臨床検査医学会 評議員、生物試料分析科学会 評議員
査読：医学と薬学 ３遍

今後の課題

１．遠隔授業を含めて、授業内容の工夫をさらに検討する。
２．臨地実習施設の拡大を目指す。
３．研究活動を継続する。：論文作成（神戸大学病院との共同研究）

個人年間活動報告書

教員名	栃倉匡文	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生部長、学生相談室委員、健康保健センター委員、卒研委員長				
クラス担任	4年Aクラス担任および学年責任者	クラブ顧問	なし		
担当科目名	①医療検査学科：公衆衛生学I、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習、医動物学・同実習、免疫検査学、免疫検査学実習、分子感染制御学演習、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習　②看護学科：公衆衛生学　③全学：大学道場 miniゼミA				
担当科目コマ数	11.17				

本年度の課題

・苦手科目に対する学習意欲を喚起する方策の検討
・遠隔授業の充実
・研究の発展

本年度の目標

・国家試験での得点率を上げる（公衆衛生学）。
・補足プリントを使って授業内容に興味を持たせ、遠隔授業に積極的に参加させる。
・専門誌に論文を投稿する。

主な活動内容

1）教育活動
・公衆衛生学は学習範囲が広く、苦手にしている学生が多い。実際に国家試験での得点率が低いのが毎年の課題となっている。これまで臨床検査技師の国家試験には医師国家試験の過去問からも多数出題されていることから、今年度の特論では受験生の学習意欲と学習効果の向上を目指し、医師国家試験の過去問を中心に解説を行った。
・チューターとして成績不振者を対象に面談を行い、丁寧に指導を行った。
・学生委員として奨学金連続警告対象者の電話による聴き取りと指導を行った。
・臨床検査技師 国家試験対策マスタードリル 2022（医学書院）分担執筆

2）研究活動
研究テーマ：FIV感染細胞を標的とした抗体依存性細胞傷害作用について
研究の現状：１つの論文としてまとまりそうなので、現在その準備を進めている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・高校ガイダンス（10 月 22 日 相生高校訪問）・京都文化医療専門学校 非常勤講師

今後の課題

・医師国家試験の過去問だけでなく、医学生向けの問題集に集められている予想問題も積極的に取り入れ、受験生のやる気を引き出す。
・昨年、一昨年の研究結果をもとに、研究をさらに発展させる。

個人年間活動報告書

教員名	松元英理子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会（副委員長）、認証評価準備委員会（委員長） ときわ教育推進機構、FAST等企画運営ユニット				
クラス担任	M2　Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎生物、臨床検査入門、生命科学、遺伝子・染色体検査学、遺伝子・染色体検査学実習、臨床検査学発展演習、医療英語、卒業研究、総合医学検査学特論、総合医学検査学演習、大学道場miniゼミB、現代社会と生命科学、基礎生物学(R)				
担当科目コマ数	10.17				

本年度の課題

①遠隔授業では、ただ対面授業を再現するだけでなく、遠隔授業のメリットを生かした新しい試みも必要である。②解析機器の故障等により従来の研究テーマの継続が困難なため、新たな研究テーマを構築する必要がある。

本年度の目標

①2 年目の遠隔授業をブラッシュアップする。
②アルコール代謝関連遺伝子に関する新たな研究をスタートさせる。

主な活動内容

1）教育活動

　遠隔授業は昨年度に引き続き、パワーポイントのスライドショーのYouTubeへの公開とmanabaのプロジェクト機能を用いたグループワークを実施した。スライドショーではアニメーションを追加するなどして、学生の興味・集中を切らさないような工夫を加えた。授業評価では、遠隔授業の動画にクイズを取り入れたことで「参加型の授業形式で行われたので（遠隔でも）授業に参加していると実感できた。」とのコメントが寄せられ、一定の効果が得られた。

2）研究活動

研究テーマ：感染リスクの低い検体を用いたヒトアルコール代謝酵素*ALDH2*遺伝子および*ADH1B*遺伝子多型解析方法の検討

研究の現状：毛根、毛髪、爪を用いて複数のDNA抽出方を比較検討し、新型コロナウイルス感染リスクの低い遺伝子多型解析方法について一定の進展が得られた。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

　学会発表（　　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

①対面授業が中心となっていくが、遠隔授業で得た授業スキルを対面にも取り入れて、より良い授業を作る。
②毛根を用いたアルコール代謝酵素遺伝子多型解析についてさらに研究を進展させる。

個人年間活動報告書

教員名	堀江　修	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会　副委員長、卒研委員会、就職委員会、入試委員会、学科研究倫理委員会				
クラス担任	４年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理学Ⅰ・Ⅱ、血液学、血液検査学、血液検査学実習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究、労働衛生学Ⅱ、予防医学概論、環境生理学、看護解剖生理学Ⅰ、BLSキャリアパスⅠ・Ⅱ、臨床検査学演習、総合医学検査演習				
担当科目コマ数	13.53				

本年度の課題

滞りなく、学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をすべての教科において行うこと。

本年度の目標

教育目標は、学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をすべての教科において完成させること。講義プリントの直前配布を事前配布とすること、レポート判読を充実させつつすぐに返却すること。研究目標は、停滞していた研究活動を再開し、学会発表を２本、論文を１本完成させたい。

主な活動内容

1）教育活動

学生にとってわかりやすく、自分の理解も深まるような基本的な講義をほとんどの講義科目で行うことができたが、看護解剖生理学Ⅰ、生理学Ⅰ・Ⅱの３科目でできなかった。実習科目はレポートの内容をよく読めたが、レポート返却は遅れた。

2）研究活動

研究テーマ：「サイトカインストームに関する研究」、「新興感染症制御の国際標準化と看護学への応用を目指したサーモグラフィ」、「放射温度計によるCOVID-19判定ガイドラインと看護師の暴露予防システムの構築」

研究の現状：COVID-19重症化の鍵を握るとも言われるサイトカインストーム時にはregulatory系細胞も細胞傷害を起こす可能性はあったが、統計的な有意差を示すことはできていない。サーモグラフィ研究では、コロナ禍において研究は進まなかった。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　０回）　論文（　　０編）　著書（　　０冊）

3）社会的活動等

兵庫県のコロナワクチン打ち手としてのべ３日間参加した。

今後の課題

教育では人に対する興味をもち、思いやりをもって接することができる人を育てたい。サイトカイン研究の目標は実際患者から検体をいただいて、健常者と比較したい。サーモグラフィ研究では、共同研究ができる病院との体制を整えたい。

個人年間活動報告書

教員名	新谷　路子	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、SD委員会副委員長、教務委員				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場 miniゼミ、基礎検査学、基礎検査学実習、解剖組織学、 病理学、人体のふしぎ、チーム医療論、医療コミュニケーション、 文献講読、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究				
担当科目コマ数	10.40				

本年度の課題

・遠隔スタイルでの授業方法を進歩させる。配布プリントを改良する。
・研究成果をまとめる。

本年度の目標

・分かりやすい動画を作成する。
・学会発表を行い、研究成果を論文発表する。

主な活動内容

1）教育活動

・遠隔授業では、学生が理解しやすいように講義用PPTをもとに動画を作成した。事後学修用のワークシートを作成した。

・国試対策では、基本的事項をまとめた暗記用プリントの内容を増やし、書き込み用ワークシートを配布した。

2）研究活動

研究テーマ：①閉経モデルマウスにおける細胞増殖・細胞死に関する検討。
②効果的な尿沈渣実習のための新規標本作製法の開発。

研究の現状：①卵巣摘出マウスの胃・腸管上皮細胞を対象に、種々の細胞死経路について免疫組織化学的に解析している。特異的な抗体を選び、細胞死関連蛋白のデータを追加している。②尿沈渣用保存液の種類、保存方法の違いによる沈渣成分の変化を経時的に観察している。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

・すこラボ講座第２回講師『糖尿病の合併症と検査』
・兵庫県立尼崎稲園高校における臨床検査技師の仕事紹介

今後の課題

教育：学生の事前・事後学修用のプリントの改良。
　　国家試験対策用の配布プリントの内容を見直し、得点アップに結びつける。
研究：研究結果をまとめ、学会発表を行い、研究成果を論文発表する。

個人年間活動報告書

教員名	布引　治	所属学科	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会委員長、KTU研究開発推進センター副センター長、広報委員会委員、細胞検査士委員会				
クラス担任	M1Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	臨床検査入門、ミニゼミ、臨床病理検査学実習Ⅰ、組織学・同実習、細胞検査学、細胞検査学演習、細胞検査学特論Ⅰ、細胞検査学特論Ⅱ、医学検査特論、卒業研究、総合医学検査特論、細胞検査士養成課程				
担当科目コマ数	11.37				

本年度の課題

細胞検査士養成教育の拡充

本年度の目標

細胞検査士試験合格率の維持、合格者数の維持

主な活動内容

1)教育活動
細胞診教育成果向上を目的に、わかりやすい内容のサブテキストを作成した。目標とする学修成果を見極めることができた。

2)研究活動
研究テーマ：遺伝子多型 Genetic polymorphismの解析
研究の現状：腫瘍病変における遺伝子変化。前癌状態におけるアセトアルデヒド分解と遺伝子多型の関連性について追加検討を行った。

学会発表（　　2回）　論文（　　1編）　著書（　　2冊）

3)社会的活動等
日本臨床細胞学会評議員、同学会施設認定制度委員会委員、同学会細胞検査士委員会委員、日本臨床細胞学会近畿連合会理事、　兵庫県臨床細胞学会理事
日本デジタルパソロジー研究会幹事、兵庫県細胞検査士会理事
医療関連サービスマーク制度調査指導員（（財）医療関連サービス振興会）

今後の課題

細胞検査士教育プログラムの拡充。細胞検査士試験合格率の維持。効率的な教育プログラムの新規開発。

個人年間活動報告書

教員名	鈴木高史	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	国際交流センター長、ライフサイエンス研究センター長				
クラス担任	3年生（全体・Aクラス）	クラブ顧問			
担当科目名	免疫学、免疫検査学、免疫検査学実習、医動物・同実習、公衆衛生学実習、国際保健活医療活動I、国際保健医療活動II、分子感染制御学演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、大学道場miniゼミA、大学道場miniゼミB				
担当科目コマ数	7.23				

本年度の課題

コロナ禍の各種状況を見極めながら適切にエフォートを振り分けて、教育・研究・社会貢献活動を行う。

本年度の目標

研究の推進と論文発表
コロナ禍における国際交流活動の推進
ライフサイエンス研究センター利用者が利用しやすいシステムの構築

主な活動内容

1）教育活動
昨年度に引き続き、オンライン授業用教材の作成を行った。本年度はさらに次年度新設の基盤教育科目「国際理解」「科学技術論」の開講準備を行った。
2）研究活動
研究テーマ：熱帯疾患の新規コントロールツールの開発
研究の現状：「attP-attB」を用いた簡便なで効率的な細胞への遺伝子導入システムを構築した。今後ナトリウムチャネル分子を導入し、活性測定を行う段階に進む段階である。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊）
3）社会的活動等
○国際交流センターの活動として、神戸国際協力センターと共催で、ネパール交流会を開催した。
○大学コンソーシアムひょうご神戸国際交流委員会副委員長として、コンソーシアム活動に参加した。
○ライフサイエンス研究センター共通品発注システムを構築した。

今後の課題

研究の推進と論文発表
本学並びに外部と連携した国際交流活動・ライフサイエンス研究活動の推進

個人年間活動報告書

教員名	大澤　佳代	所属学科等	医療検査学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試副委員長				
クラス担任	3年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	微生物学，病原微生物検査学I，病原微生物検査学II，感染制御学，チーム医療論，検体採取安全管理演習，病原微生物検査学実習I，病原微生物検査学実習II，総合医学検査特論，卒業研究				
担当科目コマ数	14.67				

本年度の課題

担当科目の講義・実習内容を各学年の進度に合わせてさらに見やすく、わかりやすくを心掛けて構築する。

本年度の目標

各科目における微生物学に対する興味を導くとともに、対面と遠隔を組み合わせた講義内容にして国家試験対策へつながるように意識した内容とする。

主な活動内容

1）教育活動

・各担当講義科目は対面講義を中心としてmanabaも活用しながら、各学年の進度に合わせて講義内容を構築し、配布物や復習がスムーズにできるようにした。

・各担当実習科目は三浦先生とともに内容を吟味し、少し新しい項目を加えて、より各学生が実習内容を確認できるよう工夫した。

2）研究活動

研究テーマ１： 薬剤耐性細菌における耐性機構の解析ならびに新規抗菌薬の開発

研究の現状：日本における薬剤耐性細菌(淋菌、腸内細菌科細菌)の病原性や薬剤耐性機構の解析の状況を確認し、関連論文を公表した。また、名古屋工業大学との共同研究として、新規抗菌薬の薬剤耐性菌に対する効果を実証し論文を公表した。

研究テーマ２：小児・新生児におけるタイチン測定の意義

研究の現状：神戸学院大学との共同研究に基づき、小児・新生児におけるタイチン測定の意義を確認し、論文が掲載予定となった。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

　学会発表（　８回）　論文（　　８編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

・神戸大学大学院保健学研究科客員教授（兼担）

今後の課題

今年度は研究代表者として科研費継続課題（基盤研究 C）1 件の他、科研費新規課題（基盤研究 C；研究分担者）1 件、AMED 継続課題 1 件（研究開発分担者）ならびに AMED 継続課題（研究協力者）2 件があり、研究の推進と論文発表を行うとともに、微生物検査学に対する学生の学習進度の差を解消し、国家試験合格に向けた講義・実習を検討する。また、入試委員長として、入試・広報活動を遂行する。

個人年間活動報告書

教員名	坊垣美也子	所属学科等	医療検査学科	職名	準教授
委嘱委員・職務	教務委員　学科国家試験対策委員　学科カリキュラム委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	検査入門実習　生体物質の化学　生化学Ⅰ　生化学Ⅱ　生化学実習 サプリメント演習Ⅰ　臨床化学検査学実習　臨床検査学演習 臨床検査学発展演習　サプリメント演習Ⅱ　卒業研究 総合医学検査演習　総合医学検査特論 生化学（診療放射線学科）生化学（看護通信制課程）				
担当科目コマ数	11.40				

本年度の課題

国試対策委員として、M4 生および卒業不可となった学生に対して卒業および国試合格に向けた指導を強化する。

本年度の目標

国家試験対策委員として前年度卒業不可の学生および M4 生に継続的な指導を行い、卒業および国家試験合格に導く。

主な活動内容

1）教育活動

①国試対策に関しては、受け持った学生に対する指導を行い、特に前年度不合格となった学生に対しては継続的に連絡を取り、合格できるよう指導した。

②2022年度カリキュラム改正に向けて、教務委員として新しいカリキュラムを作成し、変更申請書を取りまとめた。

2）研究活動

研究テーマ：血管内皮細胞と末梢血単球の相互作用に関する研究

研究の現状：血管内皮細胞の共培養によるTHP-1由来マクロファージの血管内皮細胞への分化の定量化における問題点に関して、細胞の免疫染色条件等の検討を行った。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　0回）　論文（　　0編）　著書（　　1冊）

3）社会的活動等

今後の課題

新カリキュラムのスタートに際して、学生の科目履修を支援する。旧カリキュラムの学生の新カリキュラム下での再履修を適切に進める。

新カリキュラムで廃止となる科目（生化学実習）の学修指導を徹底し、全員の今年度中の単位修得を目指す。

個人年間活動報告書

教員名	田村　周二	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員、臨地実習委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学ＩA・ＩB、人体の不思議(F)、生理機能検査学実習Ⅱ、総合医学検査演習、生理機能検査学演習、生理機能学実習Ⅰ、対人援助技術演習、BLSキャリアパスⅠ・Ⅱ、総合医学検査特論、卒業研究、臨床検査入門、臨床検査総論(N)、画像診断機器学実習Ⅰ(R)、診療画像検査学Ⅱ(R)、臨床技術入門(R)				
担当科目コマ数	10.70				

本年度の課題

・就職委員活動において学生との信頼関係の構築、並びに推進活動の実施
・コロナ窩においても学生が不利益にならぬように充分な配慮と対応をもって、臨地実習委員に臨む
・平成 30 年度 7 月より開始した社会人（当大学卒後教育）に対するリカレントオープンカンファレンス（現在第 28 回終了）を引き続き継続する。

本年度の目標

・BLS キャリアパスとの連携を密に図り、学生一人一人と信頼関係を構築し、就職活動の成果を高める。
・臨地実習に出ていく学生に医療施設へ実習に赴く心構えと充分な配慮を支援する。
・リカレントオープンカンファレンスを続け、当大学出身のソノグラファー認定試験への対応や、臨床に対する基礎力と対応力を卒業生に勉強して頂く。

主な活動内容

1）教育活動
国家試験に繋がる内容を中心に、分かり易く理解しやすい授業にし、基本を伝え学生自身が興味を抱いて頂けるようなスライドや、動画をもちいた授業内容を目指す。

2）研究活動
研究テーマ：各種超音波検査における日本語版・英語版・中国語版の配信用動画
ならびに、それら各種マニュアルの作成
研究の現状：今年度は、甲状腺・唾液腺・頸部リンパ節について作成
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0 回）　論文（　0 編）　著書（マスタードリル1部門を担当）

3）社会的活動等
社会人（卒業生）を対象に超音波検査を中心とした月に 1 回実施しているリカレントオープンカンファレンスの実施（毎回、病院など各医療施設より 40 人前後の参加）

今後の課題
・国試および就職に向けた学生への支援をさらに充実させること ・リカレントオープンカンファレンスを継続し、卒業生のソノグラファー試験に対する認定試験受験のための準備援助などスキルアップに貢献していくこと

個人年間活動報告書

教員名	杉山　育代	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	臨地実習委員、国家試験対策委員、ハラスメント防止対策委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学実習Ⅱ 、画像検査学、生理機能検査学ⅡＢ、生理機能検査学演習、卒業研究、総合医学検査特論、総合医学検査演習、臨床検査学演習、臨床検査学発展演習、検体採取安全管理演習、BLSキャリアパスⅠとⅡ、生理学と日常生活、人体のふしぎ、0科臨床検査学、R科診療画像検査学Ⅱ				
担当科目コマ数	11.33				

本年度の課題
・コロナ感染防御策を学生に指導し、対面での実習を安全に行うこと。 ・考えて行う臨床検査を学生に教育すること ・研究論文を纏めること
本年度の目標
・コロナ感染防御策を学生に指導し、対面での実習を安全に行うこと。 ・考えて行う臨床検査を学生に教育すること。 ・臨地実習委員・国家試験対策委員・ハラスメント防止対策委員の役割を遂行する。 ・研究時間の確保を考える
主な活動内容
1）教育活動 ・毎回の実習で学生体調管理調査を行い、且つ防護メガネ、換気を徹底したコロナ対策により実習授業は全て対面で行うことができた。学生からは対面の方がやはり学習内容が理解し易いとの声が多く出た。 ・検査データと疾患を繋げて覚えるだけの学修方法では効果は少ない。そこで病態を考え、それから起こると推測される検査データを考えるという教育に重きを置いた。しかし、学生からは基礎力の生理学や解剖学が身についていないので考えることが出来ないとの意見があった。今の学生は想像することをやってこなかったのか苦手のようである。臨床では教科書に載っていないことに遭遇する。その時に役立つのは今までの知識を総合して考えだす力である。 2）研究活動 研究テーマ：スマートフォン使用がおよぼす身体への影響

研究の現状：残っているデータ計測とその他のデータ纏め 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 特になし
今後の課題
・考えて行う臨床検査を学生に教育すること。そのために身体の状態を想像させることから始めるのが良いと考えている。 ・ゼミ生が行う実習での student assistant の指導の充実。 ・研究論文を纏めること。

個人年間活動報告書

教員名	今西　麻樹子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員				
クラス担任		クラブ顧問	バトミントン部（副顧問） 弓道同好会（副顧問）		
担当科目名	生理機能検査学実習Ⅰ、生理機能検査学ⅡB、基礎検査学実習、生理機能検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、医療コミュニケーション、まなぶる▸ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	13.37				
本年度の課題					
教　育：実習時の感染対策、実習および授業内容の充実 研　究：研究活動の充実					
本年度の目標					
教　育：呼吸機能検査実習の実施と実習内での感染を防ぐ。 研　究：データ解析中の研究を論文化する。					
主な活動内容					
1）教育活動 サーキュレーターを使用しての室内換気や機器の消毒等の感染対策を講じ、生理機能検査学実習Ⅱにおいて、昨年度はできなかった学生相互での呼吸機能検査測定を実施した。しかし、感染リスク軽減のためグループ内の１人を被検者とした測定しかできず、検査技師および患者両方の立場での実習はできなかった。講義においては、学生からの意見を吸い上げ、配付資料の印刷を工夫した。 2）研究活動 研究テーマ：① 膠原病除外のための抗DFS70抗体の同定方法の研究 ② 尿沈渣保存法の検討並びにデジタル教材の作成					

研究の現状：① データ整理および ROC分析による解析 ② 保存条件検討および保存検体の観察、データ整理 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 0 回） 論文（ 0 編） 著書（ 1 冊） 3）社会的活動等 社団法人兵庫県臨床検査技師会 学術部管理運営研究班班員
今後の課題
教 育：実習および授業内容の充実、新たに担当する授業科目の準備 研 究：研究活動の充実

個人年間活動報告書

教員名	澁谷 雪子	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	地域交流センター委員、就職委員（副委員長）、国試対策委員				
クラス担任		クラブ顧問	バドミントン部（顧問） フットサル部（副顧問）		
担当科目名	生化学実習、臨床化学検査学実習、薬物と検査、臨床検査学演習、臨床検査発展演習、総合医学検査特論、総合医学検査演習、卒業研究、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ、地域との協働B				
担当科目コマ数	14.90				

本年度の課題
自身が関わる正課（実習、講義）、地域交流、国試対策・就職支援において、学生が自主的に活動し、気持ちを表現できる環境をつくるよう心掛ける。 研究活動において、研究中のテーマを進める。
本年度の目標
教育活動：学生実習、国試対策と連携した就職支援、地域交流に力を注ぐ。 研究活動：研究中のテーマを継続する。
主な活動内容
1）教育活動 学生実習では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、学生が密にならないように試薬・器具を準備した。これにより、準備・実験中に学生が考える機会が少なくなるため、準備はするが、実験台単位で器具・試薬を管理するように指導した。また、理解の遅い学生には、予習課題・レポート（復習）についてマンツーマンで指導をした。 就職支援においては、BLSキャリアパスから就職支援（就職委員会）への繋ぎを考え、途切れのない支援を心掛けた。また、国試対策委員としてし、就職委員会との連携を図った。

2）研究活動 研究テーマ：　唾液の臨床検査について 研究の現状：　唾液中NGFと認知機能維持についての研究を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　0　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等 兵庫県臨床検査技師会　理事
今後の課題
就職支援・国試対策・地域交流では、学生一人一人に合った指導を行う。また、学生実習・国試対策では、学生の学習の進捗状況を小テスト（復習テスト）で確認し、学生の学習の支援を行う。

個人年間活動報告書

教員名	澤村　暢	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国試対策委員(副委員長)、図書紀要委員、自己点検評価委員、大学認証評価準備委員、ライフサイエンス研究センター				
クラス担任		クラブ顧問	イムノヘマトロジー部顧問		
担当科目名	血液学、血液検査学実習Ⅰ、血液検査学実習Ⅱ、臨床検査学演習、まなぶる▸ときわびとⅠ、検体採取安全管理演習、細胞培養演習、卒業研究、医学検査サプリメント演習Ⅰ・Ⅱ、総合医学検査特論、0科臨床検査学				
担当科目コマ数	12.00				
本年度の課題					
・講義内容のブラッシュアップ ・研究内容のまとめ					
本年度の目標					
・担当講義内容のアップデートし、印象に残る講義資料の作成 ・研究データのまとめ、論文化					
主な活動内容					
1)教育活動 遠隔授業教材のブラッシュアップを行い、学生がアクセスしやすい YouTube を経由したオンデマンド教材を作製した。 次年度に向けて新たな実習項目の考案や、講義に新たな内容を追加しアップデートを行った。 2)研究活動					

研究テーマ：Fibrinogenノックアウト細胞を用いたフィブリノゲン合成・分泌に関する研究
研究の現状：次年度の論文化に向け実験結果の検証、まとめ
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　2　回）　論文（　　2　　編）　著書（　1　冊）

3)社会的活動等
令和3年度兵庫県精度管理専門委員会委員、日本臨床検査学教育学会評議員
10/25　淡路三原高校での模擬授業、関西大学　非常勤講師(臨床検査学)

今後の課題
研究活動の推進 国家試験対策の課題抽出と見直し

個人年間活動報告書

教員名	溝越　祐志	所属学科等	医療検査学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、教務委員、学内実習安全委員、遠隔授業サポートチーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	検査入門実習、遺伝子・染色体検査学実習、公衆衛生学実習、マナブル▸ときわびとⅠ、臨床検査総論、臨床検査学演習、文献講読、分子感染制御学演習、遺伝子工学演習、マナブル▸ときわびとⅡ、公衆衛生学				
担当科目コマ数	12.43				

本年度の課題
・昨年度はCOVID-19の影響で学会発表ができなかったため、今年度は学会発表を行う。 ・「協働して学ぶ」内容を取り入れた授業を展開する。
本年度の目標
・学会発表を最低1回は行い、教育・研究活動の還元を図る。 ・協働して学ぶ内容を含め、授業形態のブラッシュアップを図る。
主な活動内容
1）教育活動 ・授業においては以下を改善した。 1. 事前学修教材をmanaba にアップし、予習のもと授業を展開するものを増やした。 2. manabaに課題に対する説明資料を載せるなど、学生成果物に対するフィードバックを充実させた。 3. 実習形式の授業において、結果・考察含め授業内容を成果物として、協働でまとめさせ、発表形式の授業を行う能動的な授業内容を行った。 ・入学前教育に関して 1. 全学入学前教育講師を務めた。

2. 学科入学前教育の課題作成を行った。 2）研究活動 研究テーマ：① 敗血症マーカープレセプシンの産生機序に関する検討 ② *DSCR9* 遺伝子の機能解明に関する検討 研究の現状：上記研究テーマにおいて、目的とする分子の機能や産生機序解明をすすめている。今後、論文にまとめるためのデータ取得をめざす。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　1　回）　論文（　4　編）　著書（　1　冊） 3）社会的活動等 高校生への臨床検査技師職種の紹介による、臨床検査啓蒙活動の実施。
今後の課題
・入学教育の充実・拡充を図り、高校時から学修習慣を身に着けるような取り組みの実施 ・研究活動の推進

個人年間活動報告書

教員名	島袋梢	所属学科等	臨床検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学生委員会、入試委員会、就職委員会、国際交流委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	免疫検査学実習、公衆衛生学実習、医動物学同実習、輸血移植検査学実習、論文購読、まなぶる▹ときわびと、総合医学検査特論、BLSキャリアパスⅠ、BLSキャリアパスⅡ				
担当科目コマ数	12.40				

本年度の課題
実習をスムーズに行うための準備から講義における工夫 総合医学検査特論における免疫分野の指導改善 コロナ渦でも実施できる研究テーマの設定
本年度の目標
・実習のマニュアル作り. 実習書の作成 ・総合医学検査特論における免疫分野の問題集の工夫. ・疫学的データを用いた調査研究の施行.
主な活動内容
1）教育活動 ・免疫検査学実習・輸血移植検査学実習の実習準備マニュアルを整備した. ・免疫検査学実習の実習書を整備した. ・特論の10年間過去問を用いて、類似問題を対比できるような問題集を作成した. ・疫学データを用いた研究を実施し、長崎熱帯医学研究所の岡田研究員と共同研究を実施した.

2）研究活動 研究テーマ：コロナ流行状況の特徴 研究の現状：データをもとに論文作成中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 なし
今後の課題
・実習準備マニュアルを実際に運用し、改善する. ・研究面では論文化を進める.

個人年間活動報告書

教員名	三浦　真希子	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	就職委員会、臨地実習委員会、卒業研究委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物実習I・II、まなぶる▸ときわびとI、臨床検査学演習、検体採取安全管理演習、総合医学検査特論、BLSキャリアパスI・II				
担当科目コマ数	11.60				

本年度の課題
・微生物実習室・準備室兼卒研室の環境整備 ・研究活動の遂行
本年度の目標
・微生物実習室・準備室兼卒研室の改修に伴い、学生が学びやすい環境を整える ・研究成果を論文として発表する
主な活動内容
1）教育活動 微生物実習室・準備室兼卒研室の改修に伴い、学生が学びやすい作業環境を整えた。実習中は、結果の考察、発表をグループワーク形式にしたことで、学生が能動的に学べるよう工夫した。また、実技指導は模擬や録画動画を用いて指導を行うことで、学生の理解促進を図った。レポートで理解不足であった学生は個別に指導を行いフォローした。 2）研究活動 ・研究テーマ：1)アジスロマイシン耐性淋菌の薬剤耐性機序の解析 2)保育施設におけるオムツ処理規定モデルの構築 3)薬剤耐性淋菌感染症の対策に資する研究 ・研究の現状：1）英文誌(JMM)に投稿しアクセプトされた。また、学会発表を行い、

第 13 回日本化学療法学会西日本支部活性化委員会特別賞を受賞。 2）科研費の助成を受け、調査実施、解析中である。 3）AMED事業　研究協力者として研究を遂行した。 ・本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　3回）　論文（　1編）　著書（　　0冊） 3）社会的活動等 ・7/15（木）高校ガイダンス（伊丹高校） ・NHK NEWS WEB で取り上げられた保育所でのおむつ持ち帰り問題についてコメント掲載
今後の課題
コロナの影響で科研のフィールドワークを伴う研究活動に制限があった。今後は研究計画を見直し活動を進める予定である。研究成果を論文にまとめ、研究協力いただいた施設へフィードバックすることを目標とする。

個人年間活動報告書

教員名	佐野　太亮	所属学科等	医療検査学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国試対策委員、地域交流センター、LS 細胞病理研究ユニット、学内実習安全委員、卒業研究委員、細胞検査士養成課程委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	病理部（顧問）		
担当科目名	組織学・同実習、臨床病理検査学実習Ⅰ、臨床病理検査学実習Ⅱ、臨床検査入門実習、まなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡ				
担当科目コマ数	13.27				
本年度の課題					
引き続き、国試対策、細胞検査士養成課程の試験対策をより充実させたい。また、学修面だけではなく、ボランティア活動についても学生が取り組みやすいように努めたい。					
本年度の目標					
1.　養成課程のオリジナルデジタルテキストの改訂 2.　模擬試験結果を反映した個別問題集の作成					
主な活動内容					
1）教育活動 病理検査学実習Ⅰ、病理検査学実習Ⅱ、組織学実習の準備、レポート、スッケッチの指導に加え、まなぶる▸ときわびとⅠ、まなぶる▸ときわびとⅡの授業を担当 2）研究活動 研究テーマ：① File maker を用いた学習システムの構築 ② 家族性多発性 GIST モデルマウスからの初代培養系の樹立 研究の現状：継続中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　1　回）　論文（　0編）　著書（　2　冊）					

3）社会的活動等 　子宮頸がん検診啓発活動
今後の課題
1．研究活動時間の確保。 2.国試対策に対してもデジタル教材の作成ベースは作成できたため、そこから学生にどのように使用してもらうかが課題となる。

個人年間活動報告書

教員名	松田　正文	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	診療放射線学科長、運営委員会委員、入試問題作成部会長				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	人体のふしぎ、医学概論、放射線科学概論、生理学、腫瘍学、 呼吸・循環機能検査学（M科）、生理機能検査学ⅡB（M科）、 臨床病態学Ⅱ（M科）、臨床病態学Ⅲ（M科）				
担当科目コマ数	3.40				

本年度の課題

診療放射線学科の円滑な運営に努める。
学科・個人の教育面での充実を計り、研究面でも困難な状況にあるが工夫、苦心してその遂行にあたる。

本年度の目標

学科運営では、教員増員などにより教育環境・研究環境の改善に努め、これが実際の学生教育に反映されるようにする。

主な活動内容

1）教育活動
個人として担当している授業に加え、学科教育全般に目を配り、コロナ禍が続く中で学生を診療放射線技師に育てるべく努力して来た。

2）研究活動
研究テーマ：フロー・ボリューム曲線（呼吸機能検査）の解析
Apple Watchによる長期間心電図監視
研究の現状：コロナ禍のなか、研究対象を得るのに苦労している。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等
特別なものは無い

今後の課題

引き続き円滑な学科運営に努める。
実質的に仕上げの段階に入る１期生に重点を置きながら、学生教育に力を注ぐ。

個人年間活動報告書

教員名	今井方丈	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会 委員，入試委員会 合否判定部会 委員，R科就職委員会 委員長，R科臨床実習委員会 副委員長，R科国家試験対策委員会 委員				
クラス担任	2年責任者，2年B組担任	クラブ顧問			
担当科目名	基盤：大学道場miniゼミA Ｒ科：医用画像工学，画像診断機器学実習Ｉ，臨床技術入門 M科：臨床検査学演習				
担当科目コマ数	2.37				

本年度の課題

２年生の新たな授業の準備，実習要領の整備(実習器材の充実)
学科内運営の確立

本年度の目標

学生対応の充実（特に学業不振者への対応［補習］）

主な活動内容

1）教育活動
・高大連携の一環で，授業を行った.
　兵庫県教育委員会 兵庫県公立学校職員(兵庫県立福崎高等学校特別非常勤講師)
・補習による正課外授業（［前期］数学14コマ，放射線写真学2コマ，
　［後期］数学1コマ，画像工学4コマ)

2）研究活動
研究テーマ：
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・県立高等学校生物部会東播支部研修会　『診療放射線学』について講義
　https://hyosei.sakura.ne.jp/top/
・第 47 回全国私学診療放射線技師養成施設長会議に参加
・第 66 回全国診療放射線技師教育施設協議会に参加

今後の課題

学内実習環境（器材等）の充実
学業不振者への対応

個人年間活動報告書

教員名	谷口英明	所属学科等	診療放射線学科	職名	特任教授
委嘱委員・職務	広報委員会、委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	コミュニケーション論、医療コミュニケーション、芸術文化論、 プレゼンテーション技法				
担当科目コマ数	2.60				

本年度の課題

昨年度は初めての教員経験で手探りだった。その経験を踏まえて、授業での学生への接し方、各授業の進め方、あるいは方法論で改善すべき点を改めて臨むこと。

本年度の目標

１、授業で学生への接し方について
　学生との対話を増やし、傾聴力や伝える力を鍛える。
２、授業の方法論
　なるべく発言の機会を増やし、グループでのディスカッションを活発に行う。
　授業は楽しく、明るく、興味深く。

主な活動内容

1）教育活動
サンテレビアナウンスセミナーが夜間スクールに昇格。週１の頻度でアナウンサーを目指す学生に、アナウンススキルや採用試験対策などを指導。

2）研究活動
　研究テーマ：
　研究の現状：
　本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

学生による授業評価
コミュニケーション論
学生自身　3.8　授業内容 4.5　授業方法 4.7　学修成果 4.5　総合評価 4.6
医療コミュニケーション
学生自身 3.8　授業内容 4.6　授業方法 4.6　学修成果 4.5　総合評価 4.7
学生自身の項目が低いのは授業以外の学習が少なすぎたのが原因。この点については今年度も改善されず反省点であり、来年度に向けて改善しなければならない。

個人年間活動報告書

教員名	山﨑麻由美	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会、ときわ教育推進機構、ハラスメント防止対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	英語コミュニケーションI（看護学科科、診療放射線科）、英語コミュニケーションII（医療検査学科）、医療英語（医療検査学科）、医療英語（診療放射線学科）、医療英語（口腔保健学科）、大学道場miniゼミA、英語B、英語D				
担当科目コマ数	12.60				

本年度の課題

①授業評価をもとに授業の改善に取り組むこと。
②19 世紀イギリスの医療・看護と女性の専門職についての資料を収集し、成果発表に結びつけること。

本年度の目標

①manaba を用いて学生の課外学修時間を増やすような工夫を行う。
②19 世紀イギリスの看護・医療と女性の専門職についての関連についてクリミア戦争を軸に研究する。

主な活動内容

1）教育活動
①診療放射線学科の「医療英語」において教材の開発を行い授業で実施した。
②大学院進学希望者たちに英語の個別指導を行った。

2）研究活動
研究テーマ：①Florence Nightingaleの著作におけるクリミア戦争の影響　②クリミア戦争中の看護事情　③「看護師」のイメージ変容：日英の比較
研究の現状：①は論文執筆中　②は投稿掲載済み、③は資料収集中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0 回）　論文（　2 編）　著書（　0 冊）

3）社会的活動等
なし

今後の課題

①manaba を今以上に用いて、学生の課外学習時間を増やす工夫をすることと、授業を活性化させること。
②日本のおける「看護師」のイメージ変容を比較研究する。

個人年間活動報告書

教員名	高久圭二	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	放射線安全委員会委員長				
クラス担任	一年生	クラブ顧問	天文同好会		
担当科目名	放射線科学概論、放射線物理学II、放射線計測学、暮らしの中の物理学、miniゼミA、放射線物理学I、miniゼミB、放射線計測学実習				
担当科目コマ数	6.77				
本年度の課題					
新しい授業の充実(放射線安全管理学、関係法規、物理学、科学技術論)					
本年度の目標					
本大学の学生に適した授業の確立(放射線安全管理学、関係法規、物理学、科学技術論)					
主な活動内容					
1) 教育活動 兵庫県高校生物部会学校見学会講師 2) 研究活動 研究テーマ：核子間三体力の研究、テーブルトップ型RI製造装置の開発 研究の現状：コロナ禍で実験中止 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　0回）　論文（　0　編）　著書（　　0冊） 3) 社会的活動等 福島県飯舘村研修実行委員					
今後の課題					
本大学の学生に適した授業の充実					

個人年間活動報告書

教員名	南　　利明	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	広報委員会、学科内就職委員会、学科内臨地実習委員会、学科内国試対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	放射線治療物理学、放射線治療機器学、放射線計測学実習、放射線計測学				

担当科目コマ数	4.00
本年度の課題	
次年度より開始される科目の準備、本年度実施科目のブラッシュアップ、任命された職務の遂行など課題は豊富である。また次年度より開始となる臨地実習の準備も進める。	
本年度の目標	
新規事案が多く、着実に課題を実行することが大きな目標となる。	
主な活動内容	
1）教育活動 担当する授業（講義、実習）の準備や、教育材料の調査と準備。 教育科目の情報収集（Web研修会など） 2）研究活動 研究テーマ：高エネルギー放射線の照射技術と計測技術および治療計画技術 研究の現状：研究環境の変化に対応するため模索 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回）　論文（0編）　著書（0冊） 3）社会的活動等	
今後の課題	
1） 教育活動：今後開始される授業の準備と現状の授業のブラッシュアップ。 2） 研究活動：今の研究テーマ継続のための環境整備と新たに実現可能なテーマ検討	

個人年間活動報告書

教員名	對間博之	所属学科等	診療放射線学科	職名	教授
委嘱委員・職務	臨床実習委員会，就職委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問			
担当科目名	核医学検査技術学Ⅰ，Ⅱ，放射線計測学実習				
担当科目コマ数	5.00				
本年度の課題					
着任初年度であったため，本学の教学システムなどを理解し，効率的な学生指導ならびに教育方法を構築する．					
本年度の目標					
学生の GPA 等のデータを定期的に取得し，それに基づく教育を実施する．また，外部機関との研究活動を推進する．					
主な活動内容					

1）教育活動
　担当の講義，実習のほか学生の補習等を行った．また，臨床基礎実習の実施に向けて，OSCEやCBTの実施計画を策定した．また，アジア地域の放射線技師教育のために英語版の教科書の作成に参画した．

2）研究活動
　研究テーマ：核医学検査技術に関する研究
　研究の現状：研究を実施するために研究環境の整備が必要である．
　本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

　学会発表，講演（　4回）　論文（　4編）　著書（　2冊），特許（　1件）

3）社会的活動等
　厚生労働省診療放射線技師国家試験作問委員会委員，日本放射線技術学会（業務執行理事，代議員，教育委員会委員長，放射線委員会委員，企画委員委員，学術委員会委員，核医学療育における線量管理検討班班長，関東支部核医学研究会委員，総会学術大会実行委員会委員），日本核医学会（日中核医学交流会委員，経営戦略委員会委員），アジア核医学技術学会（代表理事），Asian Society of Nuclear Medicine Technology（Steering Committee 委員），日本核医学技術学会（評議員，放射線防護管理小委員会委員，情報管理小委員会），日本核医学専門技師認定機構（監事）

今後の課題
完成年度に向けて，カリキュラムの適正化が必要であるため，検討する．学生研究の実施計画について構築し，実施する．

個人年間活動報告書

教員名	関 雅幸	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会委員、SD委員会委員、診療放射線学科国試対策委員会委員長、情報インフラ整備ユニット委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	診療放射線学科］医用工学Ⅰ（電気工学）、医用工学Ⅱ（電子工学）、医用工学実習［医療検査学科］医療数理科学、情報科学概論、医療工学、医療工学実習、ロボティクス演習、卒業研究、総合医学検査演習、総合医学検査特論　［基盤教育分野］情報基礎、プログラミング入門				
担当科目コマ数	15.47				
本年度の課題					
授業用資料の充実					

本年度の目標
図等を用いた授業用の資料を充実させる。
主な活動内容
1）教育活動 前年度に不十分だった医用工学の資料（図）を作成し、十分とは言えないが充実に努めた。 2）研究活動 研究テーマ：(1)ロボット作成を用いた情報処理教育 (2)教育活動支援システムの作成 (3) LaTeXを用いた国家試験模擬試験の作成 研究の現状：(1) 基礎知識を収集中。(2) 4月の大学道場miniゼミの学生振り分けにて以前作成したExcelマクロを利用した。また、手順マニュアルを若干修正した。(3) 診療放射線技師の国家試験問題をLuaLaTeX対応のTeXファイルで作成した。TeXファイル作成を省力化するためのプログラムを作成した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　0回）　論文（　　0編）　著書（　　1冊） 3）社会的活動等
今後の課題
業務に関連したシステムの開発

個人年間活動報告書

教員名	高松　邦彦	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	KTU大学研究開発推進センター、ときわ教育推進機構、ライフサイエンス研究センター、自己点検委員会、図書・紀要委員会、情報インフラユニット、FAST等企画運営ユニット、IR推進プロジェクト				
クラス担任		クラブ顧問	硬式テニス部		
担当科目名	保育・研究課題研究II、保育・研究課題研究III、卒業研究I、卒業研究II、卒業研究III、卒業研究IV、遺伝学、医療英語、医療統計学、文献講読、バイオインフォマティクス、保健統計学、プレゼンテーション技法、暮らしの中の数学、統計学、芸術文化論、まなぶるときわびとI,まなぶるときわびとII,超ときわびと、コミュニティデザイン				
担当科目コマ数	13.03				

本年度の課題
本年度は、診療放射線学科にきて２年目であり，学科の仕事をしっかりと担当することを課題とした。
本年度の目標
完成年度を迎えていないため、今年も昨年同様に、診療放射線学科の教員として、きちっと役割を果たすことを目標とした。 また，2022 年度からスタートする神戸常盤大学において数理統計データサイエンス教育にも照準を当てた。
主な活動内容
1）教育活動 「まなぶ▸ときわびとⅠ」、「まなぶ▸ときわびとⅡ」のコアメンバーとして、科目の運営、取りまとめを積極的にサポートした。本年度は、卒業研究については、こども教育学科の学生を担当した。 2）研究活動 研究テーマ： Eduinformatics 研究の現状：高等教育に、エビデンスベースドな解析を行うことで、様々な研究をおこなっている。 学会発表（　17回）　論文（　13編）　著書（　　2冊） 2021年度教育実践賞 チームで学ぶ【入学前教育×初年次教育によるシナジープログラム】の構築～入学前から初年次を貫く“まなびのプラットフォーム”～ 初年次教育学会 光成研一郎;伴仲謙欣;中田康夫;高松邦彦 3）社会的活動等 International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 10th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI AAI DSIR2021) International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 11th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI AAI DSIR2022) International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Steering Committee of 11th International Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI AAI DSIR2021 Winter) International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Program Chair (IIAI AAI 2021)

International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Program Chair (IIAI AAI Winter 2021)

International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI, Program Chair (IIAI AAI 2022)

IJIRM: International Journal of Institutional Research and Management, The Co-Editor in chief of IJIRM

防災教育学会理事、学習分析学会理事

AED 講習回を、講師として行った。

2021 年 3 月 2 日、「第２回 AIIT 高度専門職人材教育研究センターシンポジウム」 ～高度専門職人材と IR の将来～にて、「「小規模私立大学における IR の事例紹介 ～IR から Institutional Effectiveness (IE)へ～」講師

「教育の質保証に関する大学での取り組み」、2021 年 5 月 13 日教育 IT ソリューション EXPO manaba EXPO にて講師。

「内部質保証のための IR 活動とは 」2021 年 9 月、神戸常盤大学 IR 講習会講師

「神戸常盤大学における事例紹介」、2022 年 1 月 22 日に、日本インスティテューショナル・リサーチ協会、第 40 回研究会（評価のカンスする概念・用語の整理）講師。

「IR って何？～先進校における取り組みの紹介～」という演題で令和 3(2021)年度天使大学 IR 室 FDSD 研修会講師

「学修評価について」 2022 年 3 月 10 日に、電気学会 科学的データに基づく教育・学習支援技術調査専門委員会講師

今後の課題
来年度は，診療放射線学科おいて 3 年目を迎えるため、学科の中でしっかりと自分の役割を果たしたい。また，世界各地で新型コロナウィルスが流行しており，本学においてもどのような対応が必要になるかわからない状況が続いている。ハイフレックスの授業の準備のサポートを行う。

個人年間活動報告書

教員名	木村英理	所属学科等	診療放射線学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員　学生委員　健康管理室委員　学生相談室委員 R科臨床実習委員会（委員長）　R科国試対策委員会（副委員長）				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	・X線撮影技術学Ⅲ（CT）科目責任者 ・画像診断機器学実習Ⅰ　科目責任者 ・放射線計測学実習　・臨床技術入門 ・まなぶるⅠ　・まなぶるⅡ				
担当科目コマ数	10.73				

本年度の課題

・R 科の授業や実習が適切に行われているか

本年度の目標

・R 科の授業や実習を見直し、改善する

主な活動内容

1）教育活動

2）研究活動

研究テーマ：医療被ばくにおけるリスクコミュニケーション

研究の現状：

・日本放射線技術学会放射線防護委員会委員として活動

・来年度のリスクコミュニケーションセミナー、秋季学術大会での部会専門講座などの企画を担当

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

日本放射線技術学会　専門部会　放射線防護委員会委員

日本放射線技術学会　代議員

日本診療放射線学教育学会　理事

兵庫県診療放射線技師会主催市民公開講座　講師

今後の課題

・R 科の授業や実習が適切に行われているか見直しを行い、改善する

・学習効果の高い授業が提供できるようスキルアップを行う

・医療被ばくにおける効果的なリスクコミュニケーションについて、心理学的要素を含めながらアプローチをする

・業務に追われ大学院の単位が思ったよりも取れない。集中して取り組める環境と時間の確保

個人年間活動報告書

教員名	伊藤彰	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員，国家試験対策委員，臨床実習委員，情報インフラ整備ユニット，地域交流センターB,				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	診療放射線技術学入門，まなぶる▸ときわびとI，医療情報学，まなぶる▸ときわびとII，地域との協働B，診療画像検査学I(MR)，臨床技術入門，臨床検査学演習(M科)				
担当科目コマ数	5.67				

本年度の課題

本年度実施したテーマ研究「診療放射線技師養成のための専門英語教材開発」を発展させる。昨年度研究で作成した教材を基に自律的な学修が可能な教材および教授法を研究・開発する。

本年度の目標

R 科一期生が 2 年に進級する。高度化する学修内容に対応すべく、暗記に頼らない、論理的思考力を育てる授業を行う。

主な活動内容

1）教育活動

- 2020年度に引き続き遠隔授業の充実を図った。本年度は音声・映像配信機材を用いて動画での配信を行なった。この方法はスライドの動画を見せられる利点がある。またタブレット端末でスライドに書き込みを加える様子を見られるようにして、板書を行いながら行う教室での講義に準じた形態を遠隔で実施できるようにした。
- 実習科目の発表会を対面と遠隔のハイブリッド形式で実施した。
- 対面授業では学生の考える力を育てるべく、毎回、授業内容を要約する課題を課した。課題は添削して返却しフィードバックを図った。

2）研究活動

研究テーマ：テーマ別研究「診療放射線技師養成のための専門英語教材の開発 －自律的な学修態度の確立と維持を目的として」

研究の現状：2020年度テーマ別研究で作成した診療放射線技師の患者対応シナリオに基づき、視聴覚教材を作成した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（ 0 回） 論文（ 1 編） 著書（ 0 冊）

3）社会的活動等

地域交流センターセミナー講演「AI とディープラーニング」を実施した。

今後の課題

COVID-19 対策で応急的に実施した ICT 活用を深化させることで、学生に学びを深める機会が提供できるのではないか。遠隔授業のメリットとして「繰り返し聞ける」という点を挙げる学生は少なくない。次年度は担当講義のライブラリ化を検討したい。

個人年間活動報告書

教員名	倉本　卓	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	研究倫理委員会，個人情報保護員会，国家試験対策委員会，臨床実習委員会，すこらぼ				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	Ｘ線撮影技術学Ⅰ（一般撮影），Ｘ線撮影技術学Ⅱ（透視・造影検査），放射線計測学実習				
担当科目コマ数	2.00				

本年度の課題

本年度就任したため，早期に環境へ適応することと，本年度目標を達成することを課題とした．

本年度の目標

学生に寄り添った講義の実施と研究の両立

主な活動内容

1）教育活動

担当科目の講義，および必要に応じた補習実施．学生会員として学会への入会案内．学生に対して学術論文の抄読会実施．

2）研究活動

研究テーマ：医用X線画像の画質評価と被ばく線量低減に関する研究

研究の現状：テーマにより進捗に差が生じてしまっている

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　2回）　論文（　6編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

委員会活動：日本放射線技術学会 総務委員会 委員，日本放射線技術学会 総務委員会総会運営小委員会 委員，九州医用画像コミュニティ 世話人，福岡県診療放射線技師会 学術教育委員．

論文査読：英文１編，和文３編

今後の課題

初めての複数学年の講義を担当することになるので，学生に対し安定した質の講義内容を届けるよう取り組みたい．また，継続した研究活動を実施する．

個人年間活動報告書

教員名	桂千広	所属学科等	診療放射線学科	職名	講師
委嘱委員・職務	危機管理委員会、GCC、国試対策委員会、臨床実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	放射線生物学Ⅰ・Ⅱ　まなぶるときわびとⅠ・Ⅱ				
担当科目コマ数	5.00				

本年度の課題

着任年度につき、自身の今後の教育・研究体制を整える。

本年度の目標

放射線生物学の講義資料を充実させる。
実施可能な研究テーマを策定する。

主な活動内容

1）教育活動
成績不良者を対象に放射線生物学Ⅰ・Ⅱの補習をそれぞれ2時限ずつ実施した。
特に成績不良な学生8名を対象に放射線生物学Ⅰの個別補習を実施した。

2）研究活動
研究テーマ：低線量被ばくの生体への影響
研究の現状：先行研究の調査
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

次年度は個別補習を実施する時間がないため、成績不良者への対応を再検討する必要がある。また、研究面では策定したテーマに基づいて研究を開始する。

個人年間活動報告書

教員名	市川　尚	所属学科等	診療放射線学科	職名	助教
委嘱委員・職務	入試委員，地域交流センター，臨地実習委員，遠隔授業サポート				
クラス担任	あり（診療放射線学科1年B）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	X線機器学実習Ⅰ，放射線計測学実習，まなぶるⅠ，Ⅱ				
担当科目コマ数	9.00				

本年度の課題

学生に対する分かりやすい授業の展開，業務と研究の両立が本年度の課題であった．

本年度の目標

①学生の声を反映させた分かりやすい授業の展開
②市民公開講座などを通じた社会貢献の推進
③論文投稿，学術発表を通じた社会貢献の推進

主な活動内容

1）教育活動
第一種放射線取扱主任者試験対策，X線を活用した学生実習，「まなぶる」を通じたチームビルディング教育，高校への模擬授業，入試・OCなどの入試委員活動
2）研究活動
・研究テーマ
①補償フィルタが面積線量計の測定精度に与える影響の評価
②学生実習に適した水晶体線量測定法の構築
③FPDを用いた半価層測定法の開発
・研究の現状
①論文が10月にJournal of applied clinical medical physicsにacceptされた．
②基礎研究が完了し，海外ジャーナルへの投稿準備中．
③研究中であるが，今年の4月に日本放射線技術学会にて学術発表予定．
・本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照．
学会発表（2 回）　論文（3 編）　著書（0 冊）
3）社会的活動等
①令和 3 年度前期市民公開講座にて「CT と MRI の違いってなに？」の講師を務めた．
②中学，高校での模擬授業，職業説明などの講師を計 8 回務めた．
③すこらぼにて，市民向けに「X 線を用いた心臓血管の検査」の講師を務めた．

今後の課題

担当科目や学生の増加に伴い，業務量が増えているが，その中で教育の質をさらに高めるための工夫をすることが課題である．そのためには，学生の声に耳を傾けることが重要だと考えており，積極的にコミュニケーションを図りたい．
加えて，市民公開講座や高校での授業，論文投稿や学術発表を通じた社会貢献を積極的に実施することが課題である．そのためには，新たな情報のインプット，研究成果のアウトプットが必要であるため，時間を上手く活用しながら目標達成を目指したい．

個人年間活動報告書

教員名	塩谷英之	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	すこラボ所長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護解剖生理学Ⅱ、症候論Ⅰ、チーム医療論、看護病理・病態学、いのちと共生				
担当科目コマ数	3.33				

本年度の課題

本年度着任したので、これまでの研究を継続した。

本年度の目標

・（基盤研究Ｂ　令和２年－４年）「２週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究を続行すること
・すこラボにおいて**糖尿病**をテーマに本学の４学科が協働して情報発信を行う。

主な活動内容

1）教育活動
コロナ渦の中 on line授業となったが、創意工夫し授業に努めた。
2）研究活動
研究テーマ：健康維持における生活リズムの重要性について
研究の現状：
基盤研究B 令和2年－4年「２週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究の２年目であり、11例の看護師さんのデータ収集、解析を行った。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　１回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・兵庫県国民健康保険団体連合会データヘルス評価・支援委員会委員長
・全国健康保険協会兵庫支部健康づくり推進協議会委員

今後の課題

令和４年は基盤研究Ｂ　令和２年－４年「２週間ホルター心電図を用いた夜勤・交代勤務者の心拍サーカディアンリズムの長期評価」の研究の最終年度であるため、本研究を完了し、その内容を一流論文に投稿しさらに研究結果を学会ならびに社会に発信する。

個人年間活動報告書

教員名	長尾　厚子	所属学科等	看護学科	職名	学科長
委嘱委員・職務	運営委員・通信教育委員・看護学科長・通信教育委員長				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	（通学）いのちと共生・看護対象論Ⅰ・看護活動基礎実習・生活健康論実習・基礎看護学実習(看護過程)・課題別総合実習・看護研究演習 （通信）看護対人関係論・看護と研究				
担当科目コマ数	7.27				

本年度の課題

１．担当授業科目の授業内容の精選・授業方法の工夫の成果から課題を見出す。
２．研究活動の継続をはかる。

本年度の目標

１．「看護対象論Ⅰ」の授業内容の精選・授業方法の工夫を図る。
２．基盤教育分野科目「いのちと共生」のときわコンピテンシーの到達度を確認する。
３．研究の研究活動を継続する。

主な活動内容

1）教育活動
①「看護対象論Ⅰ」については、今年度もコロナ禍のため密を避ける授業方法を工夫し対面授業を実施した。また、昨年度から取り入れた「触れることの意味」に関する授業内容・方法については学生達の評価も高く次年度も継続したい。「模擬患者」との対応場面の体験学習は、今年度も地域ボランティアの方々の協力が得られないため、昨年同様教員が模擬患者になり実施した。教員の名演技の成果もあり「非常に良い」が84.6%「良い」が15.4%であり、参加した学生の満足度は高かった。
②基盤教育分野での「いのちと共生」は受講者数197名（M科37名、N科61名、Ｒ科49名、E科68名）であった。コロナ禍で昨年に引き続き遠隔授業となり各教員が動画やDVDを駆使し工夫した。授業評価も学科平均より高く学生の感想も「1回1回違う点がよかった」「様々な視点から共生について考えられた」など肯定的意見があった。次年度も受講者が多いため遠隔授業となるが資料の提示やコンテンツの作成の精度を上げていきたい。ときわコンピテンシーの到達度はレポート内容から概ね評価できる。
2）研究活動
　研究テーマ：①在宅看護実践能力に向けたニーズ調査②リカレント教育に向けた調査
　研究の現状：①②の調査終了し、次年度は分析と論文作成
　本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）
3）社会的活動等：看護協会主催のコロナ禍での臨地実習：パネラー

今後の課題

１．研究活動の継続
２．教育内容の精選と授業方法の工夫から、到達目標の達成度の確認を行う。

個人年間活動報告書

教員名	岩越　美恵	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教職支援センター委員、看護学科養護教諭課程委員長、ストレスチェック実施者				
クラス担任	クラス担任　　なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康科学総論、症候論Ⅱ、養護概説、特別支援教育(N・E)、養護実習Ⅰ・Ⅱ、養護実習指導、教職実践演習、人体のふしぎ、MiniゼミB、看護学研究、臨床病態学Ⅱ、臨床病態学演習Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅲ（発展）、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	7.80				

本年度の課題

1) 前年度Ｎ１「生活健康論実習」内での実践研究を「まちの保健室」として授業外での実践
2) 前年度からの臨床研究の継続

本年度の目標

1) 2023 年度 N2 学年生を対象に新たな「地域活動基礎実習」の授業での実践研究の立案
2) さらに症例集積目標を 10 名とする。

主な活動内容

1) 教育活動
対面授業の良さと遠隔授業の良さを組み合わせて授業を行うことができた。
2) 研究活動
研究テーマ：
(1) 「重度障害のある方々の能動的な社会参加」の課題解決に向けた「まちの保健室」活動の試み
(2) 発達障害児のポジティブな自己受容をめざした診療の実践
研究の現状：
(1) 今年度も、コロナ禍のため、「まちの保健室」活動は中止となった。
(2) 取り組んだ症例の蓄積（告知済45名・告知準備中約17名）
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）
3) 社会的活動等
・西宮市社会福祉協議会「青葉園・ふれぼの」の運営委員として定例役員会に出席
・三木市教育センターにおける教育相談＋三木市健康増進課発達相談（全 12 回/年）
・NPO法人みどり兵庫（法人成年後見制度）の評議員として総会、理事会に出席
・長田区内の障害児者関連施設との交流（くららベーカリー、NPO 法人ウィズアス、）
・ときわ幼稚園の保護者などのカウンセリングを 1/月行った.

今後の課題

1)　臨床研究のまとめ 2)　ＩＣＦ（国際生活機能分類）と地域共生社会創生の立場からの新しい障害児者施設のあり方や療育について考察し、次の実践研究に繋ぐ。 3)　看護師養成課程の中の障害児者看護の充実を新カリキュラムの「地域活動基礎実習」への参画によって実行する.

個人年間活動報告書

教員名	庄司　靖枝	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会（委員長），看護学科研究倫理委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	小児看護学概論,対象論Ⅴ,小児援助論,看護学研究, 医療・看護特論Ⅱ 母子支援実習Ⅰ,課題別総合実習,大学道場miniゼミA,看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	15.27				
本年度の課題					
1. 小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 2. 「附属幼稚園での演習」の研究分析と「卒業生参加の演習」の論文作成 3. 「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」より健康支援の現状のさらなる検討					
本年度の目標					
（教育）小児看護領域における演習（附属幼稚園での演習、卒業生参加の演習）の精錬 （研究）①「附属幼稚園での演習」の研究分析と②「卒業生参加の演習」の論文作成 ③「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」より健康支援の現状のさらなる検討					
主な活動内容					
1）教育活動 ①附属幼稚園での演習がCOVID19のため2年続けて中止となり、新たなアンケートによる調査を行うことができず発表に至らなかった。②に関しては卒業生の演習は行えたが、人数や時間の制限などを加えたため、昨年度との比較には至らなかった。 2）研究活動 研究テーマ：②「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」 ③「地域活動拠点において看護学科が提供するAll Generationの健康支援に向けた実践モデルの検討」 研究の現状：②2018年、2019年のアンケートやインタビューの調査から現在分析中。 ③看護学科が地域で行っている現状の情報収集中。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等：①2021年度公開講座「夏にかかりやすい子ども病気とその対処法」					

②日本小児看護学会第30回学術集会　企画委員（2019年４月～2021年7月）
今後の課題
1. 附属幼稚園での演習についてコロナ禍での工夫、卒業生参加の演習の精錬 2. 「卒業生参加を取り入れた小児看護学演習の意義」の論文作成 3. 「地域活動拠点において看護学科が提供する All Generation の健康支援に向けた実践モデルの検討」まちの保健室の大学での全領域における活動の情報収集と分析・まとめ 4. 「小児がんの子どもを持つ母親の価値の転換と子どもの障害受容」文献レビュー

個人年間活動報告書

教員名	生島　祥江	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	看護学科就職委員会委員長、看護学科臨地実習委員会委員長、FAST等企画運営ユニット委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、看護対象論Ⅱ、慢性病看護論、緩和ケア、リハビリテーション看護論、医療・看護特論Ⅱ、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ、課題別総合実習				
担当科目コマ数	16.47				

本年度の課題
・ 授業では、遠隔授業において、自己学習の活性化を図る工夫をする。 ・ 臨地実習では、臨地での受け入れ状況に応じて学習方法を工夫し、目標到達を維持する。 ・ 研究活動では、共同研究のデータの分析・成果をまとめる。
本年度の目標
・ 授業では、遠隔授業のメリットをいかし、学習到達目標達成を目指す。 ・ 臨地実習では、臨地での受け入れ状況に応じて学習方法を工夫し、目標到達を維持する。 ・ 研究活動では、共同研究のデータの分析・成果をまとめる。
主な活動内容
1）教育活動 授業では、前後期ともにほぼ遠隔授業を実施した。動画を作成して、課題レポート提出期日までに繰り返し視聴できるようにした。学習への取り組み意欲が目標到達度に影響した。臨地実習では、臨地で実習できないと実践にかかる目標の到達は難しい面もあったが、看護の思考過程を充実させる工夫をして総合的に実習目標の到達を維持した。 2）研究活動 研究テーマ：療養支援実習Ⅱにおけるルーブリック評価基準の妥当性 研究の現状：データの収集・整理、まとめ

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 北播磨総合医療センターの看護部実習指導者研修会の講師、神戸常盤大学第 3 回すこラボ講座の講師をつとめた。
今後の課題
・　授業方法の工夫 ・　現在の研究のまとめ

個人年間活動報告書

教員名	十九百　君子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学生委員、ハラスメント防止対策委員、国家試験対策委員委員長 看護学科学生倫理委員、チューター調整連絡役、高大連携				
クラス担任	2年生（学年責任者）	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、 基本看護技術Ⅱ・Ⅲ、看護学研究、看護教育論、基礎看護学実習、 課題別総合実習、大学道場miniゼミB、臨床技術入門				
担当科目コマ数	24.23				

本年度の課題
・学生同士の対話やディスカッションを取り入れる演習授業の展開 ・他教員と連携し効果的な授業方法に取り組む。
本年度の目標
・感染対策を徹底し、演習グループ内での学生間の対話やディスカッションを深める演習展開 ・他教員との連携（授業内容・授業の振り返りと評価）
主な活動内容
1）教育活動 ・看護専門職として教育内容を精選し教授法を活用した授業・活動 ・演習グループ内での学生間の対話が深まる発問 ・授業後、教員間で授業の振り返り等を行う活動 ・臨床の場に出て実習（授業）を行う授業・活動 ・学生の悩みや学ぶ上でのつまずき等のサポート活動（親子面接・個人面接） 2）研究活動 研究テーマ：臨地実習における看護学生の学習経験に関する文献研究 研究の現状：収集した文献から対象文献の選定中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等

・新型コロナウイルスワクチン職域接種　協力員 ・新型コロナウイルス感染症　電話相談室　ボランティア（兵庫県庁） ・神戸市保健センター　ボランティア（東灘保健センター） ・臨床検査技師タスクシフト／シェア　検体採取（検痰）教材作成 ・認知症対応型デイサービス　ともの家（鳥取県）
今後の課題
・他教員との連携の継続 ・教育内容を深化させる授業展開

個人年間活動報告書

教員名	尾﨑雅子	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会（委員長）、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、基本看護技術Ⅰ・Ⅳ、医療・看護特論Ⅱ、基礎看護学実習（看護過程）、看護活動基礎実習、生活健康論実習、課題別総合実習、看護学研究、大学道場miniゼミA、対人援助論（R科）				
担当科目コマ数	21.27				
本年度の課題					
授業については新たな担当科目「看護学概論」を担当することとなり、中核となる内容が抜け落ちないように実施していくことと次年度に向けて内容の整理をしながら進める。そして講義、演習に関わらず学生の学ぼうとする意欲を低下させないよう、参加型の授業を工夫する。研究活動については現在継続中のものを論文にまとめて公表することが課題である。					
本年度の目標					
・学修内容を学生と共有できるようにし、学習意欲を喚起させるような工夫（科目の位置づけ、学ぶ目的や学習成果の確認）をする。 ・研究活動については学生の情意領域の変化について、前年度までにデータ収集した内容は公表できるようにする。また４年生を対象にした研究を行う。					
主な活動内容					
1）教育活動 本年度より担当した「看護学概論」は前年度の内容を引き継ぎ実施した。学生による授業評価はⅠ4.1,Ⅱ4.4,Ⅲ,4.4,Ⅳ4.3,Ⅴ4.4と学科平均と同様の結果であった。毎回の授業後の反応からは看護への興味-関心をもち、自分で調べたことや質問を出してくる学生もいた。全体で共有できるよう授業の始めに前回の復習と質問への解説意見の紹介を行った。また実際の場を知らない1年次の学生にとって抽象的な内容であるため、具体例を示しながら進めた。更に8月の臨地実習へとつながるような投げかけを行うことで、学ぶことへの意欲になったと考える。受講票の未提出者もめだったので、学習習慣を付け					

るためノート作成など工夫が必要である。

2）研究活動

研究テーマ：①技術教育課程における看護学生の情意領域の変化

②A大学看護学科卒業生のリカレント教育に対するニーズ調査

③訪問看護師の在宅看護実践能力を高めるためのリカレント教育に対するニーズ調査

研究の現状：①については2年次の臨地実習後と卒業年次のインタビューを行ったので、結果分析中である。

②③については今年度のテーマ別研究に採択された。②は研究代表として8月倫理審査提出後、調査を実施した。その結果については現在分析中である。③は共同研究者として②と同様に調査を終了し、分析中である。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

・臨床検査技師によるタスク・シフト／シェアに関する厚生労働省指定講習会教材作成「検査のために、経口、経鼻又は気管カニューレ内部から喀痰を吸引して採取する行為」

・高大連携：兵庫県立福崎高校「チーム医療」第１回目授業担当

今後の課題

教育活動については引き続き、学生の学習意欲を喚起させるよう工夫を行うとともに、学修成果としても反映するようにしていく。研究活動についてはデータ収集を終えているものについては紀要など公表に向けて活動する。

個人年間活動報告書

教員名	中田康夫	所属学科等	看護学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ときわ教育推進機構、利益相反マネジメント委員会、新型コロナウイルス感染症対策本部・遠隔授業実施特命チーム、情報インフラ整備ユニット、看護学科4年生国家試験対策講座				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	まなぶる➤ときわびとⅠ、まなぶる➤ときわびとⅡ、超ときわびと、情報基礎、統計学、いのちと共生、コミュニティデザイン、保健統計学、医療統計学、疫学、福祉社会の理解、プレゼンテーション技法、歯科診療補助演習Ⅲ				
担当科目コマ数	15.37				
本年度の課題					

● 基盤教育科目の意図する、「学ぶ悦び、知る愉しさ」を担当科目の中で具現化 ● Social Engagement の質量ともの充実
本年度の目標
● 教育活動では、アクティブラーニングの推進 ● 研究活動では、英文誌への投稿と国際学会での発表 ● 社会的活動の可能な限りの推進
主な活動内容
1）教育活動 これまで「まなぶる➤ときわびとⅠ＆Ⅱ」の経験を踏まえ、そこでの教授学習方法を他の科目にも援用し、前年度以上に学生の主体的・能動的な学修をサポートできるように工夫しつつ授業を展開した。具体的には、教授パラダイムから学修パラダイムへの転換の意識し、教員が「何を教えたか」ではなく、学生が「何を学んだか」に重点を置いた授業を展開することにより、学生が受け身的な学修から主体的な学修へとさらに深化していったと考える。このことは特に今年度新たに担当した「疫学」や、N 科 4 年生に対する国家試験対策講座において活かせたと考える。 2）研究活動 研究テーマ：高等教育改革、高等教育質保証、介護予防、健康寿命の延伸 研究の現状：2020 年度に採択され科学研究費補助金、研究代表者としての 1 件（「看護基礎教育における「数理・データサイエンス教育」のミニマム・エッセンシャルズ」）、研究分担者としての 1 件（「教学 PDCA のための ICT を活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」）の計 2 件は順調に経過している。これらに加え今年度は新たに研究分担者として 1 件（「対人援助職養成課程における【防災教育ミニマム・エッセンシャルズ】」）が採択された。また、高等教育に関する研究は、学会発表・論文投稿（英文誌・国際学会を含む）とも予想以上に順調に推移しており、さらには学内共同研究の成果もいくつか出すことができた。一方、介護予防・健康寿命の延伸に関しては、コロナ禍のため実践が全くできず、研究が中断状態である。この点については、来年度も見通しが全く立っておらず、ペンディング状態となっている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 12 回） 論文（ 8 編） 著書（ 冊） 本年度も昨年度同様、共同研究者とのコラボレーションが思った以上に推進でき、業績を積み上げることができた。 3）社会的活動等 1. 令和 3 年度長田区老人クラブ連合会主催の体力測定回の講師 2. 令和 3 年度きたすま在宅福祉センターすこやか友が丘の運営推進委員会の座長 3. 日本赤十字社和歌山医療センター看護部の指導者育成コース研修における人材育成

や指導に関心のある看護師を対象とした「リフレクションとは？　その目的と方法」をテーマとした研修会の講師（全４回） 4. 日本赤十字看護学会誌　選任査読委員 5. 日本赤十字看護学会　評議員 7. Associate Editor: International Journal of Institutional Research and Management (IJIRM) 8. Program Committee: International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI of 9th lnternational Conference on Data Science and Institutional Research (IIAI DSIR2019) 上記の活動はすべて過年度からの継続的な活動であるが、すべての活動に対して次年度も引き続き支援を要請されていることから、一定の社会貢献ができていると考えている。
今後の課題
● 高等教育の質保証と学修成果の可視化に関する研究の推進 ● 看護基礎教育における数理・データサイエンス教育のありかたの検討と推進 ● 介護予防・健康寿命の延伸に関する研究成果の産出 ● 社会的活動として、コロナ禍で中断中の「介護予防カフェ」のより一層の推進と深化

個人年間活動報告書

教員名	魚崎須美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員会・委員、　就職委員会・委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	大学道場miniゼミ、看護活動基礎実習、地域看護学概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護学実習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、看護学研究				
担当科目コマ数	21.87				
本年度の課題					
2022 年度から始動する新カリキュラムを見据え、授業、実習の具体的な準備を進める。					
本年度の目標					
①授業科目の見直しを行い、新カリキュラムに相応した授業内容と実習の設定を行う。 ②保健師として就職を希望する学生の希望を叶えるための助言、指導を行う。					
主な活動内容					

1）教育活動 目標①および②については、新カリキュラムに相応した授業内容と実習の設定を行い、文科省申請のための資料作成を行った。 目標②については、本年度卒業生のうち保健師として就職を希望した学生は6名あり、全員が行政保健師として就職することができた。（兵庫県1名、姫路市1名、加古川市1名、大阪市1名、奈良県香芝市1名、埼玉県川口市1名） 2）研究活動 研究テーマ： ナイチンゲールの3文献を通してみる公衆衛生看護思想の特徴 研究の現状：日本看護歴史学会誌35号（2022年3月発刊予定）に掲載予定 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 　学会発表（　0　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等 神戸市保健所への「新型コロナウイルス感染症対策業務」支援、兵庫県看護系大学協議会公衆衛生看護学実習委員会委員
今後の課題
①保健師として就職を希望する学生（数名）が、希望するところへ就職できるよう助言・指導する。 ②研究活動への時間配分を行い、論文作成および研究成果の発信に努める。

個人年間活動報告書

教員名	藤原　桜	所属学科	保健科学部　看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	自己点検・評価委員会委員、臨地実習委員会委員、広報委員会委員、国際交流センター委員、認証評価準備委員会委員、高大連携				
クラス担任	3年Aクラス（3年学年担任）	クラブ顧問	ヨガ・アロマ部		
担当科目名	基本看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護対象論Ⅰ、国際保健医療活動Ⅰ、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護研究				
担当科目コマ数	24.30				
本年度の課題					
1.　教育活動：看護技術の教育方法・内容の充実 2.　研究活動：テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）。 3.　社会活動：人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。					
本年度の目標					
1.　教育活動：看護技術の教育方法および内容の充実を図る。 2.　研究活動：テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）事ができる。 3.　社会活動：人々の健康とQOLの向上に貢献できる社会活動ができる。					
主な活動内容					

1.教育活動：主担当科目（基本看護技術Ⅲ）は、遠隔と対面をミックスしたハイブリット型で行った。フルスケールシミュレーションは本年度もオリジナル動画を学生が視聴することで、疑似体験をする方法とした。また、本年度はグループディスカッションの時間を設けた。さらに、動画上の看護師の臨床推論と臨床判断を学生のニードに沿って伝えた。その結果、授業総合評価は 4.7 であった。この結果から本年度の目標 1 は、概ね達成できたと考える。 **2.研究活動：**2017年度のテーマ別研究の成果は、論文にまとめている最中である。2021年度テーマ別研究「A大学看護学科卒業生のリカレント教育に対するニーズ調査」は、結果の分析中である。したがって、本年度の目標2は達成できなかった。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。 　学会発表（0回）論文（0編）著書（0冊） **3.社会的活動等：**以下の活動を行った。 ・川西市保健センターからの委託研修会にて注射の技術指導。 ・臨床検査技師によるタスク・シフト／シェアに関する厚生労働省指定講習会教材作成「検査のために経口、経鼻又は気管カニューレ内部から喀痰を吸引して採取する行為」 ・神戸市主催の新型コロナワクチン集団接種会場でワクチン接種協力。 ・兵庫県消防学校令和3年度救急救命士養成課程にて授業（ボディメカニクス）を担当。 ・子育て支援施設ときわんモトロク「アロマハンドクリーム作り」講座を担当。 ・高大連携（明石南高校）で2回の授業を担当。 ・「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の予算（令和3年度補正予算）獲得のための書類を作成（教育内容）（9,988千円の予算を獲得）。 これらのことから本年度の目標3は達成できたと考える。
次年度の課題
１．看護技術の教育方法・内容の充実（特に TBL・フルスケールシミュレーション） ２．テーマ別研究（2017 年度）の成果を公表する（論文）。 ３．人々の健康と QOL の向上に貢献できる社会活動を継続する。

個人年間活動報告書

教員名	黒野利佐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国際交流委員会　副センター長・国家試験試対策委員会　副委員長				
クラス担任	1年生主担	クラブ顧問	陸上部		
担当科目名	ミニ道場ゼミ、老年看護学概論・対象論III,　老年看護援助論、異文化看護論、活動基礎実習・療養支援実習I及びII、看護研究、課題別実習、看護特論				
担当科目コマ数	21.40				
本年度の課題					

・国家試験対策における大胆な改革を行って学生の意欲の向上を図り全員合格を目指す
・多文化共生・在日外国人の生活支援において、アクションリサーチを継続する。
・老年看護に数年のブランクを経て戻るため、新たな知見や教材を学習しなおし、老年看護に学生が興味をもって意欲的に取り組めるよう講義や演習を工夫する。

本年度の目標

・国家試験対策においては低学力、成績低迷者の意欲の向上、生活習慣・学習方法の改善を個別に図り、全員合格を目指す
・KICC や他の地域連携を通して多文化共生に役する国際保健活動やボランティアに学生を巻き込んで活動していく。
・今年度は老年援助論の演習をピアチューターを用いて工夫する。

主な活動内容

1）教育活動
国家試験対策では、今年度は例年より4か月も早く模試での成績低迷者を割り出し、夏期集中講座を担当した。冬季休暇中も例年通り行った。その中でも成績が最も低迷している学生については個別に試験直前まで丁寧な対策ができたが、低迷者の中間層を取りこぼし3人の不合格者を出した。来年度はより早期から、よりきめ細やかで継続的な対策が必要である。
・在日外国人留学生などの支援はシェアハウスヤドカリが外国人の日本渡航制限を受けて頓挫中である。
・老年援助論のピアチューターを使っての授業展開は、まさに教えることは学ぶことの実践であり、学生から高い評価と支持を得た。ただ、チューターする内容を学生に一任すると易きに流れてしまうので、演習内容の質の担保をするためには二コマの演習授業に対して、課外の時間で平均6~8時間以上かけて教員も授業づくりに参加することが絶対条件である。病院実習指導の後、帰校し18時ごろから22時ごろまで連日授業づくりに参加していた状況が約一か月半続き非常に苛酷であったが、学生たちが演習授業を自分たちの力でやり遂げた達成感を目の前にするとその苦労も吹っ飛ぶ。ただ脳梗塞の事例を通しても、なかなか学生たちの解剖生理、病態理解の不足を改善できないのが今後の課題である。
2）研究活動
研究テーマ：新型コロナ感染症と新型コロナ感染症対策による影響について
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　1　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
国際保健室の活動は保健所と連携して行う結核検診車検診時に行う保健室活動が定着してきて、事前の打ち合わせも保健師の方と丁寧に行うことができるようになった。KICC との連携もイベントの際に国際保健室の開催を呼び掛けていただけるようになり、年末

から 3 月にかけて三回学生のボランティアを含め行うことができた。
今後の課題
・国家試験対策においては低学力、成績低迷者の意欲の向上、生活習慣・学習方法の改善を個別に図り、全員合格を目指す ・KICC や他の地域連携を通して多文化共生に役する国際保健活動やボランティアに学生を巻き込み活動を継続していく。 ・来年度も老年援助論の演習においてピアチューターを活用するが、学生が解剖生理と病態生理、そして治療や看護を関連させて興味を持てるように授業内容を工夫する。

個人年間活動報告書

教員名	島内　敦子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	図書紀要委員会、就職委員会、国家試験対策委員会、高大連携				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護活動基礎実習、母性看護学概論、看護対象論Ⅳ、母性援助論、 医療・看護特論Ⅱ（医療専門職の動向）、大学miniゼミ、 臨床技術入門、母子支援実習Ⅱ、課題別総合実習、看護学研究				
担当科目コマ数	22.10				
本年度の課題					
①COVID-19 禍における講義内容の精選 ②COVID-19 禍における実習内容の工夫と充実 ③COVID-19 禍等、災害時における母子支援、および災害に備えた母子支援準備についての研究計画					
本年度の目標					
①講義内容の工夫と遠隔を含めた、学生の主体的な学修の支援を行う。 ②実習期間の短縮及び学内での実習を行う上での実習内容の工夫を行い、充実を図る					
主な活動内容					
1）教育活動 母性看護学概論から母性援助論、母子支援実習Ⅱまでつながりのある教育内容に徹底することに心がけた。しかし、COVID-19禍において対面での講義が十分でない状況での工夫が必要であった。その中でも、分娩期・産褥期・新生児フィジカルアセスメントに関する演習は、4年生の協力も元、屋根瓦教育を行い、効果的であった。 学生の主体的な学びを触発するために、看護対象論Ⅳでは生殖医療に関する倫理についてディベート、母性援助論ではロールプレイを取り入れた。このことにより学生自身が主体的学ぶ方法や喜びを感じる講義内容ができたと考える。これについては、学生からの授業評価においても好感触であった。					

2）研究活動 研究テーマ：①災害時における母子支援 ②COVID-19禍における母性看護学の講義工夫 研究の現状：①②共、文献検討中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ①甲子園短期大学　性教育講義 ②高大連携　福崎授業　1回　（チーム医療）
今後の課題
授業内容（特に屋根瓦教育）の効果についての検証を続けていくと共に、CPVID-19禍における授業工夫を考える必要がある。 次年度は産後ケアサービス事業への参入について、実践および研究を検討し、テーマ別研究申請および、KIT における「卒乳・断乳教室」「祖父母教室」を開催する。 また、大学における妊産婦支援を具体化し、その上で COVID-19 禍を災害と捉え、災害時における母子支援、および災害に備えた母子支援準備についての研究を検討する。

個人年間活動報告書

教員名	山口有美	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	SD委員会、大学親睦会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	miniゼミB、基本看護技術Ⅰ、基本看護技術Ⅱ、基本看護技術Ⅳ、感染看護学、看護活動基礎実習、生活健康論実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、看護学研究				
担当科目コマ数	23.70				
本年度の課題					
①臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導(継続) ②SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価）(継続) ③研究(科研費最終年度)を活発化し国際学会を含む研究成果など公表活動（継続）					
本年度の目標					
①臨地実習における実習目標達成の為学生の個別性を考慮した効果的な実習指導の実践 ②SD 委員会委員としての活動（学科内 FD 活動の計画立案から実施評価）の実践 ③研究活動を活発化し国際学会を含む研究成果など公表活動の実践					
主な活動内容					
1）教育活動 ・手厚いサポートを必要とする学生に対して面談を重ね必要なサポートを受けられように適切な報告、連絡、相談を行いながら年間を通してフォローした。また、必要に応じて学生と連絡を取り卒業に向けて学習の継続を図れるようにサポートした。					

・単独科目では、manabaを活用し出席管理を行った。また、講義の質問や感想を記載させ翌週の講義の最初に必要時追加説明を行い速やかな対応を心掛けた。 ・複数の教員が実習指導を担当する生活健康論実習（今年度で終講）の調整を行った。 ・公開授業見学1回 2）研究活動 研究テーマ：看護教育のプロンプト付加による記憶強化の為の効果的なVDT画面設計 研究の現状：質問紙調査結果を論文にまとめている段階 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　0　　回）　論文（　0　　編）　著書（　　0　冊） 3）社会的活動等 ・川西市保健センターの新型コロナワクチン委託看護師対象の研修会の技術指導講師 ・新型コロナワクチンの大規模接種会場でのワクチン接種 ・新型コロナウィルス自宅療養者対応のための保健所等への応援
今後の課題
・研究活動が停滞している為、活性化を図り研究成果の公表を行う。 ・来年度が科研費の最終年度となることから 2023 年度以降の研究準備を行う。

個人年間活動報告書

教員名	岩切　由紀	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会、看護学科臨地実習委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱ、療養支援実習Ⅱ・Ⅲ、課題別総合実習、看護学研究、miniゼミ				
担当科目コマ数	20.20				

本年度の課題
1. 看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱの学習内容の質の担保 2. 臨地実習での学習内容の保障と内容を担保できる学内演習の構築 3. 研究論文の作成と投稿で成果を明確にする
本年度の目標
1. 看護研究方法論、クリティカルケアⅠ・Ⅱなど遠隔から対面授業へ移行する中で感染対策を講じながら学習内容の定着を図る。 2. 課題別総合実習、療養支援実習Ⅱ・Ⅲの臨地実習での学習を補償する学内実習の構築。 3. 継続中の研究課題について、論文作成を達成する。
主な活動内容
1）教育活動 （1）授業科目では新型コロナウイルス感染対策のための遠隔授業から対面授業に変更した。昨年度に精選した授業内容に加え、演習を直接の指導下で進めることが出来た。後期は臨地実習指導中も対面での授業で学生への質問等に対応する機会が確保できた。

授業評価では看護研究方法論は、総合評価4.2で学科平均4.4より低い。後半の研究計画書作成の過程の困難感が強かったためと考える。クリティカルケアⅠは、4.7で学科平均4.5と高値であるが、不合格者がいるため全体的に学習を定着させる介入の検討が必要である。
クリティカルケアⅡは4.4で学科平均と同じで令和2年度4.1より上昇した。クリティカル看護のリアリティー感が対面授業により伝えられ学生の関心が得られたためと考える。

miniゼミは倫理課題に取り組んでいる。本年度は看護学科・医療検査学科の履修生であったため、看護学科4年生課題別総合実習の学内実習と合同授業を行った。ICU入院患者の倫理的課題を4年生に提示を求め、1年生が発見する体験型授業としたが、共に好評で1年生の授業評価は5.0と学習成果も得られた。

(2) 臨地実習では感染対策上、昨年度と同様に学生の受け入れされず、学内実習へと置き換えになった。学内での実践的な演習の構築や、視聴覚教材を用いた学習内容とし、事例の提示方法を工夫したが、臨地実習で学ぶ患者やスタッフ集団の中での行動など未修得事項は多い。次年度も学内実習となる前提も含めシミュレーション教育について充足するための準備（学習・機器類）が必要となる。

2) 研究活動

研究テーマ：

1. 超急性期重症外傷患者の身体機能の安定化に向けた熟練看護師の看護ケアの構造分析
2. 療養支援実習Ⅱ（疾患・障害をもつ人の看護）におけるルーブリック評価基準の妥当性の検討

研究の現状：

1. 結果の再分析から論文作成に進める過程である。本テーマに先行する総説「国内文献の分析に基づく外傷看護に関する研究の動向と課題」の投稿は完了した。
2. データ収集中である。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊）

3) 社会的活動等

(1) 日本救急看護学会調査研究委員会

学術集会で編集委員会との合同企画で「研究相談」をオンラインで実施した。

セミナーではオンラインを活用し「事例研究：基礎・実践例」と「看護研究セミナー」を開催した。その他、研究助成申請の審査を実施した。

(2) 神戸市コロナワクチン接種協力　など

今後の課題

1. 新しく担当する科目（成人看護学総論、看護対象論Ⅱ）の授業を選考する科目と連動するように授業を構築する。

2. 臨地実習困難時の学内演習のシミュレーション教育の充実を図る。 3. シミュレーション教育に関連した事例に関する共同研究に取り組み成果を出す。 4. 看護学科臨地実習委員会の運営方法の変更による機能的な活動を促す。 5. 入試に関する看護学科志願者の減少を改善する取り組みと、意欲・学力の高い生徒が確保できるよう試験方法の検討を行う。

個人年間活動報告書

教員名	立垣　祐子	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	臨地実習委員会委員・危機管理(災害)委員会委員				
クラス担任	―	クラブ顧問	―		
担当科目名	精神看護学概論，精神看護特性論，精神援助論，健康支援実習Ⅱ(精神)，災害看護学，看護学研究，課題別総合実習(精神看護)，医療・看護特論Ⅱ				
担当科目コマ数	19.30				

本年度の課題

1) 教育活動目標：『精神看護における地域包括ケア教育モデル(試案)』を完成する.
2) 研究活動目標：研究成果を発表・投稿する.
3) 社会活動目標：兵庫県看護系大学協議会の実践活動に積極的に参加する.
日本災害看護学会の活動に積極的に参加する.

本年度の目標

1) 教育活動目標：精神看護学関連科目の統合を行う.
家族看護学の科目担当を新たに行う.
2) 研究活動目標：科研基盤(C)研究課題 2 題について論文化およびデータ収集を行う.
実習施設との共同研究活動を開始する.
3) 社会活動目標：兵庫県看護系大学協議会の災害時における大学間ネットワーク構築に参画する.
日本災害看護学会の活動に理事として参画する.

主な活動内容

1) 教育活動.

①教育活動の実施

<u>実習施設との関係改善，および新規実習施設(精神科病院)の開拓</u>

実習施設との関係改善については，複数回の会議をもち，改善策を提示し，実習受け入れ継続へとつなげた．新規実習施設を開拓し，さらに施設での実習を実施した．

『精神看護における地域包括ケア教育モデル(試案)』を完成については，実践知は習得したが，モデルの構築までには至らなかった.

②新カリキュラムに対応する教育活動の実施

<u>地域包括ケアを見据えた新規実習施設の開拓</u>

地域包括ケアを前提とした精神看護の現象に出会う実習環境を整えることを目標として精神科病院以外(福祉サービス事業所等)の実習施設開拓を行い，実習を実施した.

<u>精神科看護師を志向するジェネラリスト教育の推進</u>

本年度から新たに担当した「精神看護学概論」において，学問的基礎を重視し，看護理論を中心とした内容に大幅に変更した．令和3年度卒業生のうち4名の精神科病院就職につなげた.

③学生授業評価

<u>科目責任者である科目の授業評価</u>

「精神看護学概論」4.6，「健康支援実習Ⅱ(精神)」4.9，「災害看護学」4.8であり，いずれも学科平均を上回っている.

<u>科目担当者である科目の授業評価</u>

「精神看護特性論」4.1，「精神援助論」4.2であり，学科平均となっている.

2) 研究活動

①研究課題：**「災害発生時における精神障害者の適応的行動を促進させる介入支援モデルの開発」**(研究代表者)
研究資金/科研費 基盤研究(C)19K10579
進捗状況/データ分析

③研究課題：**「精神科病院における褥瘡発生の実態と発生要因に関する前向きコホート研究」**(研究分担者)
研究資金/兵庫医療大学看護学部 研究活動支援費
進捗状況/投稿論文作成

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（5回）　論文（1編　投稿中）　著書（0冊）

3) 社会的活動等

①兵庫県保健所派遣応援(芦屋健康福祉事務所)

②日本災害看護学会　理事

③日本災害看護学会　査読委員

④日本リウマチ看護学会　指名理事

今後の課題

本年度の目標として掲げた事項を計画的に遂行する.

1) 教育活動目標：精神看護学関連科目の統合を行う.
家族看護学の科目担当を新たに行う.

2) 研究活動目標：科研基盤(C)研究課題2題について論文化およびデータ収集を行う.
実習施設との共同研究活動を開始する.

3) 社会活動目標：兵庫県看護系大学協議会の災害時における大学間ネットワーク構築に参画する.
日本災害看護学会の活動に理事として参画する.

個人年間活動報告書

教員名	伊東愛	所属学科等	看護学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会、臨地実習委員会、個人情報保護委員会、保健管理センター、保健師課程委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	公衆衛生看護展開論Ⅱ、公衆衛生看護展開論演習Ⅰ、公衆衛生看護展開論演習Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、健康相談の理論と方法、看護学研究、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	24.50				

本年度の課題

・公衆衛生看護学担当科目において、これまで保健師養成課程として必要な教授内容が盛り込まれていなかったことが判明したことから、授業の組み立て直しを行う必要がある。
・新型コロナウイルス応援派遣に関して保健所とカウンターパート大学として契約している大学は兵庫県内 15 の大学のうち 4 大学だけであり、本学は芦屋健康福祉事務所のカウンターパート大学として契約している。しかし、実際は本学の応援派遣の実績は 0 であり、芦屋健康福祉事務所との関係を再構築する必要がある。
・臨地実習委員会が主となって取り組む『臨地実習指導研修会』に関して、文言化されたものがなく、担当者間で共通認識が図れないことから、内規を作成する必要がある。

本年度の目標

・公衆衛生看護学の担当科目での教授内容の変更
・芦屋健康福祉事務所の新型コロナウイルス応援派遣活動を月 1 回以上実施
・『臨地実習指導研修会』の内規の作成

主な活動内容

1）教育活動
・公衆衛生看護学実習で経験する分野や活動内容、および国家試験に頻出する内容を限られた授業時間内に盛り込み、教授した。
・臨地にて実習ができるよう調整を行い、担当した実習先においては、1か所を除き、全日臨地で実習を行うことができ、4年生では健康教育もしくは家庭訪問が実施できた。
・『健康相談の理論と方法』において、地域包括ケアを意識し、看護師を目指す学生においても患者や家族からの「健康相談」に関して、対象の立場に立って知識・技術を学べるよう、授業の構成自体を変更した。
2）研究活動
研究テーマ：子ども虐待発生予防・再発予防支援のための看護ネットワークの開発
研究の現状：子育て世代包括支援センター保健師のインタビューを行い、質的分析を行っている段階である。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等 ・芦屋健康福祉事務所への新型コロナウイルス応援派遣で、6 月からの 10 か月間に正月を含む土日・祝日の 25 日間、活動を行った。芦屋健康福祉事務所地域保健課課長より「新型コロナ患者支援や保健師活動について分析・検討できた」「協力いただける神戸常盤大学の実習を受け入れたい」との弁をもらった。 ・看護学科臨地実習指導研修会の内規を作成した。
今後の課題
・保健師養成課程で教授すべき内容は盛り込めたが、時間数が足りずに詰め込み過ぎの感があったため、科目間連携を行い、時間配分や内容を再検討する必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	西村充弘	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員会・高大連携				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	健康支援実習Ⅱ（精神）、 課題別総合実習（精神）、精神看護特性論、 精神看護援助論、災害看護、看護学研究				
担当科目コマ数	18.43				
本年度の課題					
・依存症家族支援のための介入プログラムの効果について整理継続。 ・兵庫精神医療の歴史について資料を整理継続。 ・精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）の検討。					
本年度の目標					
精神看護における地域包括ケア教育モデル（試案）の検討。					
主な活動内容					
1）教育活動 コロナ禍でも臨地実習が出来た時と中止になった時とあった。中止になった時の代替え授業は、昨年の経験を生かして精神障碍をもつ当事者や精神看護の実践家を招聘し、昨年、不都合な部分を調整しながら行った。 臨地実習に行けなかった学生は、当事者の入院経験や地域での生活を聞き、この当事者に必要な看護援助をセルフケアの視点から看護計画を立案して、後日、学生が立てた看護計画を当事者に意見をもらいながら修正を行ったことで、臨地実習に行った時のような学習効果が有った。 精神看護の実践家からは、精神に障碍をもつ当事者をどのように地域で支援をしているのか、現状を知ることが出来た。 学生からは「看護計画立案の意義が分かった」などの感想が聞けた。 次年度も地域包括ケアを前提とした精神看護を取り入れていく。					

2)　研究活動
①研究課題：依存症を持つ当事者と家族への支援
研究の現状：依存症家族支援のための介入プログラムは継続をして行えているが、新型コロナウイルスにより、プログラムが出来なくなり、そのまま継続となる。
②研究課題：兵庫精神医療の歴史の調査
研究の現状：兵庫精神医療の歴史の再調査についても、新型コロナウイルスにより、プログラムが出来なくなり、そのまま継続となる。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等
・高大連携の講師　兵庫県立福崎高校　5月11日
・芦屋健康福祉事務所へ応援　新型コロナウイルス感染症の自宅待機者へのフォローアップ体制の強化のため、6月～3月

今後の課題

・本年度の目標事項の計画的遂行。

個人年間活動報告書

教員名	阿児馨	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、就職委員、まちの保健室、介護予防事業、すこラボ				
クラス担任	４年生Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	看護教育論、老年援助論、療養支援実習ⅠⅡⅢ				
担当科目コマ数	21.70				

本年度の課題

・地域における共生社会の実現に向けて、自己の研究課題の明確化
・「専門職連携教育の研究」「地域研究」他学科教職員との研究活動
・演習授業、実習評価の検討

本年度の目標

１）履修登録、非常勤講師の manaba システムへの対応により学生の学修保証をする。
２）療養支援実習Ⅰの臨地実習先との調整や実習展開方法の検討と評価を行う。
３）2021 テーマ別研究の調査は、計画的に進め、データー収集と整理を行っていく。
４）すこラボの開設により、各学科が共通テーマ「糖尿病」に対して講座を行う

主な活動内容

1）教育活動
・質の高い演習、実習の実現に向けて、学生の体験を尊重し、教授活動に努力した

2）研究活動
研究テーマ：「特別養護老人ホームにおける口腔衛生管理の効果に関する研究」
研究の現状：３回の調査とアンケート、インタビュー実施。データーの入力後、解析を行っている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・長田区の健康センターからの依頼、区の結核健診併設の健康相談を実施することで外国人を含む地域住民の健康予防活動。長田の商店街での健康相談を実施した。
・神戸市からの依頼、新型コロナウイルス感染症のデーター入力、電話対応を行った保健所へ大学勤務時間後の夜間に実施した。
・川西市からの依頼で潜在看護師へのワクチン接種の指導を行った。
・神戸市からの依頼、須磨パテイオと大学でワクチン接種のボランテイアを行った。
・神戸常盤大学の介護予防事業として講座を行った。
・すこラボ講座として「糖尿病と足病変」Web配信を行った。

今後の課題

・テーマ別研究のデーターの解析、関連学会への発表。・研究を計画的に進める
・新しいオムニバスの授業が開始するので教材研究と単元の考察、授業評価。

個人年間活動報告書

教員名	伊東　美智子	所属学科等	看護	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会、臨地実習委員会、まちの保健室 神戸常盤大学キャンパス拠点(会計)				
クラス担任	1年Aクラス	クラブ顧問			
担当科目名	母性援助論、母子支援実習Ⅲ（母性）、課題別総合実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	26.23				

本年度の課題

①母性看護学教員として役割を果たせるように、感染予防対策にも務めながら努める。
②科研費研究活動や博士課程（後期課程）研究活動と、大学本務との両立に励む。

本年度の目標

①　母性看護学教員の講師として、学内・学外における新型コロナ感染症対策にも留意しながら、役割を果たせるように努めることができる。

② 研究活動と大学本務との両立ができる。
主な活動内容
1）教育活動 心身の特性への配慮を行いながら、知識と臨地実習経験レベルが異なる学生や状況に合わせた指導と共に、新型コロナ感染予防対策にも努めながら、上司や科目担当教員と連絡を密に取り合いながら臨んだ。 2）研究活動 研究テーマ：❶社会人経験看護学生、❷産後ケア事業、❸シミュレーション教育 研究の現状：❶研究は継続して取り組んでいる。❷新規研究テーマである「産後ケア事業」の中でも、デイケアサービスに関する先行研究の文献検討に取り組んだ。その結果は学術集会で発表し、本学紀要に論文投稿した（3月末掲載決定）。❸学内演習でシミュレーション教育は以前より導入しており、特に本年の課題別実習の取り組みは緑葉に投稿した。「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の看護学科母子領域担当として、シミュレーションを想定した演習計画書の作成・提案を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 3 回） 論文（査読なし 1編、査読あり 1編） 著書（ 0 冊） 3）社会的活動等 ・新型コロナワクチンの接種支援として、本学で2回行われたの職域支援と須磨パティオ会場への出張を6～10月にかけて不定期であるが参加した。 以上より、目標達成は項目個々に達成度に違いはあるが、精一杯取り組んだ。
今後の課題
・母性看護学教員の講師として、実習・演習の調整と一部講義も努める。 ・これまでの社会人教育に関するテーマに加え、地域の母子支援に繋がる助産師活動に関するテーマについて、実質的で研究的な活動に励む。

個人年間活動報告書

教員名	尾﨑優子	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会　委員　　看護学科臨地実習委員会　委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護対象論ｖ、小児援助論、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、母子支援実習Ⅰ、課題別総合実習、看護学研究、まなぶるときわびとⅠ、地域との協働A				
担当科目コマ数	21.43				

本年度の課題

・　講師に昇任したことも踏まえ、小児看護学の諸授業において第一の主体となってこれまで以上に授業を担っていくと同時に、母子支援看護学領域全体を俯瞰し、他教員とよく連携して講師としての役割が果たせるよう努める。
・　委嘱委員が一部変更され、新たに入試広報委員会委員が加わった。入試の実施・広報に関わる仕事の内容をよく理解し実行する。
・　前年度に引き続きクラスを担任する。Covid-19 の影響等も考慮しながら学生のサポートを継続する。
・　研究活動においては、論文投稿をリトライすること、博士論文の執筆作業を進めること、科研費申請を継続して取り組むことが課題である。また、小児看護学領域の研究に取り組んでいくことを課題とする。

本年度の目標

・　担当する小児看護学授業を主体となって運営していく。
・　新たに委嘱された入試委員と、新２年生の担任としての職責を果たす。
・　学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文を投稿する。

主な活動内容

1）教育活動
・　小児看護学各科目授業の実施（担当コマ数：小児援助論10回、看護対象論Ｖ7回）
　定期試験作成・実施・成績評価
・　臨地実習を想定した学内演習の計画・実施・評価（小児援助論・課題別総合実習）
・　各臨地実習指導、レポート指導、実習評価
・　実習病院臨床指導者会へのweb会議、令和3年度臨地実習指導研修会の企画・運営
・　看護学研究指導
・　基盤教育分野（前期まなぶる、地域との協働Aのうち1コマ分）の授業の実施
2）研究活動
研究テーマおよび現状：
　1.小児看護学教育方法に関する研究（取組中）　2.博士課程における研究（取組中）
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　0回）　論文（　0編）　著書（　0冊）
3）社会的活動等
・令和４年度　日本福祉教育・ボランティア学習学会第 28 回こうべ大会実行委員

今後の課題

　担当授業コマ数が一気に増えた事、それが特に前期に集中しほぼ毎日授業や実習がある状態だった事、小児関連実習の要項作成、スケジュールと実習内容の調整等々のほとんどを担った事により、授業研究や研究活動はほぼストップし、科研費申請もできなかった。次年度は、学科・領域内教員とよく連携し、修了年限の迫る博士課程論文執筆に集中し今後の教育研究活動の充実に向けた自己の態勢を整えることを課題とする。

【次年度の目標】
・　担当科目の充実を図る。
・　各種委員会、担任の職責を引き続き果たす。
・　学会活動、論文投稿を積極的に行う。査読付き論文を投稿する。

個人年間活動報告書

教員名	山本恵	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護特性論、在宅援助論、チーム医療、健康支援実習Ⅰ 医療看護特性論、看護研究、課題別総合実習、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	18.67				

本年度の課題

本年度の目標

2021 年度着任し、本学教員としての役割を果たすことを目標とした。
実務経験をいかし、臨場感のあるおもしろい授業を目標とした。

主な活動内容

1） 教育活動
前期3年生の援助論、4年生の課題別総合実習、後期2年生の在宅看護の特性論を科目担当し、臨地実習指導を行った。チーム医療を担当した。学生の成長過程を逆から見たことで本学がどのような学生を育成したいのかが理解でき、後期の授業や実習に生かすことができた。実習や研究では、授業で伝えきれなかったことを補完し、学生との対話を重視し、学生自らが目標を達成できるよう支援した。授業評価では、資料の煩雑さや声の指摘があり改善の必要性がある。実務経験をいかし事例を提示したが、難しいという評価があり、初学者がわかるための丁寧な分解を必要とすることがわかった。

2）研究活動
研究テーマ①：認知症を抱える高齢者のナラティブ
研究の現状：未着手
研究テーマ②：特別養護老人ホームにおける看護の専門性（仮）
研究の現状：アクションリサーチに向けて施設の事前調査に着手
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等
福祉サービス・社会的擁護関係施設第三者評価調査　　施設看護師の教育支援

今後の課題

授業については上記の評価をもとに次年度修正をする
研究に着手するための時間管理をおこなう
先行研究としての論文の作成をおこなう

個人年間活動報告書

教員名	原　希代	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	国家試験対策委委員　臨地実習委員				
クラス担任	看護学科2年生Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護援助論・在宅看護特性論・健康支援実習Ⅰ・課題別実習・ 看護研究・まなぶるときわ人				
担当科目コマ数	19.30				

本年度の課題

① 在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立
② 研究の再開
③ 看護教育に関する研究を開始
④ 地域における基盤づくり

本年度の目標

① 在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立
② 研究の再開
③ 看護教育に関する研究を開始
④ 地域における基盤づくり

主な活動内容

1）教育活動

①在宅看護学領域における教育体制の基盤の確立

・授業案を系内でブレーンストーミングを行う。また、それらの授業を評価、修正をおこないながら実施する。

・ICFの概念を本年度実習記録に採用し、生活機能を支える看護に特化した看護過程の展開を行う。その記録を採用したことにより、学生は生活機能に特化した看護展開を行うことができた。また、施設においても概ね評価は良好であった。

・実習におけるカリキュラム変更のため、実習施設において調整を行う。

2）研究活動

研究テーマ：①「医療的ケア児とその家族の集いの効果」
②「きょうだい児における行動と親の養育態度の関連性」

研究の現状：①学会において結果をオーラル発表する。
現在、執筆中である。
②倫理申請提出し、現在コロナ禍のため中座中である。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

医療的ケア児とその家族の集いを、緊急事態宣言解除時に実施する。

今後の課題

教育活動においては、実習施設から具体的な課題が掲示されたため、授業への反映、実施を行う。

研究においては、コロナの状況をふまえながら、研究を再開を目指す。

個人年間活動報告書

教員名	中村由果理	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会・広報委員会・神戸常盤地域交流センター・国家試験対策委員会　すこラボ				
クラス担任		クラブ顧問			
当科目名	基本看護技術Ⅰ～Ⅲ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、課題別実習、生活健康論実習、看護教育論、看護学研究、まなぶる▸ときわびと				
科目コマ数	25.47				

本年度の課題

学生個々を大切にした教育を実践していく。
研究活動の充実を図る。

本年度の目標

１．基礎看護学の授業を通して学生個々と向き合い看護実践につながる教育を行う。
２．看護学実習における看護教員の関わりについて研究を進めていく。

主な活動内容

1) 教育活動

基本看護技術Ⅰにおいては、寝衣交換・栄養摂取・食事の援助に関する講義を担当した。

基本看護技術Ⅱにおいては、呼吸を整える技術・栄養管理に関する看護に関する講義を担当した

基本看護技術Ⅲにおいては、筋骨格筋系のフィジカルアセスメントに関する講義を担当した。

看護教育論では、継続教育の現状と課題についての講義を担当した。

看護学研究では、コロナ禍における看護学実習に関する研究や糖尿病患者をもつ家族看護について等を指導した。

全学の入学前教育の看護学科担当となった

2)研究活動

研究テーマ： 看護学実習教育に関する研究

研究の現状： コロナ禍における遠隔授業支援システム・模擬患者を活用した課題別実習での学びについて、日本看護研究学会で発表した。

本年度の研究業績：（research map　参照）

学会発表（　1　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3)社会的活動等

臨床検査技師の吸引に関するテキスト並びに吸引における動画等教材の作成を行った。
神戸総合医療専門学校　言語聴覚士科、理学療法士科、作業療法士科「吸引」に関する講義を行った。川西市からの要請でコロナワクチン接種に伴う施注の指導を行った。

今後の課題

基礎看護学の授業を通しておおむね達成できた。 研究活動としてコロナ禍における遠隔授業支援システム・模擬患者を活用した課題別実習での学びについて学会発表を行った。来年度は論文投稿できるようにしていく。これらの研究を踏まえ、DX を活用した実習についても研究をしていく予定である。

個人年間活動報告書

教員名	江口実希	所属学科等	看護学科	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	精神援助論、健康支援実習Ⅱ、課題別総合実習、まなぶるときわびとⅠ、看護研究				
担当科目コマ数	21.23				

本年度の課題
教育では、講義内容・実習指導の充実化が課題である。 また、社会貢献活動の実施が十分とは言えず、社会貢献活動の参加が課題である。
本年度の目標
1. 教育：講義では授業評価を参考に、講義内容を見直し、教育方法の検討を行う。また、実習や看護研究指導では学生個々の特性に配慮しながら進める。 2. 社会的活動：年間 2 回以上社会活動に参加する
主な活動内容
1）教育活動 担当領域の精神看護学領域では、講義科目での既習科目の復習と演習による知識定着の強化の後、気分障害、統合失調症当事者を外部講師として招聘し具体的なエピソードを聞くことでより対象理解の促進を試みた。授業評価では概ね良好な評価が得られた。 臨地実習では、緊急事態宣言発令に伴い、臨地実習と学内実習を交えて指導した。 学生指導では、年2回のチューター面接や、国家試験模試成績低迷者に対する面接や定期的な学習指導を行った。 2）研究活動 研究テーマ：反すうに着目したマインドフルネスを用いた看護介入の効果の評価 研究の現状：介入の効果を量的に評価した 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（1回）　論文（2編）　著書(0冊) 3）社会的活動等 公開授業の実施、公開授業の見学 コロナウイルスワクチン接種支援、コロナウイルスワクチン職域接種
今後の課題
1、教育活動の充実：委員会活動(国家試験対策委員会)や学年担任(4 年生)を通して、国家試験合格 100%を目指し、学習支援とメンタルヘルス支援を行う。特に低迷者にたいし

て、定期的な面接を行い学生個々の特徴に合わせた指導を行う。講義では、シラバスを見直し、国家試験対策や実習への準備性をさらに整える。 2、社会的活動の充実：昨年度はコロナ禍によりＮＰＯ活動が中止となった。今年度はＮＰＯ活動を通じて地域住民に向けた講習会や健康支援イベントの参加を計画している。 3、研究活動の継続（外部資金助成の応募）

個人年間活動報告書

教員名	紀ノ岡　浩美	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国際交流委員会、教務委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	1年Bクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶる▸ときわびとⅠ、地域との協働A、国際保健医療活動Ⅱ、課題別総合実習、看護活動基礎実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	29.87				

本年度の課題
テーマ別研究（ルーブリック）を論文としてまとめ、紀要に投稿する 新たにテーマ別研究（リカレント教育）を実施し、学会で発表する 昨年度の実習形態に関する研究を実施し、学会で発表する
本年度の目標
テーマ別研究（リカレント教育）を論文としてまとめ、紀要に投稿する 新型コロナウイルス感染拡大に伴う学内領域別実習のあり方に関する研究を実施する テーマ別研究（ルーブリック）を論文にまとめる
主な活動内容
1）教育活動 地域との協働Aの授業として「サービス・ラーニング」の講義をマナバ上で実施。 各実習における実習指導と学内実習の実習計画案を立案し実施。 まなぶる▸ときわびとⅠにおいて学生への講義及び指導を実施。 国家試験対策委員として1年生の国家試験対策を担当 2）研究活動 研究テーマ：訪問看護師の在宅看護実践力を高めるためのリカレント教育に対するニーズ調査 研究の現状：兵庫県下の訪問看護ステーションに勤める管理者及び訪問看護師にニーズ調査を行い、調査結果の集計を進めている。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等

今後の課題
2 つのテーマ別研究（ルーブリック・リカレント教育）を論文にまとめる 新型コロナウイルス感染拡大に伴う学内領域別実習のあり方に関する研究を実施する

個人年間活動報告書

教員名	坂井　利衣	所属学科等	看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	国家試験委員会、就職委員会、健康管理センター				
クラス担任	３年生　Ｂクラス	クラブ顧問			
担当科目名	看護対象論Ｖ、小児援助論、母子支援実習Ｉ、課題別総合実習（小児）、まなぶるＩ、看護活動基礎実習				
担当科目コマ数	26.47				

本年度の課題
・主に担当する 3 年生と 4 年生の学習状況や傾向を掴み教育的課題の明確化に努める。 ・研究テーマを絞る。
本年度の目標
・積極的に教育方法の検討や改善を図る。 ・研究業績や社会貢献活動を１つ以上取り組む。
主な活動内容
1）教育活動 ＜前期＞ ・小児対象論（演習５コマ×２回：ＡＢクラス）、小児援助論（演習９コマ×２回：ＡＢクラス、講義２コマ）の内容について計画を立て実施した。 ・課題別総合実習（小児）では、全週の実習計画を立て実習指導を行った。 ・看護活動基礎実習では、実習指導を行った。 ・まなぶるＩでは、課題別総合実習指導のため３回欠席したが、その他の回は学生指導を行った。 ＜後期＞ ・母子支援実習Ｉで１０グループ：約５０名の臨地実習指導を主に行った。 2）研究活動 研究テーマ：①保育園・幼稚園に通園している「気になる子」が早期療育を受けられるための方略構築、②小児援助論で取り組んだ演習を研究するため本学紀要に投稿したが、諸事情のため取り下げた。 研究の現状：①「気になる子」と密に関わる多職種だけでなく保護者も対象として早期支援に繋がった経験を振り返ってもらい、実際の支援やそのプロセスにおける保護者の思いや考えの変化についてインタビューを行い、その結果から新たな試案を作成

し、再度インタビューを通して検証するような研究はみられない。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　１回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 小児救急電話相談事業に従事している（月１回）
今後の課題 ・今後も引き続き、科研申請を行い、新たな社会貢献活動に取り組む。

個人年間活動報告書

教員名	松岡　真菜	所属学科等	保健科学部看護学科	職名	助教
委嘱委員・職務	臨地実習委員会、KTU委員会				
クラス担任	4年生Bクラス担任	クラブ顧問			
担当科目名	まなぶるときわびとⅠ、看護活動基礎実習、基礎看護学実習、課題別総合実習、療養支援実習Ⅱ、療養支援実習Ⅲ				
担当科目コマ数	27.17				
本年度の課題					
新型コロナウイルス感染拡大下の中での臨地実習の実施					
本年度の目標					
新型コロナウイルス感染拡大下の中での臨地実習の実施と検討					
主な活動内容					
1）教育活動 実習指導 2）研究活動 研究テーマ：　ルーブリック評価 研究の現状：データ収集・検討 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等					
今後の課題					
新型コロナウイルス感染拡大下の中での臨地実習の実施と検討					

個人年間活動報告書

教員名	大森雅人	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	副学長、学部長、ときわ教育推進機構長、こども教育学科改革検討委員会委員長、学園一体化推進協議会、運営委員会、学長会議、認証評価準備委員会、入試委員会（合否判定部会）、遠隔授業サポートチーム、情報インフラ整備ユニット				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	保育内容（環境）、保育・教育課題研究Ⅰ 教職実践演習（幼稚園・小学校）、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教育と情報、教育方法・技術論 情報メディア演習				
担当科目コマ数	11.67				

本年度の課題

・新たな学科のあり方に関して、具体的な計画を作成した上で、本年度中に必要となる申請等を着実に行う必要がある。
・科研費研究に関して、本年度が最終年度になるため、一定の成果を上げる必要がある。

本年度の目標

・学科の改革案を作成の上で、年度末に新教員養成課程（中免理科）の申請を行う。
・科研費の研究計画では本年度が最終年度となるので、一定の成果が得られるように研究を推進する。

主な活動内容

1）教育活動
授業担当の他、大学・学科全体の教育に関する管理運営・方針策定に携わった。
2）研究活動
研究テーマ：大学教育の効果（保育者養成教育を中心に）を高めるための研究
研究の現状：共同研究では一定の成果を得ているが、単独で行っている科研費の研究に関して、コロナ禍に対応しての学内感染対策、遠隔授業対応等が中心となり、研究は予定委通りには進捗していない。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　1　回）　論文（　8　編）　著書（　　冊）
3）社会的活動等
高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校で講師を務めた。川西市の公立幼稚園の研究発表の指導を行った。全国保育士養成協議会理事及び社会福祉法人（保育所経営）2法人の評議員を務めた。

今後の課題

・策定した学科の改革案の令和5年度実施に向けて、その準備を着実に行う必要がある。
・コロナ特例で延長中の科研費研究に関して、一定の成果を上げる必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	光成研一郎	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、教職支援センター長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	硬式テニス部		
担当科目名	「教育原理」・「教育方法・技術論」・「卒業研究Ⅰ」 「卒業研究Ⅱ」・「卒業研究Ⅲ」・「卒業研究Ⅳ」 「まなぶる▸ときわびとⅠ」・「まなぶる▸ときわびとⅡ」 「キャリア基礎」・「大学道場ミニゼミ」・「教育と人間」				
担当科目コマ数	9.97				

本年度の課題

教育に関しては、基盤教育の改変が行われており、「学びのはじめ科目群」の検討が行われた。それに応じた「まなぶる▸ときわびとⅡ」に関する教育内容の検討をコアチームと数名の担当教員で行った。その結果、SPI を活用した「計画的学修と学びあい」をテーマに授業実施することが決定した。研究面に関しては、科研費に採択されたテーマ「教学PDCA のための ICT を活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」に取り組んだ。成果としては、来年度より科目改変が進んでいる「教育方法、通信技術活用論」の実施計画を作成した。

本年度の目標

・「まなぶる▸ときわびとⅡ」の授業内容に関して検討をする。
・科研費のテーマ「教学PDCAのためのICTを活用したカリキュラム・マップの新汎用的可視化法の開発」に取り組む

主な活動内容

1）教育活動
・「まなぶる▸ときわびとⅠ」、「まなぶる▸ときわびとⅡ」の運営
・「まなぶる▸ときわびとⅡ」に関する検討会議の実施
・入学前教育の立案・実施
・常盤女子校の入学前ガイダンスの実施
2）研究活動
研究テーマ：ジョン・デューイの反省的経験観に関する研究
研究の現状：ジョン・デューイの教育理論に基づくアクティブ・ラーニングの活用法の検討。
初年次教育学会で2021年度教育実践賞を受賞。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（1回）　論文（3編）　著書（1冊）

3）社会的活動等
防災教育学会第 2 回大会、大会委員長を拝命し、6 月 27 日（日）本学において、オンラ

インで学会を無事運営することができた。
今後の課題
研究面においては、昨年度作成した「教育方法、通信技術活用論」の実施計画に基づき、授業計画を考えるとともに、学生にいかに自らICT機器を活用した保育・教育計画の立案及び実践が可能となるかについて考察する。 教育面においては、入学前教育、初年次教育に関わる学内業務が増加しているので、それらの有機的連携について考え、実施する。また再来年度より実施される「防災教育実践」の実施計画についても検討する。

個人年間活動報告書

教員名	多田　琴子	所属学科等	子ども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科臨地実習委員、学科就職委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ　基礎研究演習Ⅱ　教職論　保育の計画と評価 子どもと言葉　保育指導法　保育・教育課題研究Ⅱ 保育・教育課題研究Ⅲ　教育実習指導　教育実習 教職実践演習（幼稚園・小学校）				
担当科目コマ数	12.40				
本年度の課題					
①保育者養成コース学生の公立保育所、幼稚園・こども園就職に向けて、3 年時からのサポート体制を整え、学生間の支え合いを促していくとともに、採用者数向上に努める。 ②子ども哲学（p4c）の実践を保育現場に広げていくとともに、その経過をまとめる。					
本年度の目標					
・公立幼保就職率向上を目指し、3 年生時から学習時間を設ける。公立幼保採用試験に標準を合わせ模擬保育集団討論等、学生の自己表現力向上強化を図る。 ・子ども哲学（p4c）実践を継続し、子どもも保育者も「話す・聞く・考える→よく話す・よく聞く・深く考える」幼児教育の推進を図る。					
主な活動内容					
1）教育活動 ・公立幼保希望の４年生と３年生それぞれLINEグループで連絡を取り合い、自主的勉強会を支えるシステムをつくった。４年生に対しては受験する自治体別対策を行い、本年度は４名が５自治体の採用試験合格の結果を出した。 ３年生に対しては、本年度の自治体別試験内容を踏まえ、集団討論や模擬保育な度を実施した。 ・子ども哲学（p4c）は、附属ときわ幼稚園で4回計画し3回実施した。未実施の１回はコロナ感染症蔓延のため中止となった。					

・「保育者としての力量形成」に向けた、「空きコマボランティア」は、11月～12月に附属ときわ幼稚園で実施することができた。事後、学生の感想には、実際に子どもに触れること現場に赴くことの大切さに気付いたという実感が述べられており、ヒデュンカリキュラムとしての「空きコマボランティア」の価値を実証できた。

2）研究活動

研究テーマ：①保育者の職能形成
②幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造

研究の現状：

①保育現場と協働関係を築きながら、市川町・西脇市・姫路市で継続的に保育者研修（研究会・園内研修・キャリアアップ研修）を行い、保育者の職能形成に係る情報収集と研修内容をまとめた。

② 子ども哲学（p4c）に取り組んで３年経過した。附属ときわ幼稚園での実践を踏まえながら、幼小の教職員で幼小接続期の語る力聞く力考える力を育ちの過程に必要な実践のあり様を模索した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　２　回）　論文（　１　編）　著書（　共著２　冊）

3）社会的活動等

・附属ときわ幼稚園とのコラボ事業「キッズクラブ」のコーディネート
・附属ときわ幼稚園 キッズクラブ 講師（６回）
・常盤女子高等学校模擬授業２年生 講師
・鈴蘭台高等学校～総合的な学習～授業 講師
・姫路市立幼稚園園内研修（飾磨幼１回/高浜幼３回/大塩幼１回/城西幼３回）
・姫路市立幼稚園教育研究発表会（高浜幼稚園） 講師
・市川町立認定こども園職員研修 講師（４回）
・西脇市保育士等キャリアアップ研修 講師（保育実践分野４回）
・ひかりのくに異年齢カリキュラム 編集委員会委員（毎月１回）
・姫路市立幼稚園自主研修会 オブザーバー（毎月１回）
・姫路市立教員自主研修会「子ども p4c」（毎月１回）
・神戸女子大学（保育の計画と評価）前期非常勤講師
・兵庫教育大学（保育内容言葉論） 後期非常勤講師

今後の課題

①「幼児期にふさわしい生活を支える保育の創造」を子ども哲学（p4c）と幼小連携を繋げた実践のあり様をまとめる。

②新しく受け持つ科目「保育内容（言葉）」とこれまでに担当していた「子どもの言葉」の授業内容を整理し、学生にとって段階的に学べる学習内容に再構成する。

個人年間活動報告書

教員名	瀬川和子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	玉田学園評議委員　運営委員会　入試委員長　合否判定部会長 入試問題作成部会副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	器楽ボランティア部		
担当科目名	基礎音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　教科指導法（音楽科）　小学校音楽 ピアノ実践奏法　保育教育課題研究Ⅱ　卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
担当科目コマ数	13.13				

本年度の課題

・教育：小免関連科目の教材と教授法に関する検討、遠隔授業方法の開発
・研究：研究時間の捻出と継続的な取組み。遠隔授業方法に関する取組

本年度の目標

・教育：小免関連科目および採用試験内容を確認し指導法を検討すること。担当学生一人ひとりと向き合い、各学生の学習上の問題点とその解決法を共に探す。
・研究：研究を何らかの形にまとめ発表する。

主な活動内容

1）教育活動

E1は初心者が4割以上を占める中で、音楽理論の理解に基づいた技能習得と音楽表現の向上を目指した指導を徹底することにより、読譜力も徐々についてきている。E２以降は各自の進路に応じた指導を心がけることでE4の就職成果に結びつけた。教科指導法（音楽）においても学力の３要素を意識した指導法を修得させる内容としている。

2）研究活動

研究テーマ：ピアノ初心者の音楽的な表現法修得、音楽の遠隔授業の検証
研究の現状：関連文献収集　　論文投稿
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1　回）　論文（1　編）　著書（　　冊）演奏発表　1回

3）社会的活動等

・R.３年9月附属ときわ幼稚園５歳児　ときわキッズクラブ講師
・R.３年9月神戸常盤女子高等学校保育コース１年・２年　講師
・県内高校ガイダンス（本学・学部・学科についての説明広報）

今後の課題

・ピアノ初心者が増加傾向にあるため、基礎音楽Ⅰ～Ⅲの知識・技能の習熟度の向上
・小免関連科目の教材研究ならびに教授法の改善
・研究時間の確保

個人年間活動報告書

教員名	藤本由佳利	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	就職委員会委員、危機管理委員会委員				
クラス担任	2年生	クラブ顧問	美術部		
担当科目名	基礎図画工作Ⅰ・Ⅱ、子どもと造形、小学校図画工作、保育内容（造形表現）、教科指導法（図画工作）、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ				
担当科目コマ数	14.13				

本年度の課題

新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容の充実
７期生のキャリア支援
作品制作と発表

本年度の目標

新カリキュラムに伴って、新開設された授業の充実を図った。
７期生の希望進路達成への支援（模擬面接、面談、卒業生・実習園への紹介・巡回等）を行った。
兵庫二紀展、二紀展、グループ展（コロナ禍により直前に中止）、春季二紀展への作品制作と発表を行った。
目標達成度の評価：1.できた　2.ほぼできた　3.あまりできなかった　4.できなかった

主な活動内容

1）教育活動
2年生担任として面接等を通して、学生支援・理解につとめた。
指導法、内容系の授業は、模擬授業・模擬保育の実施に向けた補習時間を多くとった。
基礎授業（実技）においては、同授業担当の非常勤講師（２年目）への助言をこまめに行い授業の充実を図った。
2）研究活動
　研究テーマ：平面造形作品の制作、「学生の美術に関わる苦手意識の調査」
　研究の現状：混合技法　130号F×４点制作、2022年1月の調査のデータ分析中
　本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（＜展覧会＞３回）　論文（　　編）　著書（　　冊）
3）社会的活動等
令和３年度兵庫二紀展　企画・運営（2021 年４月）　兵庫県立美術館

今後の課題

新カリキュラムに伴う新担当科目の授業方法・内容のさらなる充実と展開
8 期生のキャリア支援
2023 年１月の個展へ向けての作品制作

個人年間活動報告書

教員名	中田尚美	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	研究倫理委員会、図書紀要委員				
クラス担任	3A	クラブ顧問			
担当科目名	保育原理、保育内容総論、保育者論、保育内容（人間関係）、保育・教育メソッド、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、大学道場miniゼミB				
担当科目コマ数	11.77				

本年度の課題

教育活動における授業内容の精選・授業方法の工夫
研究の推進

本年度の目標

担当科目における教育内容及び教育方法の充実を図る
科研費採択を目指し、申請に挑戦

主な活動内容

1）教育活動
学生の理解力を随時把握しながら、講義を行った。グループワークを多く取り入れ、学生の自主的学習を引き出すよう心掛けた。その結果、授業アンケートの評価が平均4.7となり、学生の満足度が例年より高まったことが確認できた。

2）研究活動
研究テーマ：絵本間につながりを持った意味ネットワーク型の絵本データベースの構築
研究の現状：科研費の申請結果は残念ながら不採択であったが評価はA評価であった。
再度の挑戦を目指し情報収集に努めたが、論文の作成までには至らなかった。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

学習進度が異なる学生への効果的な教育方法の探索
科研費獲得へ向けた基礎研究を進めるために、本学のテーマ別研究に応募し、採択された場合研究実績を公表する

個人年間活動報告書

教員名	中西利恵	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会、E科就職委員会、E科臨地実習委員会、 こども教育学科改革検討委員会、 子育て総合支援資質KIT連携部テクニカルアドバイザー				
クラス担任	２年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅱ、保育内容（健康）、 教職実践演習（幼稚園・小学校）、保育・教育課題研究Ⅲ、 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	8.60				

本年度の課題

・本学及び本学科が有する強みや特性を適切に理解し教育方法の開発につなげる。
・子育て総合支援施設 KIT と連携した学習プログラムのあり方を検討する。
・科研費に関わる研究として、保護者支援・子育て支援の実践力に関するルーブリックあるいはチェックシート等の提案をめざす。

本年度の目標

・着任１年目であるため、まずは本学及び本学科の教育システム、本学科のカリキュラムや特色、これまでの取組内容、学生の特徴等について理解を深める。
・これまでの経験（大学運営、学部設置、独創的なカリキュラムやその他教育方法の開発等）を本学科の教育の強化・充実につなげる方法を探る。
・本学科の将来構想及び新課程設置のあり方を研究し、申請や具体的なプラン等可視化できる成果につなげる。

主な活動内容

1）教育活動
・担当科目の教育活動、子育て総合支援施設KITにおける活動の提案と実践、
2年生担任学生の個人面談、こども教育学科改革検討委員会において将来構想の具体的プランの提案及びEnergy（エナジー）プランの展開案Part1・Part2（具体的教育活動プログラム）の作成。

2）研究活動
研究テーマ：
①保育者養成課程で実践力を高める教育方法の研究（科研費研究関連を含む）
②子どものための絵本環境－子どもの育ち・発達と絵本の活用方法
研究の現状：
①科研費研究については、当初予定していた研究方法がコロナ禍で実施不可能となったため、期間を延長し研究方法を再検討した。保護者支援・子育て支援の実践力の評価指標に関する先行研究を集約し検討する方法を追加し、試行中。保護者支援に関する知識の習得を適切に評価するため、知識の習得の実態を正しく自己判断でき

るルーブリックあるいはチェックシート等の提案をめざしたい。
②主に卒業研究活動において、子どもの育ち・発達をより豊かに導く絵本の活用方法（特に保育の教材開発）について実践を通して取り組んだ。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　1　回）　論文（　2　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等
・高大連携事業の一環として、神戸鈴蘭台高校「総合的な探究の時間」の授業を 5 コマ担当
・兵庫県教育委員会特別非常勤制度により、兵庫県立篠山鳳鳴高校の「発達と保育」の授業を 6 コマ担当
・寝屋川市児童福祉審議会委員
・八尾市子ども・子育て会議委員　委員長
・松原市子ども・子育て会議委員　副委員長
・松原市児童福祉審議会委員
・高石市子ども・子育て会議委員　副委員長
・三田市子ども審議会委員　副委員長
・湊川短期大学附属ぽるとこども園第三者評価委員
・「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」学識経験者として助言・講評を担当
・「令和 3 年度 厚生労働省主催 初任主任保育士研修」講師を担当

今後の課題

・保養コースにおける 4 年間のカリキュラム展開と実習実施予定をふまえ、現場対応力の向上をめざし担当授業の内容・方法を充実する。
・こども教育学科将来構想「ときわ学びの森（ときわラーニングフォレスト）プロジェクト」の実現に向け、 Energy（エナジー）プラン中の展開案の試行により、令和 5 年度より導入する新課程での教育方法のあり方を探る。具体的には、将来構想で示す学びの環境を活用して多様な世代が交流する場を設ける等「かかわりの質」にポイントをおいた実践的・経験的な活動を通して、将来の保育者・教育者としての発達をめざす。参画した世代（子どもや親等）の発達のアシストをめざした実践力を養い、各種活動（事業）を将来的に適切に計画し、実施していける力を培う。そして、参画者すべてにおいて主体的な学びの姿勢を醸成し、真の学びにつながるような体制づくりに継続して取り組んでいく。

個人年間活動報告書

教員名	牛頭　哲宏	所属学科	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	・こども教育学科教員養成コース長・広報委員会委員長・就職委員・教職支援センター委員・隣地実習委員・ＫＩＴテクニカルアドバイザー				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	アカデミックライティング（基盤）基礎研究演習Ⅰ（E1）基礎研究演習Ⅱ（E2）教科指導法国語（E3）総合的な学習の時間の指導法（E3）教育実習指導（E3）教育実習（小学校）（E3）教科指導法特論Ⅰ（E3）保育教育課題研究Ⅲ（E3）卒業研究（E4）課題別実習(E4)　教職実践演習（E4）教科指導法特論Ⅱ（E4）教科指導法特論Ⅲ（E4）インターンシップB（E4）総合的な学習の時間の指導法（N2）				
担当科目コマ数	11.80				

本年度の課題

- 遠隔と対面のハイブリッド授業により、学生の学ぶ意欲を喚起するカリキュラムを構築する。
- 子育て総合支援施設 KIT の利用児童が増加したことにより、学生の実習の在り方を再構築する。

本年度の目標

- 小学校教員養成教育における学力向上と実践力向上を図る
- 子育て総合支援施設 KIT における実習カリキュラムの構築と運用

主な活動内容

1)教育活動

・遠隔授業と対面授業のハイブリッド型授業について様々な方法を試行し、学生の学修意欲を高める実践に努めた。

・子育て総合支援施設KITにおける実習カリキュラムを再構築し、基礎研究演習ⅠとⅡにおいて放課後の学習支援や保護者対応に関する実習授業の可能性を探った。

2)研究活動

研究テーマ： 遠隔授業における双方向型の授業の在り方

研究の現状： manabaにおけるプロジェクト掲示板の活用によって、学生同士や教師と学生との対話型授業を実現した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（1回）　論文（2編）　著書（0冊）

3)社会的活動等

神戸市立五位ノ池小学校学校運営協議会委員として学校運営に関する助言

今後の課題

- 遠隔と対面のハイブリッド型授業の更なる充実。
- 子育て総合支援施設 KIT での実習の在り方を更に充実させる。

個人年間活動報告書

教員名	橋本好市	所属学科等	教育学部こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会委員長、E科就職委員長、E科臨地実習委員会委員、E科将来構想委員会委員、大学院協定校交渉等担当（兵庫教育大学学部・教職大学院接続部会委員）				
クラス担任	保育者養成コース長	クラブ顧問	野球部		
担当科目名	大学道場miniゼミB（基盤1年）・基礎研究演習（E1・E2）・保育教育課題研究（E2・E3）・社会福祉（E1）・子ども家庭福祉（E1）・障害者福祉特論（E2）・卒業研究（E3）・卒業研究（E4）・保育実習指導Ⅰ（E3）・保育実習Ⅰ（E3）・保育実習指導Ⅲ（E4）・保育実習Ⅲ（E4）				
担当科目コマ数	11.57				

本年度の課題

近隣保育士養成校は軒並み定員割れが常態化しつつある。本学科が定員充足に向けた課題として、本学科保育者養成コースの特性を検討していく必要がある。定員充足維持に向けて、当該コース総力で検討に取り組めるよう、組織力を高めていく。

学生及び保護者が、大学選択・入学決定の際に重要視する要素に就職の善し悪しがある。入口を盤石とするためには出口戦略が重要な鍵を握る。したがって、入試と就職のリンクを考慮し、公立・大手法人への内定確保を今後も維持できるよう就職指導に尽力していく。

学内業務・個人研究（科研の進捗）・社会的活動との両立を心掛けていく。

本年度の目標

・保育者養成コースの外部評価が高まるように、コース特性と学生ケア、卒業時の満足度向上へ努める。
・保育者養成コースの今後あり方について、社会的現状と周辺競合大学の状況、持続性の観点から検討していく。
・公的機関、大手法人への内定率の向上を図る（特に男子学生の進路拡充）。
・継続中の科研について、最終年度にあたり研究成果の公表を遂行していく。

主な活動内容

1）教育活動

・兵庫県施設保育士養成協議会会長として、保育士養成大学と社会福祉施設関係連盟組織との人材育成・確保・定着への連携した取り組みを図っている。この活動は、保育実習の関係性だけでなく就職等にも学生への利益に繋がっていると推察している。
・全国及び県内優良社会福祉法人との良好な関係を維持し、本学科学生及び本学の利益の一助となるよう、自身の立場を最大限活用しつつ尽力している。
・受講生のニーズに適した教授方法（遠隔講義・資料の工夫）、最新情報を盛り込む等、学生の理解度と定着への工夫を図ったことは、授業評価の向上に繋がったと考える。今後も講義内容を精査し、社会的動向に応じた内容を提供していきたい。
・主な幼稚園・保育所・社会福祉施設への就職に加え、学生の将来生活の安定性という観点から有益な職域である警察・消防等への就職支援にも力点を置いた（今年度：大阪府警、

姫路消防局に内定）。
・7期生も求職者内定率100％の結果となった。一般企業への希望者が増加傾向にあるため、一般企業等への就職希望者のためにキャリア支援課と連携を図りつつ支援した。

2）研究活動

研究テーマ：

「障害等への偏見変容に向けたインクルーシブ保育と保育者養成教育のあり方に関する研究」（平成 31 年度～令和 4 年度　文部科学省研究費補助金【基盤研究（C）】研究課題／領域番号 19K02655）

研究の現状：

コロナ禍のため、最終年度として一年延長した今年度は、研究成果のまとめを遂行する。海外視察・現場視察が不可能であったため、文献・調査研究を中心に進め、学会発表等にて発信している。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　1回）　論文（　1編）　著書（　1冊）

その他（調査研究報告書2冊）

3）社会的活動等

・神戸大学 大学院　人間発達環境学研究科　非常勤講師（臨床心理実践演習）
・社会福祉法人　うるま福祉会　評議員
・社会福祉法人　白百合学園　法人顧問
・社会福祉法人　陽気会　評議員
・社会福祉法人　みかり会　評議員
・尼崎市保育所設置法人等選定委員会　委員長
・尼崎市立すこやかプラザ指定管理者選定委員会　委員長
・尼崎市立保育所移管法人選定委員会　副委員長
・尼崎市子ども・子育て審議会　特別委員（利用者負担検討部会 副部会長）
・日本保育者養成教育学会『保育者養成教育研究』査読委員
・兵庫県施設保育士養成協議会　会長
・文部科学省委託事業（学校法人三幸学園）　実施委員　　他

今後の課題

学生の安定確保、卒業時の学生満足度向上、希望職種への内定確保、養成カリキュラムの特性化、学生ケア等の検討が継続した重要課題として挙げられる。

学生間の口コミによる上下左右の関係者に拡散されていく傾向が強いことを考慮し、教員一丸となって取り組めるようコース運営を心掛けていく。

就職率は、学生の大学選択として重要なキーワードとなることを学科教員が自覚し、公的機関及び大手社会福祉法人等への内定率向上を図り、コース教員間の意思統一を図り、担当を明確にして学生指導に引き続き取り組んでいく。

科研の最終年度を迎えたが、コロナ禍において計画通りに進めることができていないため、社会状況を見極めつつ文献研究、調査研究、海外視察等、鋭意遂行していきたい。

個人年間活動報告書

教員名	山下敦子	所属学科等	こども教育学科	職名	教授
委嘱委員・職務	SD 委員会委員長、臨地実習委員副委員長、ときわ教育推進機構員、自己点検・評価委員会委員、教職支援センター委員、E 科将来構想委員会委員				
クラス担任	1年教員養成コース	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習 I（E1）、教職論(E2)、国語(E2)、インターンシップ（E2）、総合的な学習の時間の指導法（E3,N3）、保育・教育課題研究 I、II、III、教職実践演習(E4)、教育実習(E3)、教育実習指導(E3)、卒業研究 I、II、III、IV、介護等体験(E4)、教科指導法特論 I、II、III、アカデミックライティング(M,N,E,R の基盤)				
担当科目コマ数	15.73				

本年度の課題

〈教育活動〉
- 対面、遠隔のハイブリッド授業の効果的なあり方を探り、学生の指導に生かす。
- 学生の進路指導、適性の把握に一層務める。

〈研究活動〉
- 理論と実践の融合を図り、教師の資質向上について研究を進める。

〈社会的活動〉
- 外部機関との連携を密にし、本学の事業や学生の就職、指導に反映させる。

本年度の目標

〈教育活動〉
- 対面、遠隔のハイブリッド授業の効果的なあり方を探り、学生の指導に生かす。

〈研究活動〉
- 理論と実践の融合を図り、教師の資質向上についての研究を進める。
- RST を実施し、本学学生の読解力について分析し、アカデミックライティング等の授業方法に反映させる。

〈社会的活動〉
- 外部機関との連携を密にし、本学の事業や学生の就職、指導に反映させる。

主な活動内容

1）教育活動
- 「教職論」の授業では遠隔授業の中で動画資料の視聴、manabaの掲示板機能を活用した意見交流などを行い、遠隔授業を充実させた。

2）研究活動

研究テーマ：①大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上
②協働的な学びを推進する学校図書館の亜在り方についての考察

研究の現状：①学生の実習レポートを分析し、KIT実習の在り方について改善を行っている。

②学校図書館を活性化し、各教科と図書館教育との連携や図書館の新しい機能の実現に向けて考察し、提言を行なっている。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　2　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）

3) 社会的活動等
- 神戸市こどもの創造的学びに関する研究会」研究会委員、作業部会委員
- 「神戸市授業改善推進モデル校」等への指導助言
- 大阪府教育庁学校図書館の振興に向けた調査研究事業校への指導
- 明石市教育委員会教育研究所スーパーバイザー(国語科教育、特別支援教育)
- 枚方市教育委員会学力向上研修会、研究会の指導助言、講師
- 大阪府主体的・対話的で深い学び(STF)の実現に向けた実践研究指定校への指導助言
- 高槻市立小学校国語科研修会講師
- 兵庫県播磨町小学校国語科研究会講師
- 大阪市教育委員会がんばる先生支援事業に係る指導助言、講師
- 大阪市幼児教育センター研修講師
- 大阪市私立幼稚園連合会研修講師
- NPO 法人 ERP 教育研究所「教師力向上研究会」幹事、および研修講師
- 神戸市こども本の森開館準備委員会　委員長

今後の課題

- RST を実施し、その分析を行い学生の読解力向上を図るための方策を考案する。
- 子育て総合支援施設 KIT における実習内容を開発し、授業との連動を図る。
- 入学前教育、リメディアル教育について、本学に応じた在り方を模索し、提案を行っていく。

個人年間活動報告書

教員名	笹井隆邦	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員会、合否判定部会、入試問題作成部会、子育て総合支援施設KIT連携部				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、人類と地球環境、コンピュータ演習Ⅰ、理科、地球と環境、コンピュータ演習Ⅱ、特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、生き物と自然の力、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、保育実践演習				
担当科目コマ数	12.03				
本年度の課題					

・学内業務に責任を持って取り組む。
・学生が自然との触れ合いを体験することにより、現場での課外活動等で活用できるよう資質を高める。

本年度の目標

・コロナで活動が制限されているが、観察会や自然体験プログラム(キーナの森)への参加学生を増やし、多くの自然体験をさせる。

主な活動内容

1）教育活動
・1年生担任として、学生生活、幼稚園等の見学、就職への準備等に取り組んだ。
・学科内の卒業研究担当としてゼミの振り分け等を行った。
・学外での学生の自然体験活動は、あまりできなかったが、学内では裏山を使って自然環境づくり等の体験をすることができた。
2）研究活動
研究テーマ：①離島の社会性ハチ類の分布・生態調査
離島に生息する社会性ハチ類の分布と生態を調査
特にホソアシナガバチ属の分布について（台湾と屋久島間の空白地帯はなぜ存在するのか？）
②白色変異セトウチサンショウウオの長期飼育と遺伝
2003年に神戸市北区小河町で捕獲した　セトウチサンショウウオの白色変異個体を飼育し、子孫への白色変異の遺伝を調査
③里山の生物調査
神戸市を中心に里山の生物相を写真撮影し、生物多様性の変化を調査
研究の現状：①コロナのため離島への調査は中止
②12月～3月に産卵セットを組んだが、いずれの雌も産卵しなかった。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

3）社会的活動等
20210710　ライトトラップ観察会　キーナの森　ひょうご環境創造協会
20210830　北六甲幼稚園　講演会　講師
20210902　六甲藤原台幼稚園　講演会　講師
20210910　六甲幼稚園　生きもの観察会　講師
20210921　育英幼稚園　講演会　講師
20211113　ときわ幼稚園　キッズクラブ　生き物と遊ぼう　講師

今後の課題

・学生の様々な自然体験をサポートする。

個人年間活動報告書

教員名	脇本　聡美	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	教務委員、国際交流センター委員				
クラス担任	４年生Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、コミュニカティブイングリッシュ、小学校英語、教科指導法（外国語）、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	12.80				

本年度の課題

学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること
小学校をフィールドとした研究を進めること

本年度の目標

アクティブラーニングを取り入れた授業を実践すること
小学校英語教育教員養成教育をテーマにした研究を論文にまとめること

主な活動内容

1）教育活動
・個人指導をした上でプレゼンテーションを行う課題やグループワークで行う課題を授業に取り入れるようにし、学生が主体的に学ぶ活動の充実を図った
・英語検定試験（英検）を受検する学生たちに個人指導を行った
2）研究活動
研究テーマ：英語教育における文学作品
研究の現状：小学校で行う実験準備（コロナ禍で延期）
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　1　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

今後の課題

学生が主体的に学べる授業を計画し実践すること
小学校をフィールドとした研究を進めること

個人年間活動報告書

教員名	近藤みづき	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	学生委員会（副委員長）・健康保健センター（健康管理室） FAST等企画運営ユニット(委員長)				
クラス担任	2年　主担任	クラブ顧問	テニス部・ダンス部		
担当科目名	健康スポーツ科学Ⅰ、健康スポーツ科学Ⅱ、健康スポーツ科学Ⅲ、まなぶ▸ときわびとⅠ、まなぶ▸ときわびとⅡ、基礎体育、基礎研究演習Ⅱ、子どもと身体表現、小学校体育、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	15.83				

本年度の課題

・副委員長としての学務を支障なく進める
・個人研究活動を推進させる。
・学生が主体となった授業を展開できるよう努める。

本年度の目標

・コロナ禍における新入生オリエンテーション、学園祭を滞りなく実施する。
・研究データを収集する。
・昨年度より高い授業評価を得る。

主な活動内容

1）教育活動

2年目となる「子どもと身体表現」は、学生による授業評価をもとに改善し、全項目で昨年度よりも高い評価を得ることができた。また、新規科目「小学校体育」では、実技実習、指導実習、運動学演習、講義、そしてICTの活用と授業の展開方法を工夫し学生が主体とした授業になるよう努めた。次年度も継続したい。

2）研究活動

研究テーマ：①こどもの動感身体知の発生について
②保育者・教育者の動感促発能力の養成について

研究の現状：現在テーマを構想し、データを収集中

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

・日本スポーツ運動学会　理事
・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園キッズクラブ「マットや跳び箱で遊ぼう！」講師
・神戸常盤高校オープンスクール（7 月）「大学授業体験」講師

今後の課題

・学生委員会副委員長として委員長を支え、FAST 委員長として支障なく学務を進める。
・研究データを収集し、個人研究を進める。

個人年間活動報告書

教員名	松尾寛子	所属学科等	こども教育学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	こども教育学科臨地実習委員会（委員長）、こども教育学科就職委員会（委員）、入試委員会(委員)、入試委員会合否判定部員（委員）、子育て総合支援施設ＫＩＴ連携部（委員）				
クラス担任	４年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	乳児保育Ⅰ、乳児保育Ⅱ、障害児の理解と支援Ⅱ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ、基礎研究演習Ⅰ、基礎研究演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、保育教育課題研究Ⅱ、保育教育課題研究Ⅲ				
担当科目コマ数	14.60				

本年度の課題

・manaba の活用方法の充実を図る。
・外部機関との連携を図りながら、学生の実習や就職に役立つ情報を収集する。
・学内の業務に臨機応変に対応できるよう、授業準備にかかる時間も捻出しながら、業務を的確に行い、時間を有効活用する。
・研究に関連する社会的活動を通して、予備調査を前進させる。

本年度の目標

・授業内でマナバを使用した授業展開の発展を図る。
・巡回指導などの機会を利用して、市の保育課等職員から学生に対する有益な情報を入手する。
・昨年度から担当している入試委員業務について、年間を見通した動きができるようにする。
・３市の巡回指導等を通して、保育者の保育に対する困り感の指導を行い調査を進める。

主な活動内容

1）教育活動

今年度の遠隔授業は、昨年度の反省を生かして遠隔授業のほうがより効率化が図られる内容を考え、昨年度の遠隔授業の内容から一新した。そのため、授業準備に昨年度用の程度の時間を要したが、学生からの提出物には、提出後翌々日までに内容を確認し、全員に返信するようにした。対面授業においても、提出物はマナバを活用したりして、学生の手書きへの負担軽減も考えながら進めた。

・授業内容について、昨年度に引き続き、ゼミの学生を中心として学外活動も取り入れた。卒業研究においては、就職活動への支援も並行して行うため、早期からの卒論指導を行った。学生には提出目標などを提示し、来学させるだけではなく、メールで添削を行うなど、学生自身の時間の有効活用も考え実施した。着任以来初めて学生が提出期限１週間前に揃って提出させることができた。

2）研究活動

研究テーマ：「子どもの学びを保障するインクルーシブ保育方法について」
研究の現状：尼崎市市立保育所・八尾市民間保育所・認定こども園への障害児巡回指導年間20か園程度、100人程度の支援を必要とする子どもへの具体的な関わり方について、保育者に指導助言を行っている。その中から保育者がどのようなところに困り感を持ちながら保育を行っているかについて調査継続中である。
・今年度新たに川西市民間保育園・認定こども園の保育指導を実施した。年間５か園15クラス程度の指導を行った。保育全般に関する指導を行う中で、クラス運営を行う中で、一般的な保育活動の中における支援を必要とする子どもに対する保育者の保育に対する困り感について調査を開始した。
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（0回）　論文（0編）　著書（2冊）

3）社会的活動等
1.八尾市私立保育所巡回指導
2.尼崎市立保育所障害児保育巡回指導
3.西脇就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員（訪問調査）
4.兵庫県社会福祉協議会/障害児保育ゼミ研修
5.西脇市子ども子育て会議委員
6.四恩こども園理事
7.川西市保育指導

今後の課題

・引き続き manaba の活用方法の充実を図る。
・ゼミ生を中心として、保育所や認定こども園の場でゼミ活動できるようにする。
・臨機応変な学内業務に対応できるよう、時間の有効活用を考える。
・学内の業務に支障が無いよう、社会的活動を行い、研究の予備調査を進める。

個人年間活動報告書

教員名	柳原　利佳子	所属学科等	こども教育	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員・就職委員・臨地実習委員・学生相談室委員・自己点検・評価委員など，保育者養成コース				
クラス担任	１年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ，発達心理学，カウンセリングの技法，子どもの理解と援助，教育心理学，教職実践演習（幼稚園・小学校），卒業研究Ⅰ，卒業研究Ⅱ，卒業研究Ⅲ，卒業研究Ⅳ，人間関係論，生涯発達論				
担当科目コマ数	13.00				

本年度の課題

・新年度も遠隔授業と対面授業が並行して継続することが決まったので，さまざまな状況に柔軟に対応できるように，教務関係の学務を注意して取り組む。

・新しく導入された学習支援システムに早く慣れ，遠隔授業の質を高める。
本年度の目標
・新型コロナウイルス感染予防対策をした対面授業や遠隔授業を円滑に滞りなく行う。 ・学生のスタイルに応じた遠隔授業教材の提供を行う。
主な活動内容
1）教育活動 ・教務委員として，個別対応が必要な学生への履修相談・指導を行った。また，年度当初より計画的な遠隔授業の運用を進めるべく，学生，専任教員・非常勤講師への連絡や調整を行った。 ・クラス担任として面接・指導などの機会を利用して学生理解に努めた。 ・動画，音声，PDFなどの遠隔授業用教材を準備した。manabaのプロジェクトを活用して，グループワークを行った。 ・保育者養成コースの学生に対する模擬面接の面接官を担当した。 2）研究活動 研究テーマ：更年期女性への多重役割期待と個人的評価，女性の生涯発達を見通したライフプランの構築 研究の現状：成人女性の語り合いの場が縮小され，情報収集が困難になったために，研究対象を大学生に変更して調査研究を実施する予定。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（0回）　論文（0編）　著書（0冊） 3）社会的活動等 ・武庫川女子大学へ出講 ・７月：東灘高等学校　高大連携講座　対人援助職のための発達学～人間関係の形成
今後の課題
・操作に慣れてきた manaba を対面授業の中でも効果的に用いる方法を探る。 ・個人研究活動を進める。

個人年間活動報告書

教員名	戸川晃子	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	教務委員、SD委員、KTU学術推進委員				
クラス担任	３年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	子どもと音楽表現、基礎音楽Ⅰ、基礎音楽Ⅱ、基礎音楽Ⅲ、小学校音楽、ピアノ実践奏法、保育内容（音楽表現）、保育・教育課題研究Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ				
担当科目コマ数	17.87				
本年度の課題					

・新設科目の教材研究を行い、学生の学びにつなげる授業方法を考察する
・科研費の研究を進めるとともに、演奏活動を通して社会貢献ができるよう準備を進める。

本年度の目標

・今年度新設科目を滞りなく遂行する
・研究、演奏の発表を行う。

主な活動内容

1）教育活動

ピアノ実技指導においては、正課内のみにとどまらず、正課外においても個別に対応し、結果採用試験でも力が発揮された。新設科目「子どもと音楽表現」では、生活の中で聞こえるもの、絵本、自然などを体、楽器を用いて音楽で表現すること、音を可視化するという実践を行い、「表現」を重視した授業を行った。

2）研究活動

研究テーマ：「ピアノを用いない」ピアノ指導法、ピアノ演奏、子育て支援における音楽活動

研究の現状：ピアノ指導法については、昨年度テーマ別研究で採択された研究成果を論文にまとめ学会誌に投稿した。科研費採択課題については、本学紀要、学会誌に投稿した。ピアノ演奏、子育て支援における音楽については、8月に発表予定であったが、コロナ禍のため開催が中止となった

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　2編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

・神戸常盤大学附属ときわ幼稚園におけるトキワキッズ講師2回
・日本クラシック音楽コンクール本選ピアノ部門審査員
・兵庫教育大学への出講

今後の課題

・より多くの学生が音楽への苦手意識をなくすこと、さらに音楽が楽しくなる技術を身につけられる指導を心がける。
・来年度が科研費採択課題の最終年度になるため、研究成果をまとめる

個人年間活動報告書

教員名	大城　亜水	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	就職委員・副委員長、臨地実習委員、子育て総合施設KIT連携部委員、地域交流センター地域貢献事業部委員、学生委員				
クラス担任	1年	クラブ顧問	なし		
担当科目名	基礎研究演習Ⅰ、まなぶるⅠ・Ⅱ、情報基礎(E科,M科)、情報メディア演習、地域との協働A、子ども家庭支援論、卒業研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保育・教育課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、海外研修、家族と社会(看護通信)				
担当科目コマ数	17.73				

本年度の課題

KIT と学生のマッチング体制の構築

本年度の目標

上記課題の遂行

主な活動内容

1）教育活動

・就職活動支援および進路相談、履歴書や論文等の添削指導

・公立保育士・幼稚園教諭および公務員試験の一般教養の学習支援

・「まなぶる」の授業コンテンツの作成

2）研究活動

研究テーマ：大学の授業と大学の事業の連携による学生資質の向上

研究の現状：日本保育学会第 75回大会で「保育者養成学生の職業意識と動機づけに関する意識調査―KITの取り組みから見えてくるもの―」をテーマに報告予定。

その他、本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照。

学会発表（　1　回）　論文（　1　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

【講座・セミナー】

①少子化対策―少子化の動向とワーク・ライフ・バランスなどの政策的課題／大城亜水（神戸常盤大学）／大阪労働大学講座（令和元年度）／2021 年 12 月

②男性育児休業制度の現状と課題―なぜ、いま男性育児休業なのか／大城亜水／大阪市従セミナー／2021 年 7 月

今後の課題

教育活動や校務に支障がないことを確認しながら、教育研究活動および社会貢献活動、とくに KIT と学生の連携について引き続き取り組みたい。

個人年間活動報告書

教員名	京極　重智	所属学科等	こども教育学科	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員、神戸常盤地域交流センター委員、教職支援センター委員、ときわ教育推進機構委員				
クラス担任	２年（教員養成コース）	クラブ顧問	ソフトテニス部		
担当科目名	特別活動の指導法、基礎研究演習Ⅱ、地域との協働Ｂ、教育の思想と歴史、道徳教育の理論と実践、道徳教育と特別活動論、まなぶる➢ときわびとⅠ、まなぶる➢ときわびとⅡ、保育・教育課題研究Ⅰ、保育・教育課題研究Ⅱ、保育・教育課題研究Ⅲ、教科指導法特論Ⅰ、教科指導法特論Ⅱ、教科指導法特論Ⅲ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ、卒業研究Ⅲ、卒業研究Ⅳ、教職実践演習				
担当科目コマ数	15.83				

本年度の課題

コロナ禍ということもあり、遠隔授業においても教育の質を担保して、学生の学びを止めないようにする。

本年度の目標

教育に関して、神戸常盤大学の学生の実態に即した授業（授業評価について平均値以上）を目標とする。研究に関して、具体的な目標として学会発表１回、論文１編とする。

主な活動内容

1）教育活動

単独でもつ科目に関しては、多くの科目で授業評価が平均値以上であった。また課外活動などを通して教員採用試験の学習を支える活動を行った。

2）研究活動

研究テーマ：地域貢献に結びつく教育哲学・思想的研究

研究の現状：「哲学対話」を附属園の園児とともに実践した。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

附属幼稚園での哲学対話の実施（キッズクラブ）、神戸野田高校等への出張講義

今後の課題

教育に関して、教員採用試験への合格と教師として働くことに直結する授業内容に改善する。また、研究に関して、査読付きの学術誌への投稿を目指す。

個人年間活動報告書

教員名	川井　綾	所属学科等	こども教育学科	職名	助手
委嘱委員・職務	臨地実習委員会・広報委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	ハローベビー部		
担当科目名	まなぶる▸ときわびとⅠ・Ⅱ こどもの食と栄養Ⅰ（助手）				
担当科目コマ数	0				

本年度の課題

・実習前後において、学生との連絡を円滑に進めていくこと。
・実習先や教員間の連絡を密に取り調整を図る。
・乳幼児や親子の遊びについて、学生と共に活動の場を持てるようにする。

本年度の目標

・各実習先の情報について、担当教員への連絡報告を円滑にできるように心掛ける。
・状況に応じて、各施設と学生間を繋げ、実習準備について対応していく。
・コロナ禍においても実践できる遊びを、学生の発想や、主体性を尊重し、社会貢献活動のサポートをする。

主な活動内容

1）教育活動
・コロナ感染症拡大の影響で実習日程の変更が生じたが、各実習先との連絡や教員への報告、学生への連絡を密にとるよう努めた。
・実習前PCR検査の日程調整にあたり、安全面に配慮し実習に向かう事ができるよう、サポートした。
・実習の課題や問題点があった場合、科目担当教員に報告し対応できるようにした。
・コロナにより、社会貢献活動は実施ができないケースが増える中、学生が環境や状況に応じて壁面制作や動画制作など取り組めるようにした。

2）研究活動
研究テーマ：①「親子のふれあい遊び」・②「４年間の実習の経過」
研究の現状：①コロナ禍において実施できるものを検討中　②アンケート作成中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等
・

今後の課題

・学生の情報や、施設からの連絡進捗状況について担当教員への報告を密に行う。
・実習施設ごとの特性を把握し、円滑に実習が進むよう個々に合わせた対応をする。
・コロナ禍においても、学生が社会貢献活動できる方法を工夫し取り組めるような機会をつくること。

個人年間活動報告書

教員名	吉田幸恵	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	学科長、学園一体化推進協議会委員、運営委員会委員、学長会議委員合否判定部会委員、口腔保健学科四大開設準備室室長、口腔保健研究センター委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生学概論、栄養指導法、学びの基礎、健康科学総論、歯科衛生過程演習、歯科医療と法律・制度、歯科予防処置演習BⅡ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特論Ⅱ、こどもの歯と健康（E科）、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	6.97				

本年度の課題

1.昨年に引き続き、他校にない４年制の歯科衛生士教育の付加価値を考える。
2.定員以上の受験者数を確保する。

本年度の目標

1.学内歯科診療所において歯科診療を開始できるようハード、ソフト面の整備を行う。
2.入学定員 70 名以上の受験者数を確保する。

主な活動内容

1）教育活動
・学内歯科診療所において歯科診療を行うことが実現した。歯科衛生士養成のための歯科診療所を保有する歯科衛生士４年制大学は関西では見られないので、この実現は本学の大きな教育的な付加価値となると考える。
・受験者数は100名と定員を超えたが、入学者数は67名で３名定員を下回った。
2）研究活動
研究テーマ
① 産官学が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証（2020年度基盤研究C）
②「お口ぽかん」が幼児の日常生活に与える影響について（2020年テーマ別研究）
③ 大学生の歯科健診と自記式質問票との関連について
研究の現状
①②③ とも調査及び解析が実施できたので学会発表を行った。
学会発表（ 6 回） 論文（ 編） 著書（ 冊）
3）社会的活動等
・日本歯科衛生学会会長、日本健康体力栄養学会副会長、日本口腔ケア学会評議員
日本栄養・食糧学会近畿支部参与
・兵庫県歯科衛生士会「2021 年度卒後研修必修プログラムアドバンスコースⅡ-2」において講師を務めた。

今後の課題

定員を充足する入学者数を確保する。

個人年間活動報告書

教員名	福田昌代	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	教務委員会				
クラス担任	2年Aクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導論Ⅰ、歯科保健指導論Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、歯科衛生過程演習、地域口腔保健支援実習Ⅱ、学びの基礎、口腔保健特論Ⅰ、口腔保健特論Ⅱ				
担当科目コマ数	13.43				

本年度の課題

・口腔保健学科 4 大化に向けて、カリキュラムの整備、書類の作成等行い、スムーズな認可につなげる。
・国家試験　100%合格を目指す。そのため、早くからの学修を促し、成績不良の学生の学修力向上にむけて対策を検討する。
・新型コロナウイルス感染症の影響により滞っている研究を、感染対策を十分にしながら実施する。

本年度の目標

・国家試験合格 100%
・科研研究の遂行
・口腔保健学科 4 大化

主な活動内容

1）教育活動
・コロナ禍の継続により、遠隔授業と対面授業のハイブリット式で行われたが、遠隔授業の資料作成についてはmanabaを有効に使用し、ZOOM、YouTube、Google driveを活用し、十分な授業が展開できた。授業評価についても良好であった。
・昨年、4名の不合格者であり、過去最低の合格率であったことから、今年は100%復活を目指し、コロナ禍であってもその影響を受けないように、事前に様々な学修環境を想定して対策を行った。成績不振の学生には個別指導や、保護者を交えて面談を実施し、早期に危機感を持たせ、学習に集中できる体制を強化した。また、最後の2週間は成績不振の学生を対象にZOOMを使用した少人数指導を行い、最終的には全員合格につながったことは、国家試験対策として大いに評価できると考える。
2）研究活動
研究テーマ：
① 産学官が連携したオーラルフレイル予防の効果の検証：身体機能や栄養状態への影響　（科研費：基盤研究C）
② 地域在住立高自齢者の口腔機能と口腔関連QOLの関連性
研究の現状：
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　3回）　論文（　　0　編）　著書（　　1　冊） 3）社会的活動等 ①兵庫県立明石南高校、高大連携授業担当 ②全国大学歯科衛生士協議会理事 ③第 29 回日本健康体力栄養学会大会　最優秀発表賞
今後の課題
・四大と短大のカリキュラムに混乱が生じないように運用する。 ・国家試験 2 年連続 100%合格に向け、夏休みから学修モチベーションをあげ、成績不振者の学修力向上に向け対策を検討する。 ・コロナ禍において、フィールドでの調査が全くできていないため、方法を変更して研究調査を行う。 ・短期大学部の学生が短期大学部閉校までに全員が卒業し国家試験に合格できるように学修支援を行う。

個人年間活動報告書

教員名	八木孝和	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	図書館長（図書紀要委員長）、口腔保健研究センター委員長、口腔保健学科就職委員長、ＫＴＵ委員				
クラス担任	3年生主任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	人体の構造、人体の機能、口腔の機能、臨床歯科Ⅲ（麻酔学、放射線学）、臨床歯科Ⅴ（矯正歯科学）生化学・栄養学、器材学、薬理学、健康科学総論、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅰ、口腔保健特論、健康スポーツ科学Ⅰ				
担当科目コマ数	9.70				

本年度の課題
１．4 大化に向けて、口腔保健学科の全体の問題点や目標の明確化。 ２．担当教科に対して、授業内容の充実化と ICT 化（再編成）。 ３．新しく担当するセンター・委員会などの年間活動状況の把握。 ４．基盤研究等の研究面の整備。
本年度の目標
１．4 大化と歯科診療所の整備 ２．4 大化に合わせた授業内容の見直し ３．担当しているセンター・委員会の各活動のさらなる活性化。 ４．科研費等の基盤研究の立ち上げと継続研究の整理・学術的な報告。
主な活動内容
1）教育活動：新型感染症の影響下、対面と遠隔のコンビネーション型の授業を中心に行った。ICT活用は、知識教育では例年以上に学生の成績が全体的に向上していた。 【資格】学科内でのキャリア教育科目を見据え、国家資格キャリアコンサルタント並びに2級技能士キャリアコンサルタントの資格を修得した。

2）研究活動

研究テーマ：以下の5項目を中心に活動した。

①脳腸ペプチドによるストレス起因性顎口腔機能異常の改善に対する効果の検証(基盤研究Ｃ)

②顎顔面形態の差が心理的背景に及ぼす影響に関する検証

③ウェアラブル咀嚼回数測定装置を利用した咀嚼指導方法の開発

④大学生の歯科健診における口腔衛生状態ならびに行動変容

⑤小児期の口唇閉鎖不全に関する疫学的調査

研究の現状：①は他大学の研究者との共同研究で、遠隔では賄いきれない部分があった。②③⑤は学外に出ての研究課題のため調査研究ができない時期があった。⑤については本学科講師の中村先生と共同で行い学会発表を行うことができた。

④については、大学での歯科健診を学科教員と共同で行っており、疫学的なデータの蓄積と本学科の助教浅枝・川野らと解析を加え、学会発表を行うことができた。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　７回）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等

①歯科健診（神戸常盤女子高、神戸常盤大学付属幼稚園、神戸常盤大学短期大学部、立花うるま保育園）を実施。

②神戸市救急インストラクターとして駒ヶ林中学校と口腔保健学科 3 年生に対して救急救命に関する講習会の指導員を行った。

③本学ＳＤでの講師を担当：タイトル「4 年制歯科衛生士教育・歯科診療所の存在」

④日本顎口腔機能学会評議員、全国大学衛生士教育協議会委員、日本歯科医学教育学会代議員

⑤査読 15 編（紀要１（委員長として全体の確認も併せて行う），海外雑誌 12、国内英文誌 3)

⑥高大接続出張講義２、ガイダンス３

⑦KIT、モトロクでの歯の相談会（歯ッピー相談会を主催）：口腔保健学科教員全体で取り組んでいる。

⑧兵庫県歯科衛生士会「卒後研修必修プログラムスペシャリストコースⅢ―２」の講師を担当した。

⑨滋賀県立総合保健専門学校にて 2 年生対象に歯科薬理学の講師を担当した。

今後の課題

１．【教育】次年度は口腔保健学科での教育のみならず、歯科診療所の運営と歯科医療者としても携わることから仕事量や拘束される時間が増大する。その中で、神戸常盤大学ならではの特徴的な教育スタイルとして、本学の ICT や歯科診療所を活用して、学生の理解度や進捗状況をきめ細かく確認できる工夫が必要である。

２．【研究】科学研究費が内定しているので、より質の高い研究を発展させていく予定である。あわせて、歯科診療所を通じた新しい研究テーマを学科内で確立していきたい。

３．【大学・地域貢献活動】担当する図書館長、センターや委員会で出てきた課題を整理し、従来からの各活動を充実させていくことと、新たにどのような活動で、大学や地域社会に貢献できるか検討していく。

個人年間活動報告書

教員名	高橋由希子	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員、口腔保健センター副センター長 すこラボ副センター長、口腔保健学科臨地実習委員長				
クラス担任	口腔保健学科2年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名 （コマ数）	科目責任者：歯科予防処置論B（8）災害援助と救急救命（8） 災害時の歯科衛生士の働き（15）歯科予防処置演習BⅠ（15）歯科予防処置演習BⅡ（15）地域歯科保健実習Ⅰ（臨地実習） その他担当科目：歯科予防処置演習AⅠ（15） 歯科予防処置演習AⅡ（15）総合歯科実習（臨地実習）				
担当科目コマ数	22.93				
本年度の課題					
教育：学生のレベルや学生数に合わせた講義・実習を行う。 コロナ禍での基礎実習を行う体制作り。					
本年度の目標					
教育：学生の意欲を向上させ、目的意識を明確にする授業展開を行う。 研究：論文投稿、地域研究の遂行を行う。 学内の活動：新規の委員会業務を習得し、本学に貢献する。					
主な活動内容					
1）教育活動 コロナ禍での遠隔講義資料（動画・音声・PDFなど）の作成を行い、学生からは繰り返し学習できるため概ね高評価であった。対面が必要な実習の場合は事前に予習動画を指示し、視聴後に直接に技術指導を行った。 災害に関する講義演習ではシナリオベースでグループワークやプレゼンテーションを行うことで、災害を経験していない学生が自助・共助について理解できたようだ。 2）研究活動 ①外国にルーツをもつ親子への口腔保健からの支援 ②歯科衛生士教育プログラムの国際比較 学会発表（7回：発表課題省略） 3）社会的活動等 多文化共生に関連する地域住民への支援（継続） 令和３年５月　第１回すこラボ公開講座 「糖尿病と歯周病～口の健康は全身の健康～」講師					

令和４年２月　多文化共生フェスタ「大学での多文化共生での口腔保健の支援」講師 令和４年３月　淡路市歯科衛生士会・栄養士会主催「オーラルフレイルについて」講師
今後の課題
歯科診療所が開設されるため、患者管理を専門的に行い、学生教育に生かしたい。 患者確保をどのようにするかが課題である。

個人年間活動報告書

教員名	山城　圭介	所属学科等	口腔保健学科	職名	教授
委嘱委員・職務	入試委員会・副委員長				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問			
担当科目名	学びの基礎，健康科学総論，検体採取安全管理演習，口腔衛生学，口腔保健特論I，歯科医療と法律・制度，人体のふしぎ，病原微生物・免疫学，臨床歯科I，臨床歯科II，臨床歯科III				
担当科目コマ数	7.87				
本年度の課題					
・歯科診療所の立ち上げ ・オンライン授業の充実					
本年度の目標					
・歯科診療所での治療，学生教育を充実させたものとするための準備を行う ・良質な授業コンテンツを作成し，学生が理解しやすいよう工夫する					
主な活動内容					
1）教育活動 本年度は担当科目がほぼオンラインであった。学生にアンケートによると動画を繰り返し視聴できること，確認の小テストで知識量がわかることが好評であった。一方，直接質問ができない，時間管理ができないなどのデメリットもみられた。 2）研究活動 研究テーマ：AI を用いた歯周病の診断と進行予測に向けて ―口腔内細菌叢の次世代シークエンスデータを用いた多変量解析― 研究の現状：サンプルを解析会社に郵送，解析中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　1　回）　論文（　1編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 ・すこらぼ講座　「糖尿病と歯周病」2022 年 8 月 21 日 ・後期公開講座　「歯周病と全身の関わり」2022 年 3 月 5 日					
今後の課題					

・歯科診療所が５月より開所するため，治療，学生教育が充実したものとなるよう尽力する。 ・今後は対面授業になるため，一度しかない講義でいかに学生の理解が深まるか，授業内容を工夫する必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	上原弘美	所属学科等	口腔保健学科	職名	准教授
委嘱委員・職務	入試委員、臨地実習委員会副委員長、神戸常盤大学短期大学部歯科診療所委員、口腔保健学科四大開設準備室委員				
クラス担任	1年生主担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助論、歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション演習、医療安全、臨床検査学、口腔保健特論Ⅱ、診療補助実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、学びの基礎				
担当科目コマ数	14.90				

本年度の課題

・学生の学習意欲を高める授業方法の検討
・学会や研修会などに積極的に参加し、研究活動を活発に行う

本年度の目標

・事前課題・事後課題を提示することで学生の授業への積極的な受講態度を促す
・歯科衛生士リカレント教育について今までの成果をまとめる

主な活動内容

1）教育活動

授業の事前・事後学習を自主的におこなえるよう、科目ごとのノートを作成させ、全授業終了後に提出させた。学生の取り組み状況には差がみられたが、積極的に学習した学生は授業への前向きな参加態度が見られた。プレテスト・ポストテストを実施して学生個々の理解度を測り、理解が不十分な学生が多い場合、次回の授業内容を見直し、再度解説するように心がけた。

2）研究活動

研究テーマ：全身疾患と口腔衛生管理
研究の現状：情報・資料の収集中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　２　　回）　論文（　０　編）　著書（　０　冊）

3）社会的活動等

・歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会　企画運営委員（公益社団法人日本歯科衛生士会）
・兵庫県歯科衛生士連盟会長

【研修会講師】

・西播磨総合リハビリテーションセンター　口腔ケア研修会

【非常勤講師】 ・神戸市看護大学大学院慢性看護 ・兵庫県立総合衛生学院看護学科定時制・歯科衛生学科 ・兵庫県立明石南高校（高大連携授業） ・阪神シニアカレッジ　健康学科
今後の課題
・歯科衛生士リカレント教育の成果をまとめ、カリキュラムの見直しを図る ・学生の学習意欲を高める授業方法を検討する

個人年間活動報告書

教員名	御代出　三津子	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止対策委員、学生相談室委員、臨地実習委員、口腔保健研究ｾﾝﾀｰ委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	総合歯科実習、地域口腔保健支援実習　Ⅰ、学びの基礎、こどもの歯と健康				
担当科目コマ数	21.43				
本年度の課題					
・昨年度に引き続き、社会はコロナ下にあって、遠隔授業は続き、学生の学力低下が心配される中、技術面の指導に重点を置く。					
本年度の目標					
・学生同士で行う相互実習の中で、一人一人の学生の能力を見て、スキルアップできるように技術面を見ていく。まずは基本的な動きを習得させる。					
主な活動内容					
1）教育活動 遠隔授業が原因とは言わないが、やはり歯科診療所に実習に来る学生への学習面の低下を実感してしまいことが多くあり、改めて臨地実習の重要性や学内での学生同士の相互実習の必要性を感じた。患者に対してどんな姿勢で向き合うべきなのか、自分の態度はこれでいいのか、など考えて実習するように学生には指導してきたが、基礎知識が不足しているためと考えられる。基礎知識が高められる指導方法を探す。 2）研究活動 研究テーマ：歯科衛生士法の考察 研究の現状：医科・歯科の両方で業務ができる職種にするための法律の改変を考える 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等 子育て支援施設「KIT」　歯の相談室 2021.5.13(木)					

蓮池介護教室 2021.12.21(火) 大阪府介護情報・研修センター　講演　　2022.2.28(月)
今後の課題
3年近くになるコロナ下での生活で、卒業していく学生が歯科衛生士としてどの程度業務ができるか大変気になるところであるし、すぐに離職してしまうのではという心配もある。卒後研修の必要性が高まると考える。本学が実施しているリカレント教育の充実を望む。

個人年間活動報告書

教員名	澤田　美佐緒	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	自己点検評価委員、健康管理室委員、就職副委員長、臨地実習委員				
クラス担任	3年　Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、学びの基礎、口腔保健衛生学実習Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	15.70				
本年度の課題					
教育活動：学生の学習に対する意欲を引き出すこと 研究活動：合同実習後の質問紙調査から多職種連携に対する課題を検討する					
本年度の目標					
教育活動：授業資料やレポートを自己評価できるように工夫する 研究活動：調査計画の立案、調査の実施、データ収集					
主な活動内容					
1）教育活動 今年度は、担当する演習授業ではすべて対面授業を行うことができた。授業中の学生の反応をみながら授業を進めることができたため、理解不足と感じる場面では説明を加えることが可能となった。臨地実習は昨年度よりは実習可能な施設が増えたが、従来通りとはいかず、急な感染拡大のため実習できない学生も発生した。昨年同様特別講師を招いて、部分的に不足を補う対処はできた。 2）研究活動 研究テーマ：①多職種と連携して口腔健康管理を実践する人材の育成 ②特別養護老人ホームにおける口腔健康管理の効果 研究の現状：①看護学科との合同演習による調査の継続と今後の課題の検討 ②特別養護老人ホームにおける調査の実施、データの整理・分析 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　　2回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等					

①太成学院歯科衛生専門学校　非常勤講師　「高齢者歯科学」 ②長野県歯科衛生士会　病院部門研修会　講師　令和３年８月 ③兵庫県西播磨総合リハビリテーションセンター研修会　講師　令和４年２月
今後の課題
教育活動：学生に分かりやすい授業資料の作成 研究活動：学会発表を行う

個人年間活動報告書

教員名	破魔　幸枝	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	学生委員会委員,危機管理委員会委員,国家試験対策委員会委員，臨地実習委員会委員				
クラス担任	1年Bクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科予防処置論A,歯科予防処置演習BⅠ（歯周病）,歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）,歯科予防処置演習AⅠ（う蝕）,歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）,口腔保健衛生学実習Ⅰ,口腔保健特論Ⅱ,学びの基礎				
担当科目コマ数	14.73				

本年度の課題
【教育】４年制に繋がる教育を考えて組み立てをおこない，実践をしていく。 【研究】採択された研究テーマの研究調査をおこない，研究デザインをさらに磨いて，社会貢献（大学への貢献）に発展させるよう努める。
本年度の目標
【教育】演習においてもキャリア教育に基づく講義内容をおこない，学生が実践できる学修環境を整備する。 【研究】採択された研究テーマは，継続研究調査をおこなうこと，分析手法を広げることで学生支援に繋げる道筋を見出せるようにする。 【地域貢献】社会貢献を根本に研究や地域活動を広げ，歯科衛生士として活動する。
主な活動内容
1）教育活動 遠隔授業はレポート提出後のコメント活用で学修支援をおこない，対面授業の再開では知識のリフレインと実習を組み合わせて実施した。臨地実習は，manaba プロジェクトを活用したグループカンファレンスなどアクティブラーニングに役立てることができた。 2）研究活動 研究テーマ：教育心理学（自己肯定感），社会系歯学（口唇閉鎖不全、歯科健診），臨床心理学（親子の愛着）（自己肯定感） 研究の現状：学会発表あり 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（4回）　論文（0編）　著書（0冊）

3）社会的活動等 兵庫県歯科衛生士会　基礎研修理事
今後の課題
【教育】キャリア教育のエッセンスを演習のなかに取り入れる工夫を施す。 【研究】学生支援に繋がる分析手法の再考が必要であり，多くを試す機会を作る。 【地域貢献】自分の役割をみつめ，歯科衛生士として活動する。

個人年間活動報告書

教員名	中村　美紀	所属学科等	口腔保健学科	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員会、地域交流センター、国試対策委員会、就職委員会 臨地実習委員会				
クラス担任	3年Ｂクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科保健指導論Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、歯科衛生過程Ⅱ、オーラルリハビリテーション、オーラルリハビリテーション演習、診療補助実習Ⅰ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健衛生学実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅱ、学びの基礎、地域との協働B				
担当科目コマ数	16.37				
本年度の課題					
1.　遠隔授業、体面授業を合わせたハイブリッド型授業の構築. 2.　研究活動を活性化し、進捗させる. 3.　地域貢献活動の拡大.					
本年度の目標					
1.　遠隔、対面授業のメリット、デメリットを明確にし、問題点を抽出することにより、ハイブリッド型授業の構築を検討する. 2.　コロナ禍により中断していた調査活動を再開し、データを集積する. 3.　地域交流センターと連携し、能動的に活動を拡大する.					
主な活動内容					
1）教育活動 本学以外での活動なし 2）研究活動 研究テーマ：「お口ぽかんが幼児の成長発達に与える影響」 「小児白血病患者の口腔有害事象発症頻度（発症率）」 研究の現状：（上段）科研費採択、データ集積 （下段）論文執筆中 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					

学会発表（6回）　論文（0編）　著書（0冊） 3）社会的活動等 特になし
今後の課題
1.　遠隔授業、体面授業を合わせたハイブリッド型授業の再構築. 2.　研究成果の発表（論文化） 3.　次年度より開講される４年制大学の授業を充実させる

個人年間活動報告書

教員名	伴仲 謙欣	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	学術推進課（事務）、広報委員、遺伝子組換え安全委員（事務）、KTU研究開発推進センター員（事務）、ときわ教育推進機構員（事務）、研究倫理委員、ライフサイエンス研究センター委員（事務）、国際交流センター委員（学科兼事務）、遠隔授業サポートチーム				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	『現代社会学』、『教育社会学』、『地域との協働Ａ』、『まなぶる▸ときわびとⅠ・Ⅱ（キャリア基礎）』、『安全学』、『教育と人間』、『学びの基礎』				
担当科目コマ数	6.33				

本年度の課題
授業数の増加及び教育方法の多様化（対面＆online、チームティーチング等）や、外部研究資金獲得による研究エフォート拡大等で業務量の大幅増加が見込まれるため、業務の効率化をはかる。
本年度の目標
現在の業務内容や方法の見直しを行い、業務効率化のための環境整備（電子化・ICT化による場所に依存しないワークフローの構築等）を目指す。
主な活動内容
1）教育活動 oneline授業が2年目となったため、1年目の知見を元に授業改善を進めた。また、onlineと対面授業のブレンディッド授業の検討と実践を行うともに、他の教員のサポートも行った。 2）研究活動 研究テーマ：学士課程における防災教育 研究の現状：主に、科研費（区分：高等教育／基盤C／代表）採択1年目の基礎研究（文献・データ収集）を行った。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（ 1回 ※代表のみ ）　論文（　　編）　著書（　　冊）

3）社会的活動等 なし
今後の課題
・次年度、大学として online 授業の取り組みが縮小される見込みであるため、過去 2 年の online 授業に関する知見の維持発展や、それに伴う ICT を活用した教育方法の検討が課題である。 ・教育活動と研究活動、その他の活動とのエフォート配分の適正化が課題である。

個人年間活動報告書

教員名	氏橋貴子	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	個人情報保護委員会、国家試験対策委員会、就職委員会 地域交流センターA地域貢献事業部				
クラス担任	３年生	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科診療補助演習ⅠⅡⅢ　キャリア基礎　まなぶる▸ときわびとⅠ 学びの基礎　口腔保健特論Ⅱ　診療補助実習Ⅰ 地域口腔保健支援実習Ⅱ				
担当科目コマ数	14.90				
本年度の課題					
歯科診療補助演習Ⅰでは事前学習や事後レポートを課すことによって、国家試験を見据えた知識力を強化することが出来た。コロナ禍でも感染防止対策を徹底し、安全年間活動表に充実した演習を実施することが出来た。本年度もこれを継続する。					
本年度の目標					
本年度までは歯科診療補助演習として歯科材料の取り扱いについて指導してきたが、４年制移行に伴い、今年度は新たに「歯科理工学」という歯科材料そのものの特性・特質を理解する演習を担当する。少し難解で敬遠されがちである「理工学」を分かりやすく伝えるためには、歯科の材料を①実際に目で見て、②手で触れて、③頭で考えることを繰り返す必要があると考える。他科目とも連携し、①②③を組み込んだ演習を行う。					
主な活動内容					
1）教育活動 昨年度の歯科診療補助演習Ⅰでは、教本中心に演習を進めていたが、本年度はスライドで表や図を使用し、視覚的に提示したところ、理解度が高まり、授業評価でも高評価を得ることができた。 2）研究活動 研究テーマ：地域在住高齢者における咀嚼行動と身体機能の関連性 研究の現状：昨年度はコロナ禍の影響と対象者が高齢者であることから、測定会が開催出来なかったが、今年度は測定会を１回開催した。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照					

学会発表（　　回）　論文（　　編）　著書（　　冊） 3）社会的活動等 KIT歯科相談会（R3.6/9・10/8）もとろく歯科相談会（R3.7/7・9/8・12/3） ノエスタ歯科相談会（R3.11/19）　、咀嚼学会健康咀嚼指導士取得（第1705号） TOCFL華語文能力測験進階級取得（第OL11102063号）、 歯科医療事務管理士取得（第2021090097号）、高大連携授業担当
今後の課題
口腔保健学科４年制移行に伴い新しい科目が始まるが、他の科目と上手く連携が取れているかどうかを常に念頭に置き、進めていく必要がある。

個人年間活動報告書

教員名	浅枝　麻夢可	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	図書・紀要委員会委員、入試委員会委員、合否判定部会委員、すこラボ（健康生活研究所）委員				
クラス担任	２年生Ｂクラス担任	クラブ顧問	なし		
担当科目名	歯科衛生過程Ⅰ、歯科衛生過程Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅰ、歯科保健指導演習Ⅱ、歯科保健指導演習Ⅲ、歯科保健指導演習Ⅳ、口腔保健特論Ⅱ、地域口腔保健支援実習Ⅱ、学びの基礎				
担当科目コマ数	9.93				
本年度の課題					
・学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業の検討 ・外部研究資金の獲得　　・学位取得に向けての活動　　・研究活動の継続					
本年度の目標					
・研究成果の公表　・授業前後の学修やレポート内容および添削、評価方法の改善					
主な活動内容					
1）教育活動 昨年度に引き続き遠隔授業が多かったが、GoogleやYouTubeを駆使して、対面授業と遜色無い質を提供できるよう努めた。レポート課題は毎回、個別添削を行い、全員が一定レベルに達するまで指導を行った。 2）研究活動 研究テーマ：①大規模コホート研究における現在歯数と栄養素摂取との関連 ②大学新入生の口腔内状況や口腔保健への意識に関する調査 ③おロぽかん（口唇閉鎖力の低下）が幼児の成長発達に与える影響 ④ウェアラブル咀嚼回数測定装置を利用した咀嚼指導方法の開発 研究の現状：①-③学会発表済（2nd World Dysphagia Summit、 日本歯科衛生学会第16回学術大会、第29回日本健康体力栄養学会） ③科学研究費 基盤研究(C)採択（研究分担者）、					

④口腔保健学科学生を対象にデータ収集中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　7　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等
歯ッピー相談会、公開講座（神戸常盤地域交流センター、神戸常盤女子高等学校）

今後の課題

・学生が主体的に学修し、考える力を育むための授業（講義・演習）の検討
・外部研究資金の獲得　・学位取得に向けての活動　・研究活動の継続

個人年間活動報告書

教員名	川野　亜希	所属学科等	口腔保健学科	職名	助教
委嘱委員・職務	教務委員、国家試験対策委員				
クラス担任	1年Ａクラス	クラブ顧問	なし		
担当科目名	病原微生物学・免疫学、口腔衛生学、生化学・栄養学、オーラルリハビリテーション演習、地域口腔保健支援実習Ⅱ、口腔保健特論Ⅰ、キャリア基礎、まなぶる▸ときわびとⅠ				
担当科目コマ数	3.90				

本年度の課題

・科研費採択課題の研究遂行に努める.
・研究成果の発表を積極的に行う.
・学生の理解力向上に貢献できる授業を展開する.

本年度の目標

・科研費獲得課題および学科単位での研究成果公表に努める.
・学生が能動的に学修出来る環境づくりに努める.

主な活動内容

1）教育活動
対面講義と遠隔講義の並行に伴って、講義科目では視覚的にも分かりやすい資料作成と配信に取り組んだ。基盤教育科目や演習科目では、感染対策を十分に講じた上で対面実施とした．結果的に学生の理解向上に繋がり、高い授業評価を得ることが出来た。

2）研究活動
研究テーマ：
①歯周病原細菌が誘発する炎症応答におけるフラボノイドの作用機序解明
②大学新入学生の口腔健康状態および口腔保健に対する意識との関連性
研究の現状：
①科研費獲得後、試料を揃えてサンプル回収中である。随時解析を行う。
②令和3年度の結果は学会にて公表した。今後データを蓄積して学術論文として公表す

る予定である。 本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照 学会発表（　2　回）　論文（共著　1　編）　著書（　0　冊） 3）社会的活動等 ・地域子育て支援施設 KIT、ときわんモトロク、ときわんノエスタにおける歯科相談会に携わった.
今後の課題
・教育とのバランスを考慮しながら、研究遂行に努める. ・積極的な研究成果発表を行う.

個人年間活動報告書

教員名	金川　治美	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員　自己点検評価委員（副委員長） 臨地実習委員　短大認証評価準備委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	成人看護学概論、成人援助論、成人看護学演習、成人看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数　２１０時間				

本年度の課題

- 今年度実施した遠隔授業で明確になった問題点の改善を図り、学生の学習成果を向上させる。
- 修業年限短縮の検討に伴い、看護師 2 年生課程（通信制）における教育の在り方で「技術経験と判断力」の経時的変化を教育内容に還元する。（継続）

本年度の目標

- 学生が学習到達目標を理解して効果的にルーブリック評価表を活用できる。
- 入学時と卒業時の学生の「技術経験と判断力」の変化を分析し、入学要件見直しの基礎資料とする。

主な活動内容

1）教育活動

今年度も昨年度に引き続き、対面授業と遠隔授業の併用で開講した。昨年度問題点となった部分の改善を図ったが、春期は動画の不手際があり授業評価では総合評価4.1と低迷した。紺の反省を踏まえ秋期スクーリングでの同内容の授業を改善した結果4.8と昨年よりも総合評価が向上した。遠隔授業は何度も見直しができるという利点がある反面、配信内容に不手際があると学生の混乱を招くため、利点を最大限に生かせるよう、配信内容の修正を行いたい。「学生自身」については、例年通り評価が低かった。春期スクーリングがすべて遠隔授業となったため、今期の学生に対してはモチベーションを維持できるよう声掛けをしていきたいと思う。

実習スクーリングでは、ルーブリック評価表を用いて学生による自己評価も実施した。遠隔スクーリング受講者は教員評価との差が大きい傾向は同様であった。

2）研究活動

研究テーマ：

１．「看護2年課程（通信制）」における教育の在り方の検討

２．「看護2年課程（通信制）」での教育の成果と社会的意義の検討

研究の現状：

１．看護師2年生課程（通信制）入学時の看護技術の習得実態の調査結果と卒業時の調査結果の比較、及び判断力との関係の分析から、この教育の課題を明確にする。今年度、研究活動は進んでいない。

２．全卒業生に対するアンケート調査実施の計画作成中

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

個人年間活動報告書

教員名	中野　順子	所属学科等	看護学科　通信制課程	職名	教授
委嘱委員・職務	通信教育委員、国際交流センター委員、自己点検浄化委員 臨地実習委員会（通信）委員長、				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護教育指導技術、看護管理、看護マネジメント演習				
担当科目コマ数	授業時間数　210時間				

本年度の課題

・遠隔授業の内容と方法を学生に理解しやすいように改善する。
・ルーブリック評価の活用を図り、実習目標達成への手がかりとする。
・在宅でのヒヤリ・ハットに関して研究成果の投稿にチャレンジする

本年度の目標

・遠隔授業内容を、学生が理解しやすいよう修正し、提出物の改善を図る。
・ルーブリック評価の内容の説明を細やかにし、実習目標達成に向けて取り組む。
・昨年より引き続き、研究成果の雑誌への投稿を目指す。

主な活動内容

1）教育活動
・遠隔授業では実習スクーリングについて検討を加え、提示する資料と提出物の改善を図った。学生からの明確な反応の確認は今後の課題であると考える。
・ルーブリック評価内容を対面では丁寧に説明し、実習目標の理解と達成度の向上を図った。遠隔においては、学生の理解度が得にくい結果であった。
・雑誌への投稿は引き続きの課題とした。
2）研究活動
研究テーマ：在宅における訪問看護師のヒヤリ・ハット体験の実態調査と分析
研究の現状：上記報告を冊子にまとめた物を投稿への準備を進めている。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）
3）社会的活動等
ユニセフ、国境なき医師団、UNHCR 協会への援助

今後の課題

・対面、遠隔授業の双方の学習内容、方法をテキスト変更に伴い、修正を図る。
・ヒヤリ・ハット体験の研究成果の投稿を引き続き図る。
・通信における**教育成果のアウトプットの資料として、全卒業生に対する調査実施の準備を始める。**

個人年間活動報告書

教員名	丸岡洋子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	広報委員、CCN-臨地実習委員会委員・通信教育委員会委員・教務委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	看護学概論、看護過程、看護過程演習、基礎看護学演習、基礎看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数　210時間				

本年度の課題

①学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を計画的に進める。特に新入生及び、リモート対応の学生への個別学習指導がチューターを通して円滑に進めることができるようサポートする。
②遠隔授業に対応できる学習方法、教材の工夫

本年度の目標

1. 学生個々の学習状況を踏まえた学習サポートを行う
2. 学生が自身の成長を実感できる授業方法、教材の検討

主な活動内容

1）教育活動
目標１：チューターへの働きかけを通して、学生の学習相談、学習進捗状況を踏まえた学習指導、臨地実習の履修や卒業に向けての学習指導を密に実施することができた。次年度入学生をもって課程を閉じるため、学習活動を順調に進められるよう指導を行った。
目標２：遠隔授業に限定せず、効果的な教材に向けて取り組んだ。遠隔授業の教材については、動画やペーパー教材による一方向の学習方法であるため、各自が取り組む際に戸惑うことのないように資料作成に工夫をした。
2）研究活動
研究テーマ：通信制課程学生の日常生活援助における科学的根拠と個別性の理解の変化
研究の現状：学生の学習効果を基に、本年度の学習方法を一部変更した。その結果を評価中
　学会発表（　０　回）　論文（　０　編）　著書（　０　冊）
3）社会的活動等
・兵庫県看護協会 教育企画委員
・兵庫県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師　看護教育課程（6 時間）
・丹波市立看護専門学校 非常勤講師　看護学概論（看護倫理 6 時間）

今後の課題

①学生が効果的に学習を進めていくための学習支援を進める。チューターとの連携をはかり、タイムリーな支援を進める。
②通信制課程の学生が、苦手意識の高い「看護過程」の学習への理解度を高めるための学習内容、授業展開、教材を再検討する。

個人年間活動報告書

教員名	山 岡 紀 子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	准教授
委嘱委員・職務	国家試験対策委員会CCN委員長、研究倫理委員、臨地実習委員、通信教育委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	小児看護学概論、小児援助論、小児看護学演習、小児看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間数： 210時間				

本年度の課題

教育：実習の履修までに至らない学生の指導を強化する。
研究：研究活動を再開し、論文作成に着手する。

本年度の目標

教育：コロナ禍中でも学生の学習への影響を最小限にして、予定された教育を実践する。
研究：心身の負担が増大した保護者を支援し、コロナ収束後にデータ収集を再開する。

主な活動内容

1）教育活動
①テキスト科目：小児援助論・小児看護学演習のレポート添削、事後指導、学習相談。
②スクーリング科目：小児看護学概論（春期はWEBにて、秋期は対面にて実施）
小児看護学実習（対面実習スクーリング3日間×2回 ＋ WEBにて実施）
③チューター活動：担当学生の学修進捗確認や学習相談を電話にて実施。
④国家試験対策委員会活動：国試オリ、模試、講座、電話相談等（WEB実施含む）。
⇒昨年以上にコロナ対応に追われたが、WEBの活用等をしながら①～④について今年度実行可能な取り組みは実施できたため、目標はほぼ達成できたと考える。

2）研究活動
研究テーマ：極および超低出生体重児の18か月頃の行動と幼児期後期の発達特徴との関連の検討［平成30～32年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究代表者〈期間延長〉］
研究の現状：論文作成の準備完了
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
学会発表（ 1 回） 論文（ 0 編） 著書（ 0 冊）
⇒育児支援教室で、コロナ禍の影響を受けた親子の支援を感染防止に努めながら実施できた。その活動の合間にデータをまとめる等論文作成の準備を進めたが、目標とした本格的な論文作成への着手までには至らなかった。

3）社会的活動等
神戸市総合児童センターこべっこランド「極低出生体重児（1,500g 未満）と保護者のための子育て教室 YOYO クラブ」（今年度 10 回参加）

今後の課題

教育：小児看護学実習履修に向けた取り組みの更なる強化。
研究：科研費研究の論文を作成する。

個人年間活動報告書

教員名	小坂　素子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	ハラスメント防止対策委員会副委員長、個人情報保護委員会 通信教育委員会、臨地実習委員会、国家試験対策委員会				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	母性看護学概論、母性援助論、母性看護学演習、母性看護学実習				
担当科目コマ数	授業時間210時間				

本年度の課題

１．学生が興味を持ち理解しやすい授業展開の工夫をする必要がある。
２．チューターとして、学生の学習計画に沿った支援の計画を見直す必要がある。
３．研究に取り組むための目標計画を立てる必要がある。

本年度の目標

１、公開授業の聴講から得た学びを活かして、理解しやすい教材を作成する。
２、チューターの支援計画として、学生と対面できる機会を有効活用する。
３、活動状況から研究が可能な準備計画を立てる。

主な活動内容

１）教育活動

① Ｗｅｂ授業の概論・実習スクーリングでは、学生は自分の時間を上手く活用する事が出来た。テキスト修了試験やスクーリング評価は対面授業と比べて遜色なかった。実習記録は、直接指導ができなかった為、個人差が大きかった。

② 面接授業の実習スクーリングでは、実習出来た学生と実習できなかった学生との混合のグループ編成により学びを深めることができた。

2）研究活動

研究テーマ：短期大学看護学科２年課程（通信制）における母性看護学臨地実習
グループワークでの学生の気づきと学び　－記録内容から―

研究の現状：学生の気づきと学びを記録から整理を行っている途中である。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　0回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

西宮市助産師会：会員として、地域活動に関わっている。

姫路赤十字看護専門学校：「マタニティサイクルにある人々の看護」　講師

今後の課題

１．理解しやすい教材の作成の為、公開授業の聴講から得た学び以外にも機器の活用などを駆使できるようにしたい。
２．チューターとして、学生の状況に応じた学習効果が上がる支援を行いたい。
３．研究活動が進捗していないので、今年こそ取り組むことが出来るようにしたい。

個人年間活動報告書

教員名	松原　渉	所属学科等	通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	入試委員会、危機管理（災害）委員会、看護学科通信制課程　臨地実習委員会、通信教育委員会				
クラス担任		クラブ顧問			
担当科目名	精神看護学				
担当科目コマ数	授業時間数210時間				

本年度の課題

・授業の配布資料を改善しわかりやすい授業展開に努める。
・研究テーマを論文にまとめて投稿することができる。

本年度の目標

・教育活動における授業内容を精選するとともに授業方法の工夫をおこなう
・論文を紀要に投稿することができる

主な活動内容

1）教育活動

昨年度に引き続きコロナ禍の中、やむを得ず、精神看護学概論や精神看護学実習スクーリングがリモートに変更となる場合もあったが、動画や配布資料を作成することができ、なんとか特例の補完授業の対応ができた。しかし、相変わらず「話すスピードが速い」「わかりづらい」という評価であった。理由の一つは授業方法に問題があったと考える。今後も謙虚に学生評価を受け止め研鑽を深めていきたい。

2）研究活動

研究テーマ：

① 言葉の暴力を受けた精神科看護師の感情体験と対応に関する実態の分析

② 成人期前期と成人期中期にある 2 年課程（通信制）看護学生の生活状況における特徴の比較検討

研究の現状：神戸常盤大学紀要15号掲載

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　　0　回）　論文（　　2編）　著書（　　0冊）

3）社会的活動等

兵庫県看護協会神戸西部支部教育委員会委員として研修会の企画等に参与する。

今後の課題

・対面授業では学生の反応を見ながら話すスピードをゆっくりと展開することができる
・論文をまとめ投稿することができる。

個人年間活動報告書

教員名	西森有理子	所属学科等	看護学科通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	図書紀要委員・通信教育委員・CCN臨地実習委員・CCN教務委員				
クラス担任	なし	クラブ顧問	なし		
担当科目名	在宅看護概論、在宅援助論、在宅看護論演習、在宅看護論実習				
担当科目コマ数	授業時間数 210時間				

本年度の課題

1）わかりやすい授業の工夫に努める。
2）学生の状況を把握することに努め、学修の節目に応じた学習支援を実施する。
3）委嘱された委員会での責務を果たす。

本年度の目標

1）スクーリング講義資料を工夫する。国家試験対策につながる資料の工夫
2）チューターの役割を果たし、学生が課題を達成できるよう支援する。
3）委嘱された委員会での責務を果たす。

主な活動内容

1）教育活動

目標1）概論スクーリングは全てリモートでの授業となったため、各テーマ別にDVDを活用し、また教員の体験を伝えるなど在宅看護がイメージできるよう努めた。テーマ毎に関連した国家試験過去問を紹介し、出題基準（在宅看護論部門）の説明も加えた。教育改善では、公開授業を3回見学した。グループワークの方法や到達目標への導き方など貴重な学びであった。

目標2）昨年度の反省点を活かし、担当学生への連絡を各節目で実施した。レポートの提出状況、テキスト修了試験の状況を把握し連絡をとるようにした。担当した1年生は21名であり、全員が基礎看護学実習・看護マネジメント実習に進めた。また2年生22名のうち卒業できた学生18名、次年度在籍する学生1名、退学2名、除籍１名、国家試験合格者は、18名中14名であり、昨年度より比率は増えたが課題も残した。

目標3）委嘱委員・CCN内の職務（教務委員・入試委員会の補助業務）を果たせるよう努めた。教務委員として学修状況を把握し困難学生の対応に努めた。

2）研究活動

研究テーマ：教材研究－通信制課程学生の在宅死に対する看護の役割認識の変容
研究の現状：2021年度受講した学生のレポートを整理中
本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照
　学会発表（　0 回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

・ ひとり親支援「ゆったりホーム」ボランティア　・ ユニセフマンスリーサポート

今後の課題

1)わかりやすい授業の工夫に努める。
2)委嘱された委員会、CCN での委員、チューターの責務を果たす。
3)共同研究の今年度目標を達成する。

個人年間活動報告書

教員名	川邊　玲子	所属学科等	看護学科　通信制課程	職名	講師
委嘱委員・職務	SD委員会　臨地実習委員副委員長				
クラス担任	なし	クラブ顧問	硬式テニス		
担当科目名	老年看護学概論　老年援助論　老年看護学演習　老年看護学実習				
担当科目コマ数	210時間				

本年度の課題

1.　遠隔授業を含め、対面授業での理解度を高めるため教材・資料作成を充実させる。
2.　学生の学習意欲が高まるよう、指導方法を検討する。
3.　臨地実習委員会業務においての発言・提案、連携と作業効率の向上

本年度の目標

1.　授業教材・資料作成にあたり自己研鑽と知識・技術の向上のための学びを深める
2.　学生の特性を考慮した個別指導と、学生のモチベーション向上。
3.　SD 委員会、臨地実習委員会副委員長としての職務を果たす。

主な活動内容

1）教育活動

目標1：授業評価をもとに、前年度の資料の改善を図り、対面及び遠隔授業を実施した。学生の声を参考に、話し方や授業内容のボリュームなどはある程度改善できた。理解度を高めるためには、学生の反応から経験の引用が効果的であり、学生を学習に引き込むための工夫と、わかりやすい資料の作製を行う。

目標２：学生の特性として、仕事を持ちながら学習するスタンスであり、学習時間の確保や相談・質問がしにくい環境であることを鑑み、学生へのアプローチとして、電話やメッセージで励まし、悩みを聴くことが、意欲の向上につながると考える。

目標３：臨地実習委員会副委員長として、委員長との連携を図りながら職務を行使してきた。学生への対応、委員業務を遂行できるよう今後も連携を図りながら活動する。

SD委員会では、学内全体研修での補助、課程内研修においては、研修計画と実施

2）研究活動

研究テーマ：認知症高齢者に対するコミュニケーションのあり方

研究の現状：資料や文献を参考に方向性を模索中である。

本年度の研究業績：詳細は「リサーチマップ」を参照

学会発表（　0　回）　論文（　0　編）　著書（　0　冊）

3）社会的活動等

奈良県救急安心センター　顧問　（研修・指導）

今後の課題

1.　理解度を高められる教材と資料の工夫
2.　学生の学習意欲を向上するべくアプローチの工夫
3.　委託された委員会での職務を円滑に果たせるよう工夫する